
川西町
第10次高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画
策定のための在宅介護実態調査報告書

令和5年3月

川西町

目 次

第1編 調査の概要.....	1
1 調査の概要.....	1
2 調査期間.....	1
3 対象者.....	1
4 調査方法と回収数.....	1
5 留意点.....	1
6 用語の定義.....	2
第2編 単純集計結果.....	3
1 基本属性(要介護認定データ).....	3
2 基本調査項目.....	8
3 主な介護者用の調査項目.....	17
第3編 クロス集計結果.....	20
1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討.....	20
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討.....	41
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討.....	58
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討.....	69
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討.....	78
6 サービス未利用の理由など.....	84
第4編 調査票.....	99

第1編 調査の概要

1 調査の概要

「在宅介護実態調査」では、「高齢者の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的とし、町内の要介護高齢者の介護者を対象に、本人や介護者の生活状況や施策ニーズをお伺いし、計画の策定にあたっての基礎資料とするために実施しました。

2 調査期間

令和4年9月1日～令和5年1月31日

3 対象者

在宅で生活している要支援・要介護認定を受けている方のうち、「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」をされた方

4 調査方法と回収数

対象者が要介護認定の訪問調査を受ける際に、認定調査員が、主として認定調査の概況調査の内容を質問しながら、本調査の調査票に関連内容を転記する方法で調査を行いました。主な介護者が認定調査に同席している場合は、主な介護者からも聞き取りを行いました。

なお、認定調査データと関連付けた分析を行うため、回答票には調査対象者の「被保険者番号」を記載しました。

●調査票の回収数：71票

5 留意点

◇本調査における要介護者本人の基本属性は、町で保有する要介護認定データをもとに、厚生労働省が配布する「在宅介護実態調査自動集計ソフト」により照合を行い、把握しています。

◇設問には1つのみ答えるものと複数回答のものがあり、複数回答の設問では、表記の割合の合計は100%を超えます。

◇割合は選択肢ごとに小数第2位以下を四捨五入して小数第1位まで表記しているため、その割合の合計は100%にならないところがあります。

◇図表タイトルの「★」は、厚生労働省が必須調査項目とオプション調査項目に区分したもののうちのオプション調査項目であることを示しています。

◇今回の調査においては、町全体の傾向をみるには標本数が不十分である分析項目が含まれます。

◇今回の回収票71件の認定データのうち2件が突合不能、1件が一部のみ突合となっているため、項目によって母数が異なる場合があります。

6 用語の定義

■サービス利用の分析に用いた用語の定義

用語		定義
未利用		「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計
訪問系		(介護予防) 訪問介護、(介護予防) 訪問入浴介護、(介護予防) 訪問看護、(介護予防) 訪問リハビリテーション、(介護予防) 居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計
通所系		(介護予防) 通所介護、(介護予防) 通所リハビリテーション、(介護予防) 認知症対応型通所介護を「通所系」として集計
短期系		(介護予防) 短期入所生活介護、(介護予防) 短期入所療養介護を「短期系」として集計
その他	小規模多機能	(介護予防) 小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計
	看護多機能	看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計
	定期巡回	定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計

■サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義

用語		定義
未利用		上表に同じ
訪問系のみ		上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計
訪問系を含む組み合わせ		上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計
通所系・短期系のみ		上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」の利用を集計

■施設等の検討の状況に係る用語の定義

本集計・分析では、施設等検討の状況について、「入所・入居は検討していない（検討していない）」、「入所・入居を検討している（検討中）」、「すでに入所・入居申し込みをしている（申請済み）」の3つに分類して集計しています。

ここでの、施設等の定義については、調査票内において「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。」としています。

したがって、ここでの施設等とは、介護保険施設に限定するものではありません。

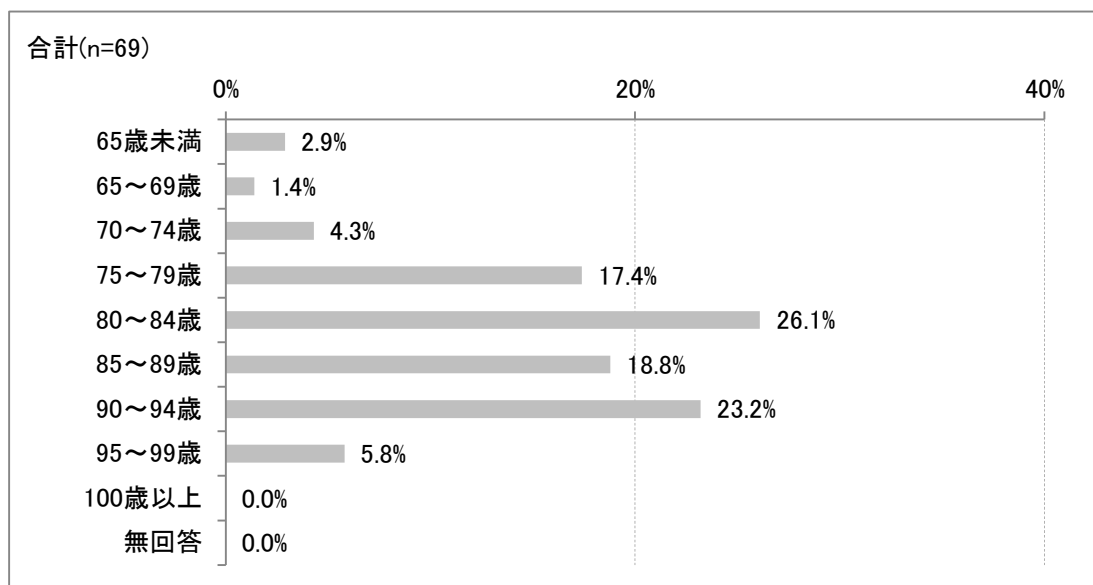
第2編 単純集計結果

1 基本属性（要介護認定データ）

(1) 年齢

80～84歳が一番高く26.1%、次いで90～94歳が23.2%で、80歳以上が全体の7割以上占めています。

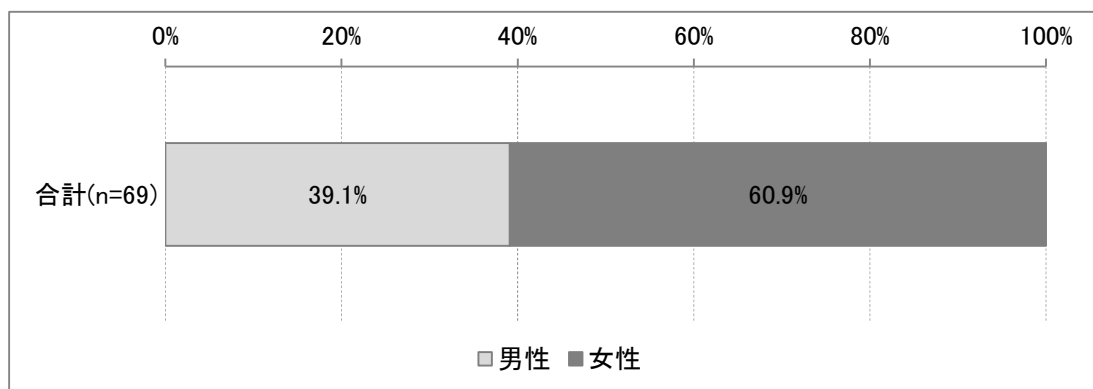
図表 1-1 年齢



(2) 性別

女性が60.9%、男性が39.1%となっています。

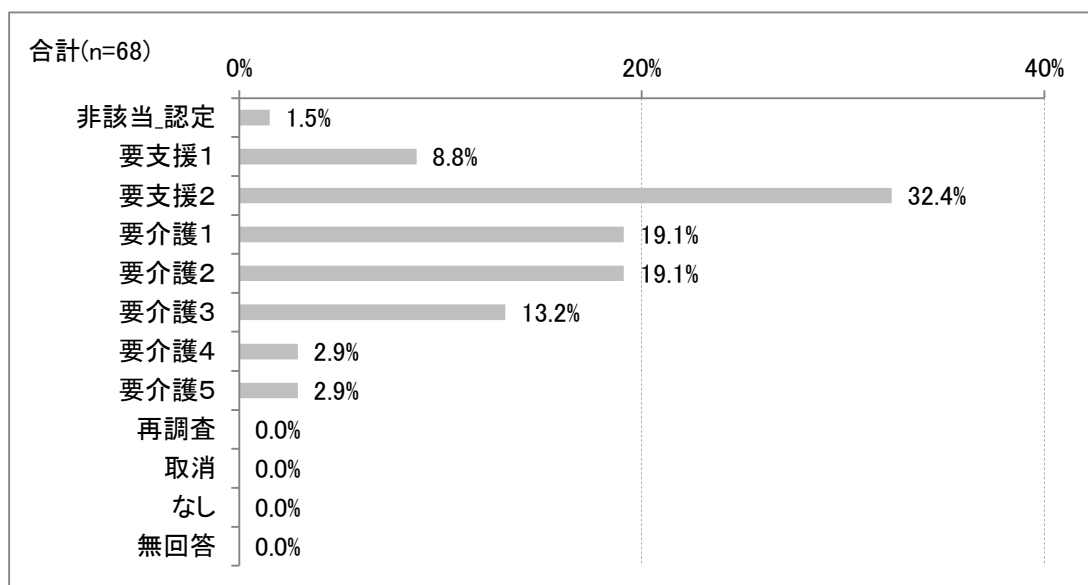
図表 1-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

二次判定結果では、要支援2が32.4%と一番高く、要支援1及び要支援2で約4割（28人）を占めています。

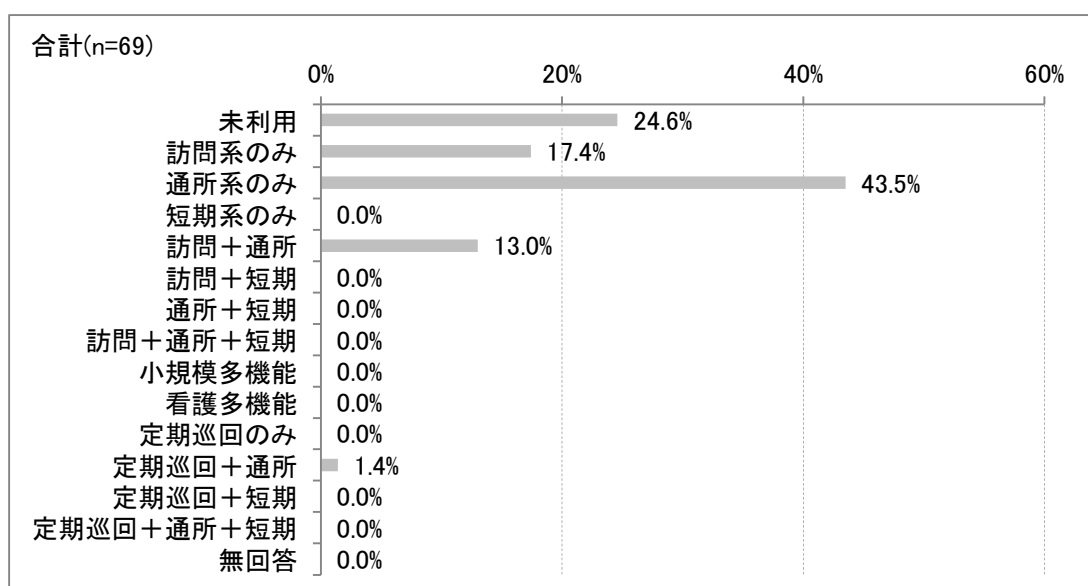
図表 1-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

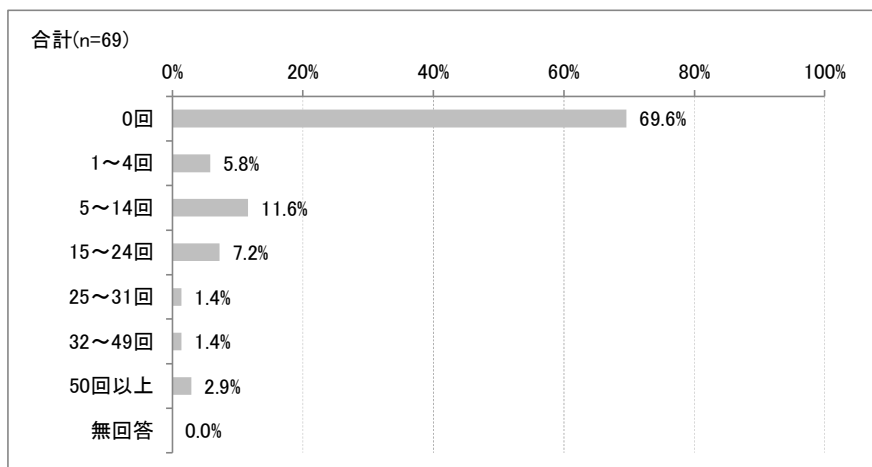
住宅改修、福祉用具貸与・購入を除く介護保険サービスの利用割合は、「通所系のみ」が43.5%、次いで「未利用」が24.6%となっており、回答者に要支援者が高いことが影響していると考えられます。

図表 1-4 サービス利用の組み合わせ



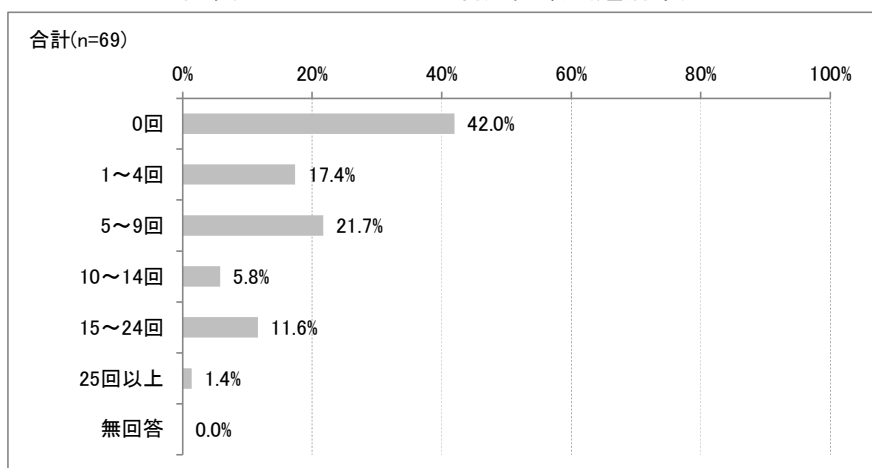
(5) 訪問系サービスの合計利用回数

図表 1-5 サービスの利用回数（訪問系）



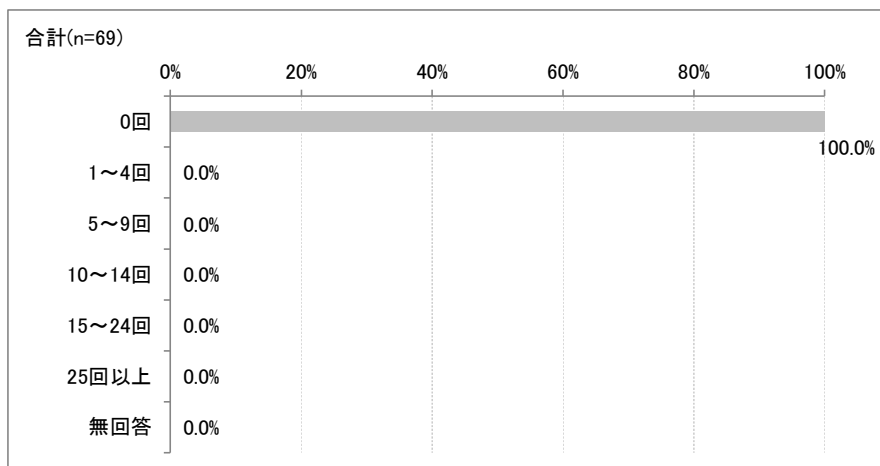
(6) 通所系サービスの合計利用回数

図表 1-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

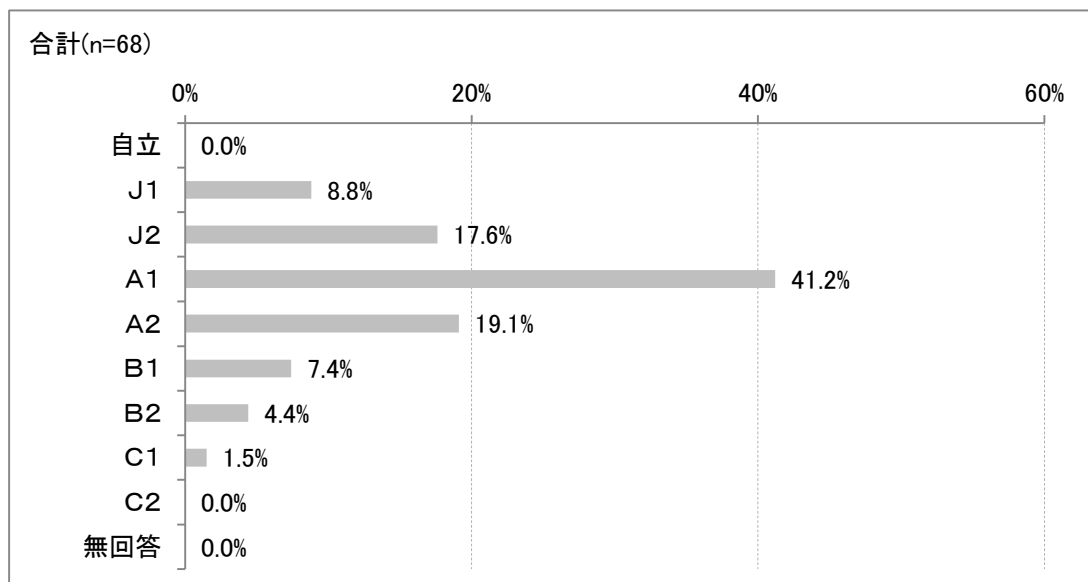
図表 1-7 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

障害高齢者の日常生活自立度^(※)は、「A1」が41.2%と最も高く、次いで、「A2」が19.1%となっています。

図表 1-8 障害高齢者の日常生活自立度



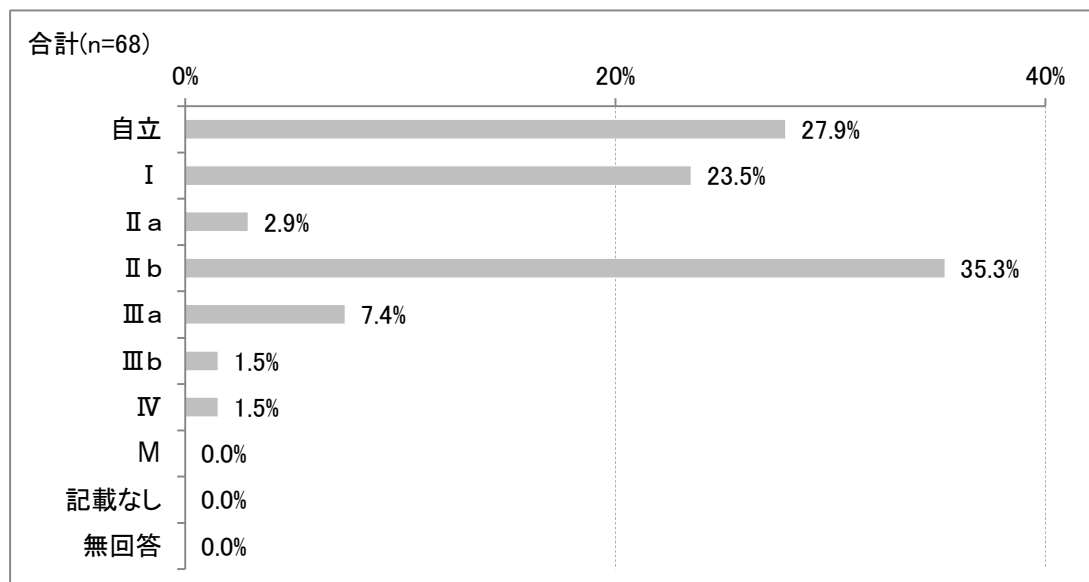
※ 障害高齢者の日常生活自立度（「寝たきり度」とも言われることがあります）とは、高齢者の日常生活自立度の程度を表すものです。ランクには、「J・A・B・C」の4段階があり、それぞれのランク内の状態によって、さらに1または2の2段階に区分しています。また、障害等を有していない方は「自立」となります。

生活自立	ランクJ	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1. 交通機関等を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランクA	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランクB	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車いすに移乗する
	ランクC	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうてない

(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度^(※)は、「Ⅱb」が35.3%と最も高く、次いで、「自立」が27.9%、「Ⅰ」が23.5%となっています。「自立」と「Ⅰ」(ほぼ自立)を合わせると、51.4%となります。

図表 1-9 認知症高齢者の日常生活自立度



※ 「認知症高齢者の日常生活自立度」とは、認知症の方にかかる介護の度合いや大変さをランクで分類したものです。ランクには「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・M」の5段階があります。また、認知症の症状が見られない方は「自立」となります。

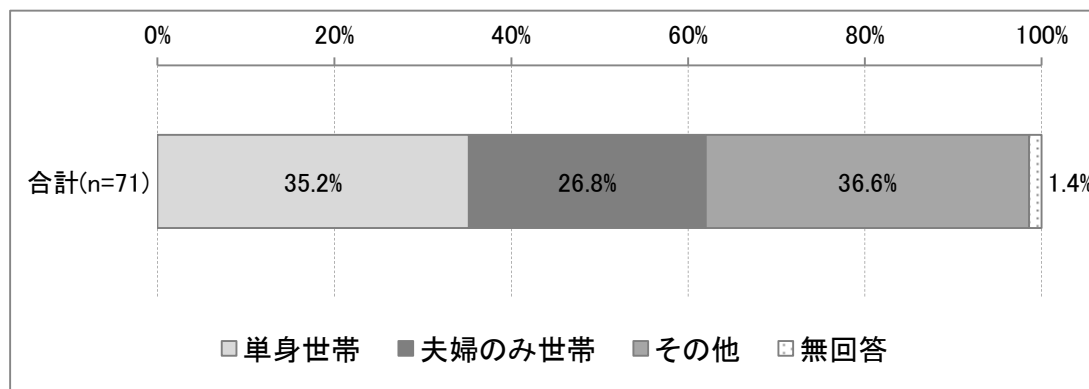
ランク	判断基準
Ⅰ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している
Ⅱ	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる a. 家庭外で上記の状態がみられる b. 家庭内でも上記の状態がみられる
Ⅲ	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする a. 日中を中心として上記の状態が見られる b. 夜間を中心として上記の状態が見られる
Ⅳ	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする

2 基本調査項目

(1) 世帯類型

「その他」が36.6%と最も高く、次いで、「単身世帯」(35.2%)、「夫婦のみ世帯」(26.8%)となっています。

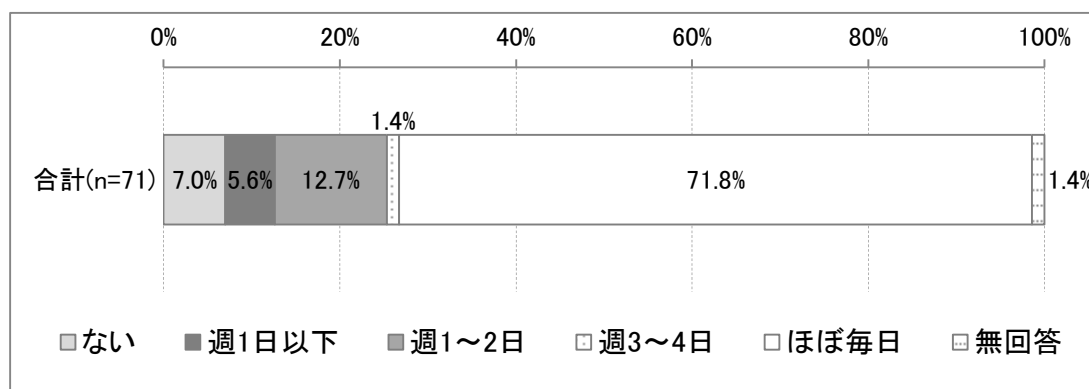
図表 2-1 世帯類型 (単数回答)



(2) 家族等による介護の頻度

家族等による何らかの介護を受けている方は、91.5% (65人) で、「ほぼ毎日」が71.8%と最も高く、次いで、「週1~2日」が12.7%、「週1回以下」が5.6%となっています。

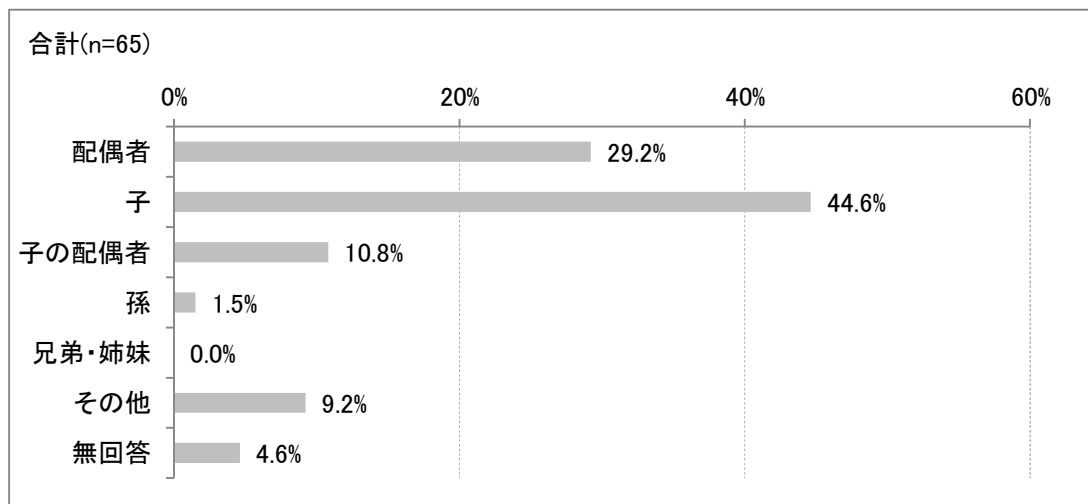
図表 2-2 家族等による介護の頻度 (単数回答)



(3) 主な介護者の本人との関係

介護者は、「子」が44.6%と最も高く、次いで、「配偶者」(29.2%)、「子の配偶者」(10.8%)の順となっています。

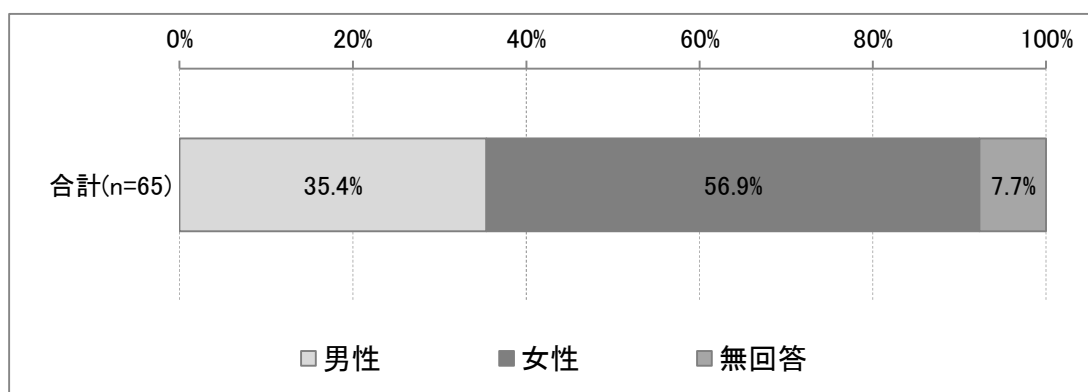
図表 2-3 ★主な介護者の本人との関係 (単数回答)



(4) 主な介護者の性別

介護者は、「女性」が56.9%、「男性」が35.4%となっています。

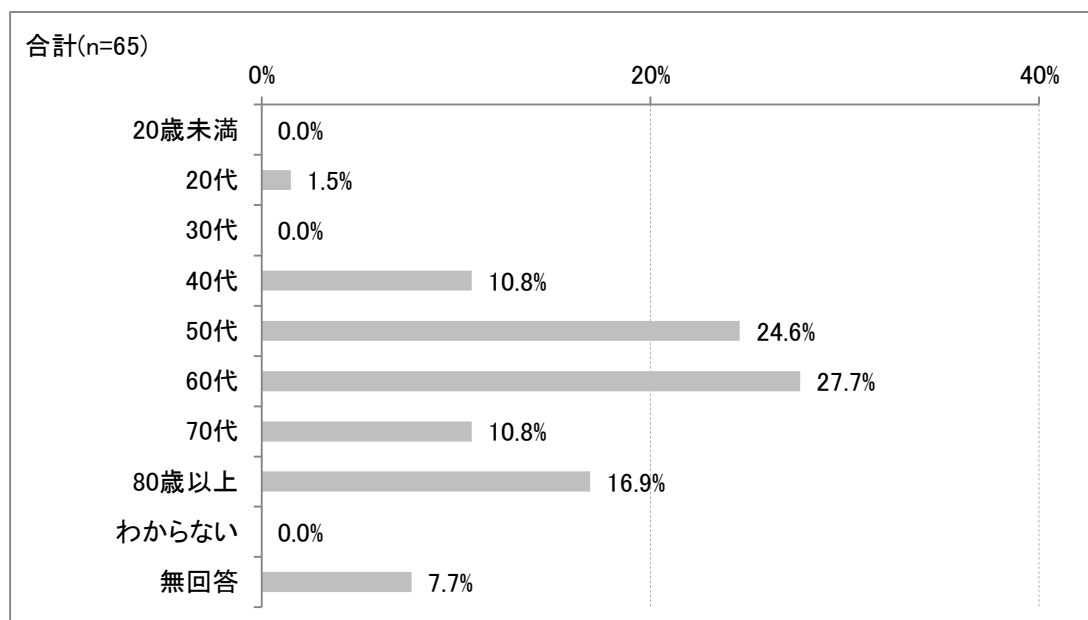
図表 2-4 ★主な介護者の性別 (単数回答)



(5) 主な介護者の年齢

主な介護者は、「60代」が27.7%と最も高く、次いで、「50代」が24.6%となっており、50代と60代を合わせると5割以上となっています。

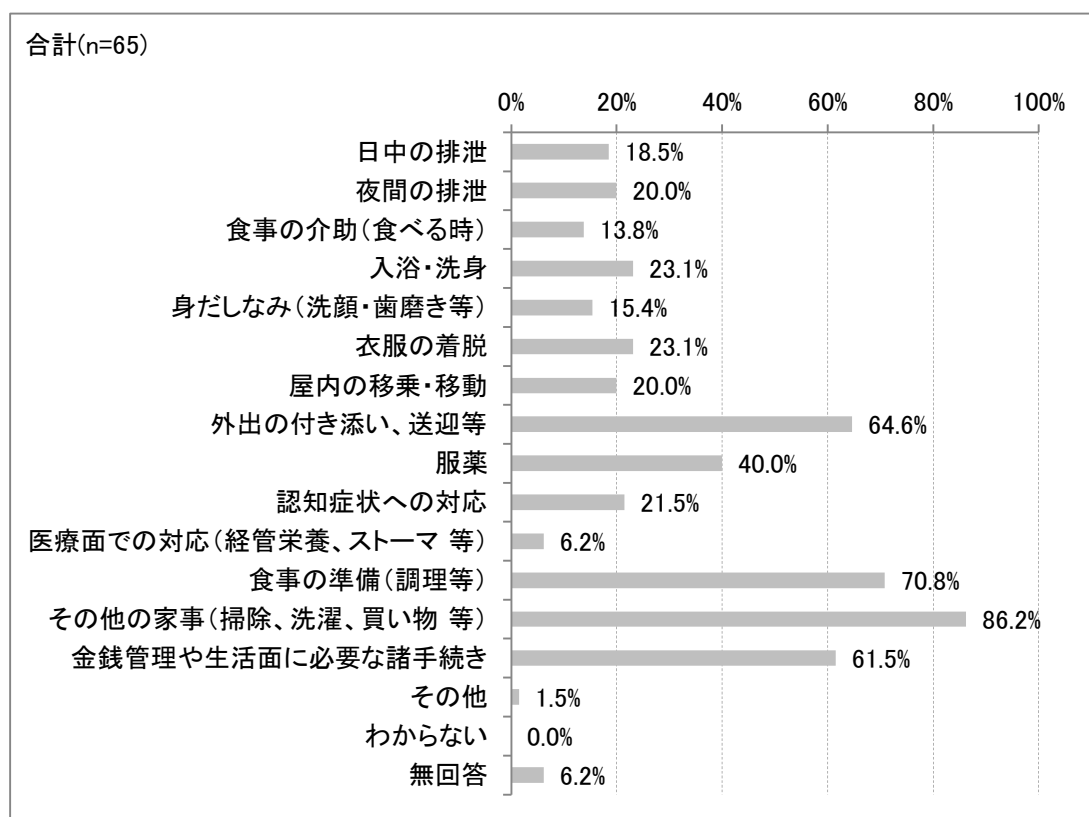
図表 2-5 主な介護者の年齢（単数回答）



(6) 主な介護者が行っている介護

主な介護者が行っている介護は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が86.2%と最も高く、次いで、「食事の準備（調理等）」（70.8%）、「外出の付き添い、送迎等」（64.6%）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（61.5%）となっており、これらの項目については、6割を超えています。

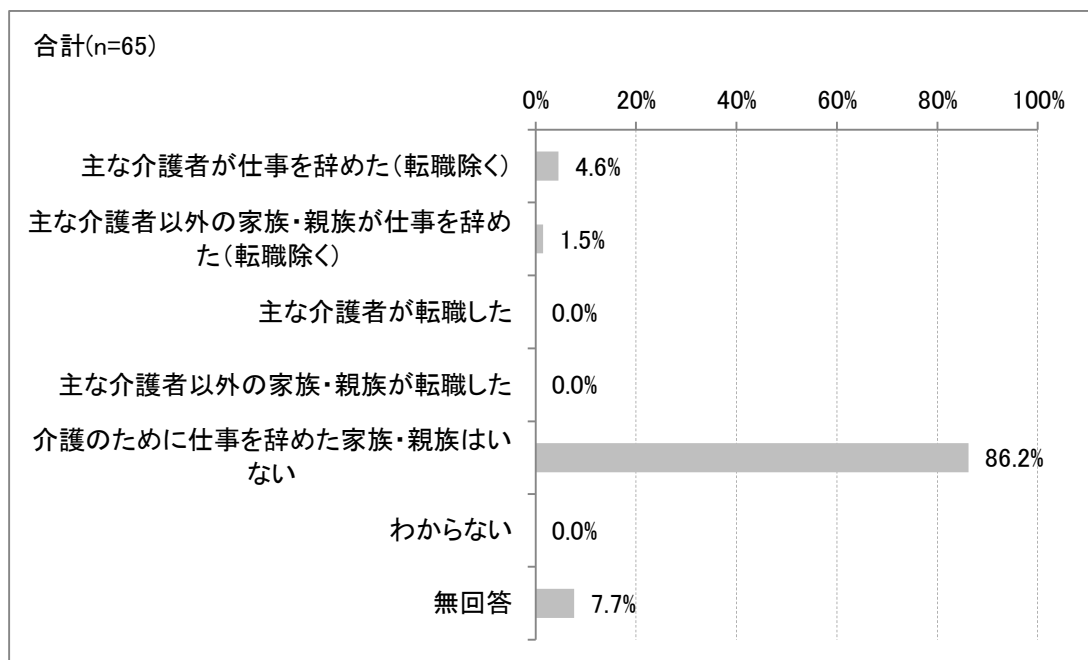
図表 2-6 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）



(7) 介護のための離職の有無

「介護のために、仕事を辞めた家族・親族はいない」が86.2%となっています。

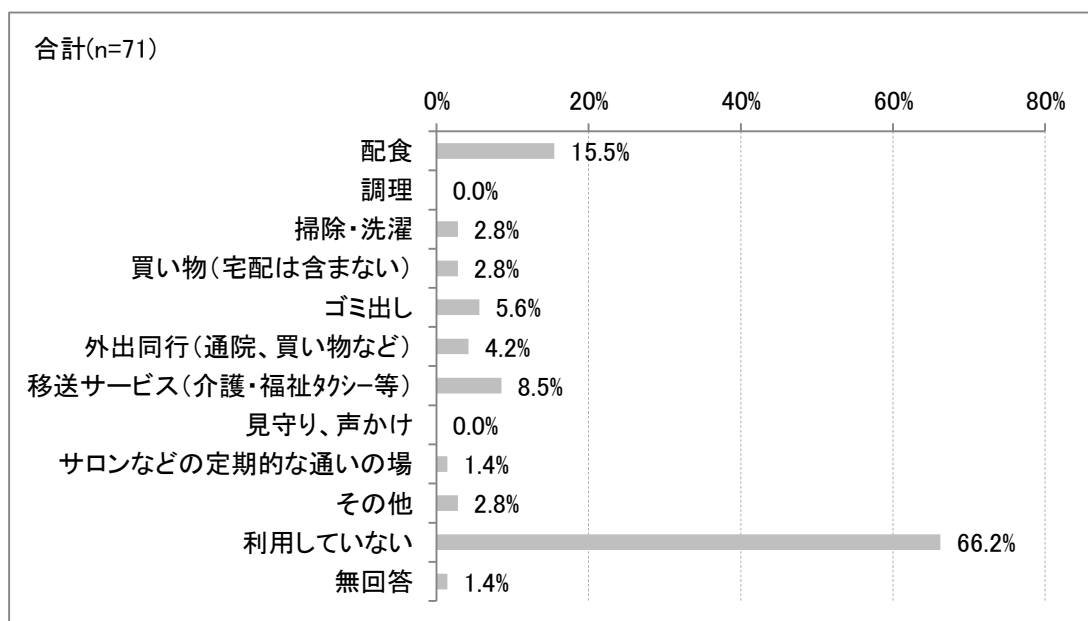
図表 2-7 介護のための離職の有無（複数回答）



(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」と回答した方が66.2%と最も高くなっています。利用の内容では、「配食」が15.5%と一番高く、次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（8.5%）、「ゴミ出し」（5.6%）の順となっています。

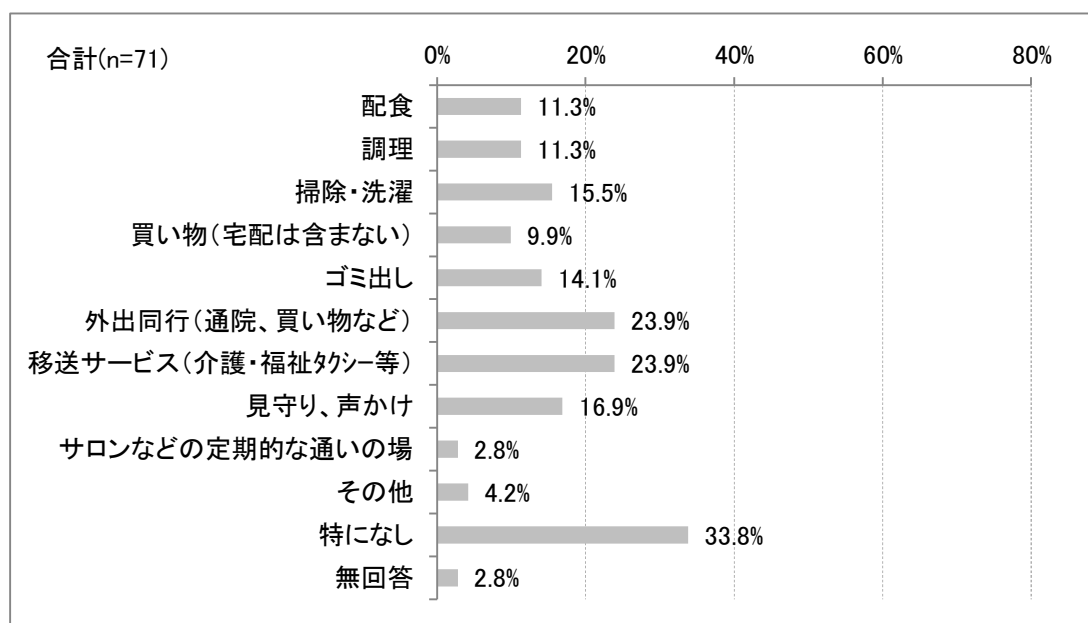
図表 2-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

充実が必要な支援・サービスでは、「特になし」と回答した方が 33.8%と最も高くなっています。また、「外出同行（通院、買い物など）」と「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」について、71人のうちそれぞれ17人が、充実が必要と考えている（図表 2-9）一方で、その利用者はそれぞれ3人、6人に留まっています（図表 2-8）。

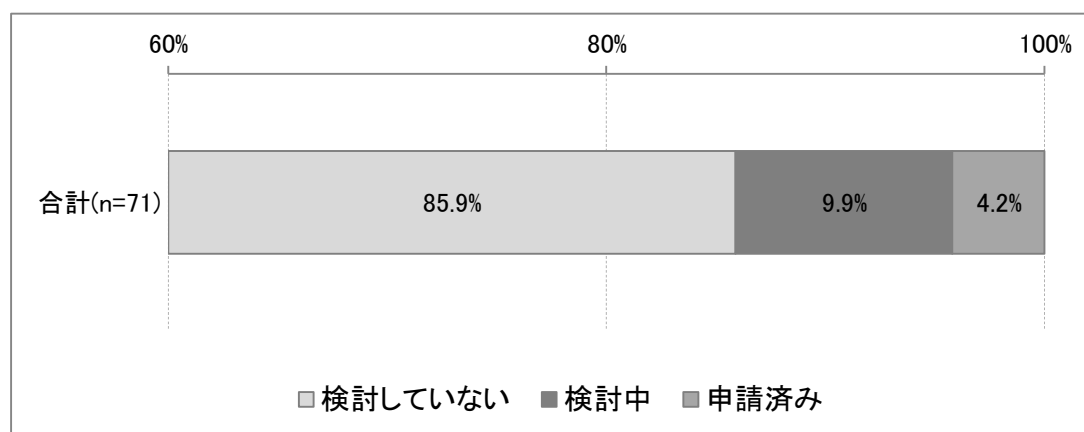
図表 2-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(10) 施設等検討の状況

入所・居住系施設の利用の検討状況について、「検討していない」が 85.9%と最も高く、次いで、「検討中」(9.9%)、「申請済み」(4.2%)となっています。

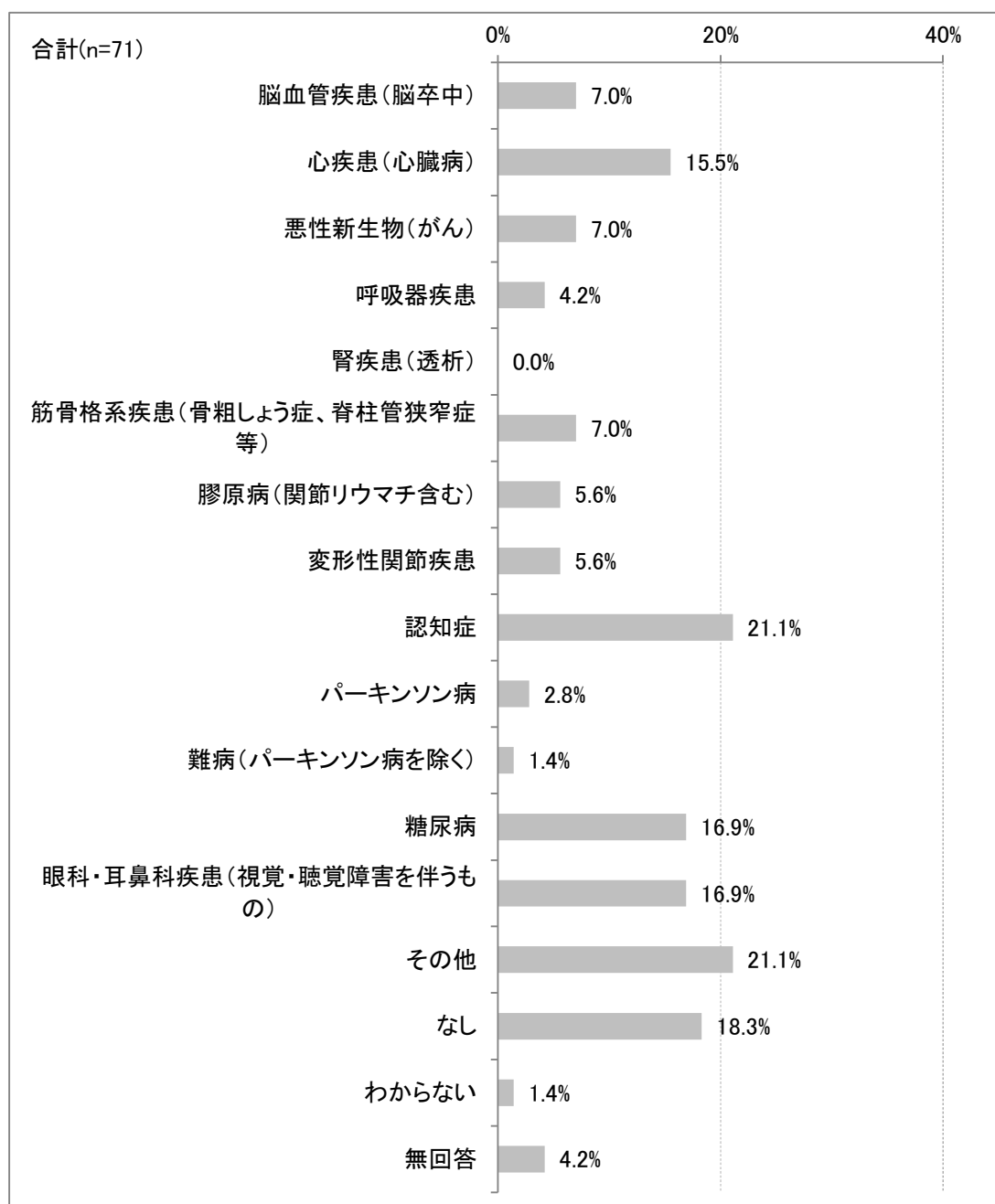
図表 2-10 施設等検討の状況（単数回答）



(11) 本人が抱えている傷病

本人が抱えている傷病は、「認知症」が21.1%と最も高く、次いで、「糖尿病」・「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」（16.9%）、「心疾患（心臓病）」（15.5%）の順となっています。また、「なし」が18.3%となっています。

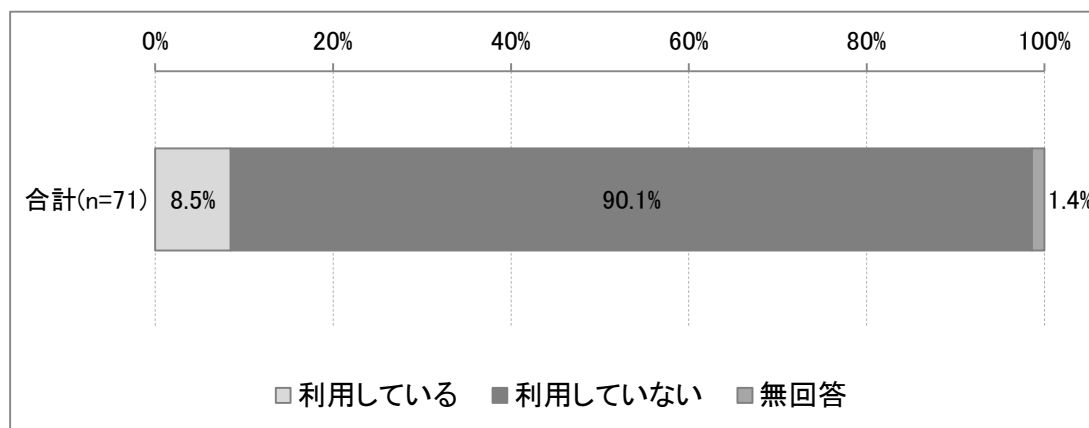
図表 2-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



(12) 訪問診療の利用の有無

訪問診療を利用している方は8.5%となっています。

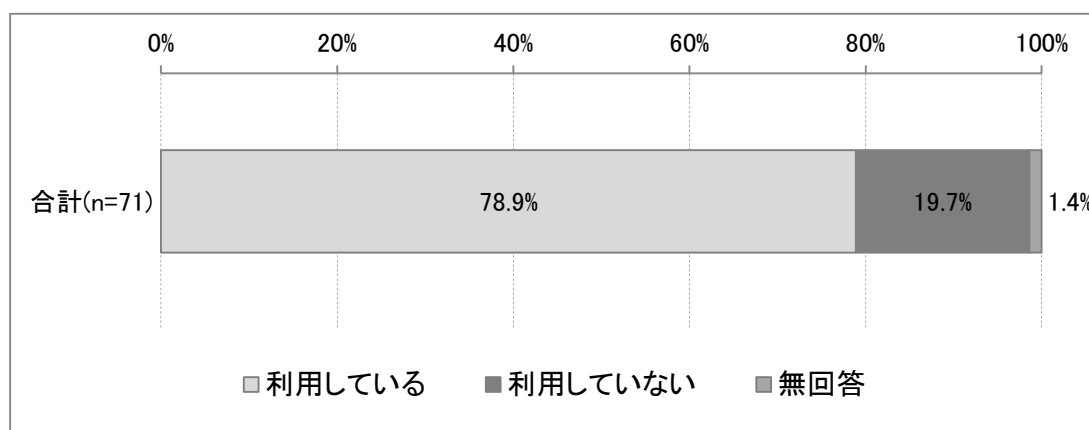
図表 2-12 ★訪問診療の利用の有無（単数回答）



(13) 介護保険サービスの利用の有無

住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスを利用している方は78.9%となっています。

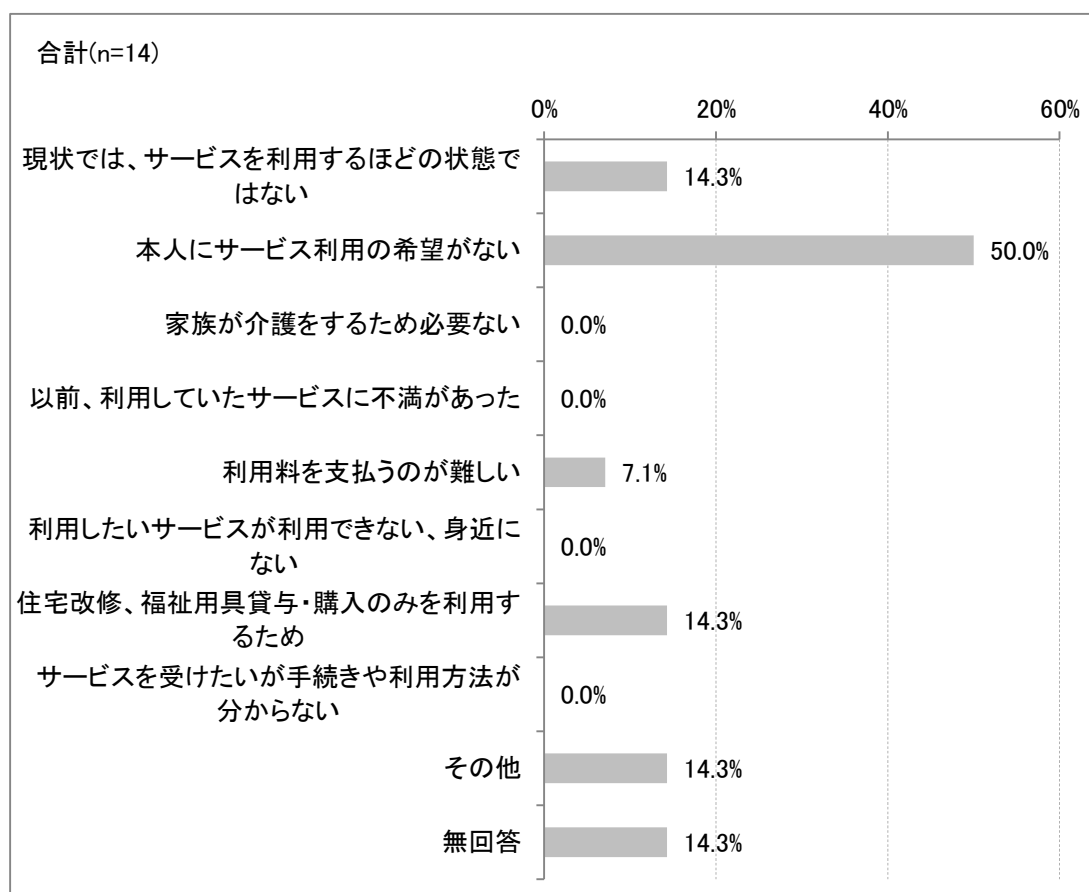
図表 2-13 ★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



(14) 介護保険サービス未利用の理由

介護保険サービス未利用の理由は、「本人にサービス利用の希望がない」が50.0%と最も高くなっていますが人数としては7人となっています。「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」はそれぞれ14.3%（2人）となっています。

図表 2-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

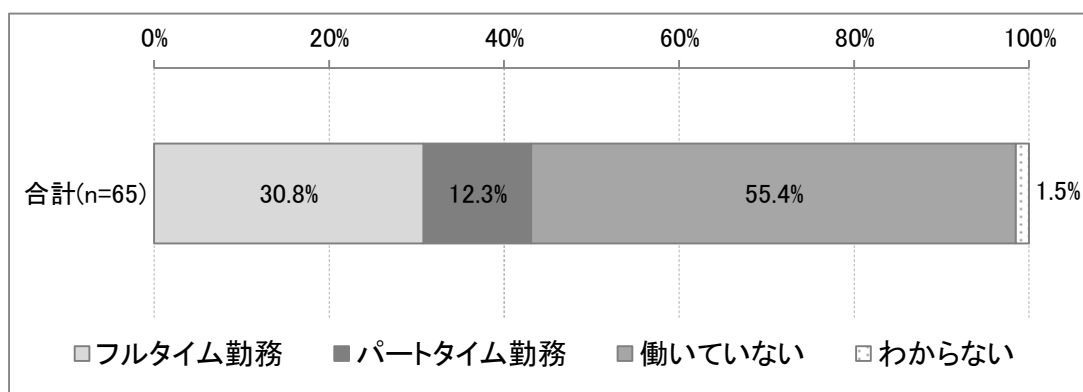


3 主な介護者用の調査項目

(1) 主な介護者の勤務形態

主な介護者のフルタイム勤務は30.8%、パートタイム勤務は12.3%で、あわせて4割程度(28人)が介護をしながら働いています。

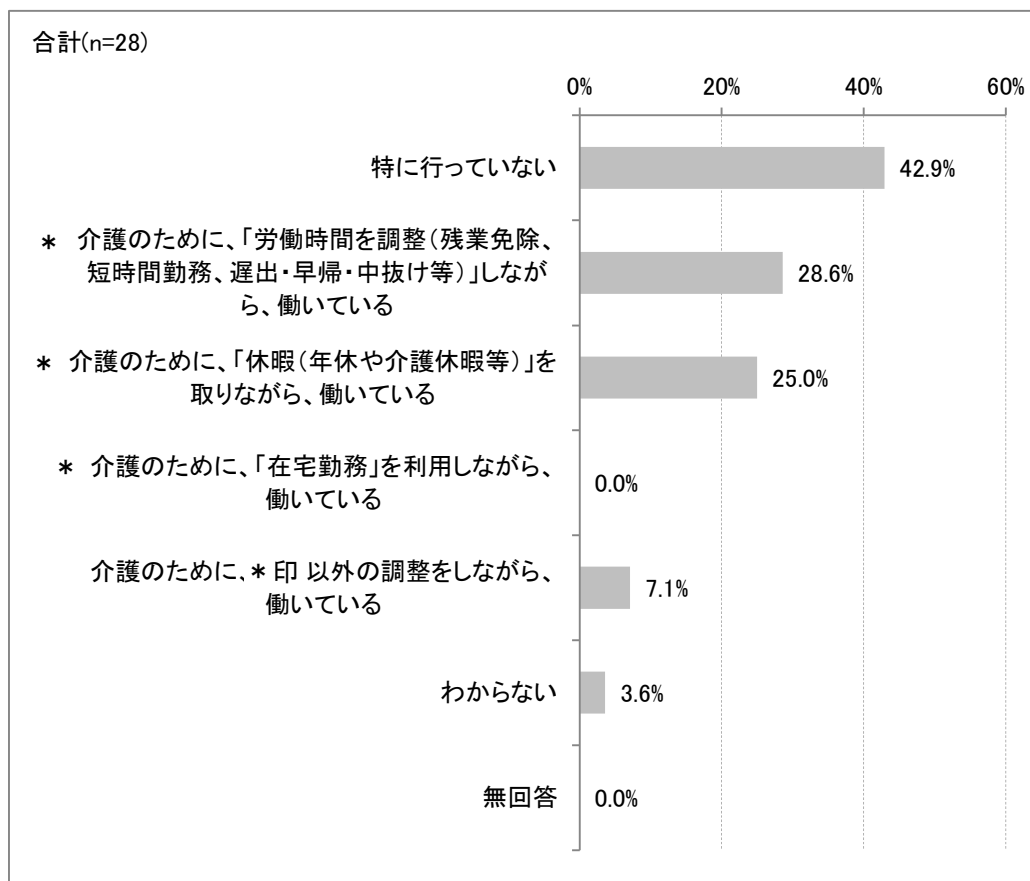
図表 3-1 主な介護者の勤務形態 (単数回答)



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

介護者が働き方の調整について、「特に行っていない」が42.9%となっています。

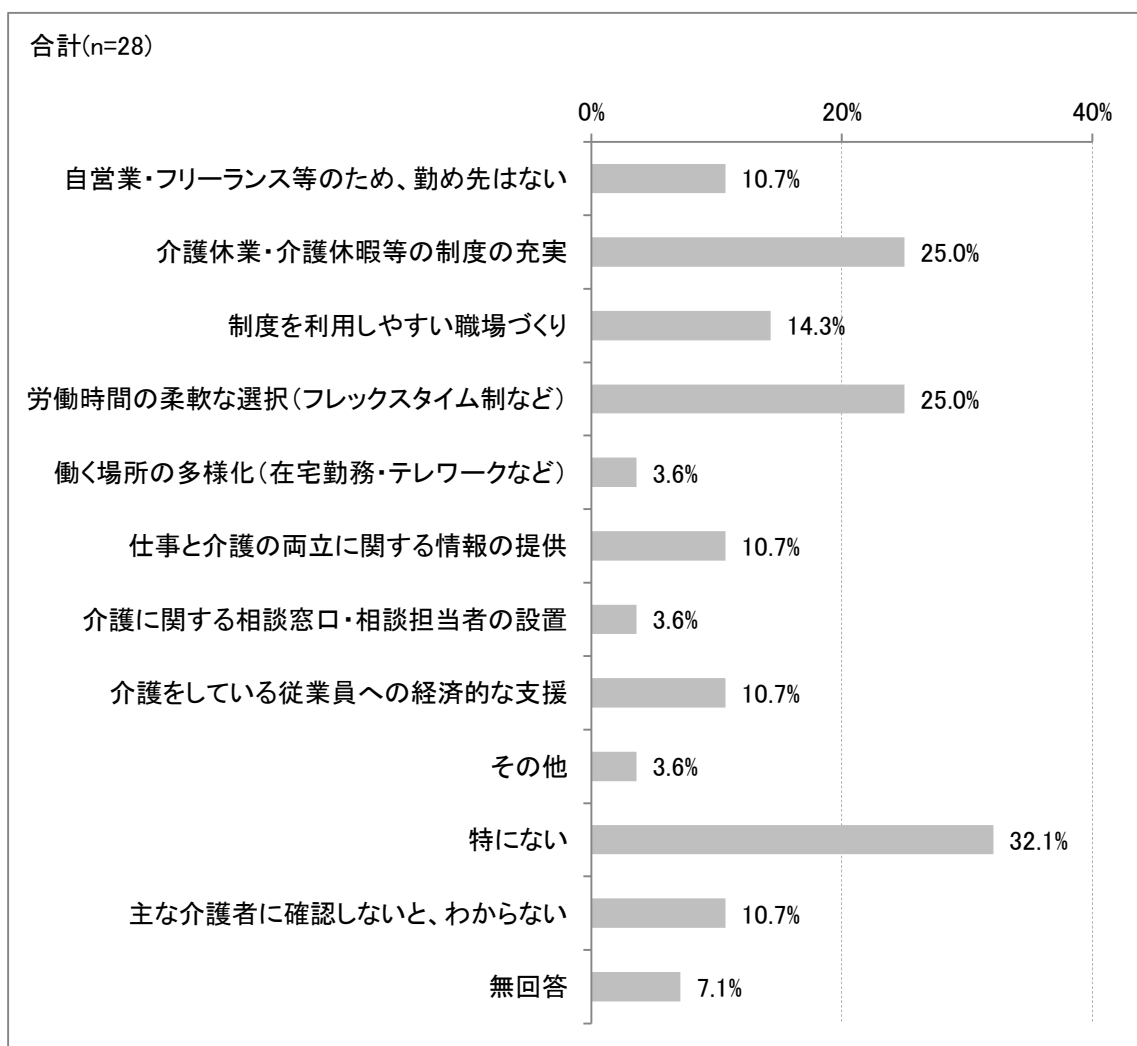
図表 3-2 主な介護者の働き方の調整状況 (複数回答)



(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援について、「特にない」が32.1%と最も高く、次いで、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」・「介護休業・介護休暇等の制度の充実」がそれぞれ25.0%、「制度を利用しやすい職場づくり」が14.3%となっています。

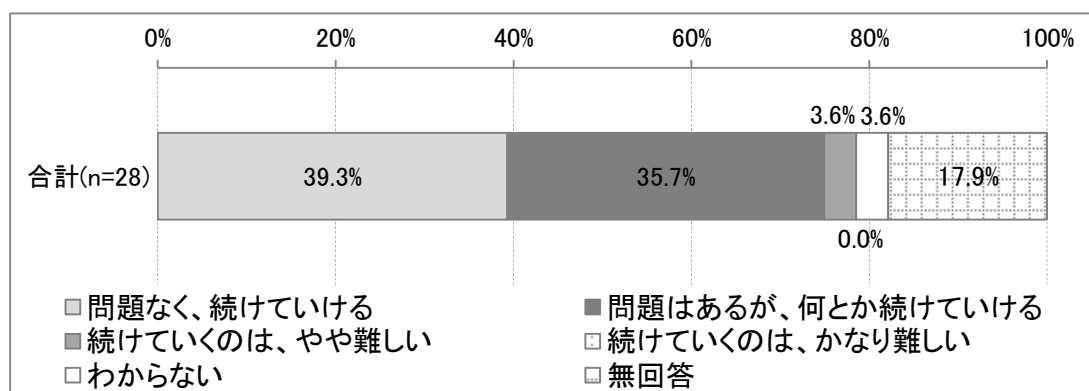
図表 3-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題なく、続けていける」が39.3%、「問題はあるが、何とか続けていける」が35.7%で就労継続が可能と回答した方は75.0%となっています。その一方で、「続けていくのは、やや難しい」・「続けていくのは、かなり難しい」がそれぞれ3.6%で、あわせて7.2%（2人）の介護者は就労継続が困難と回答しています。

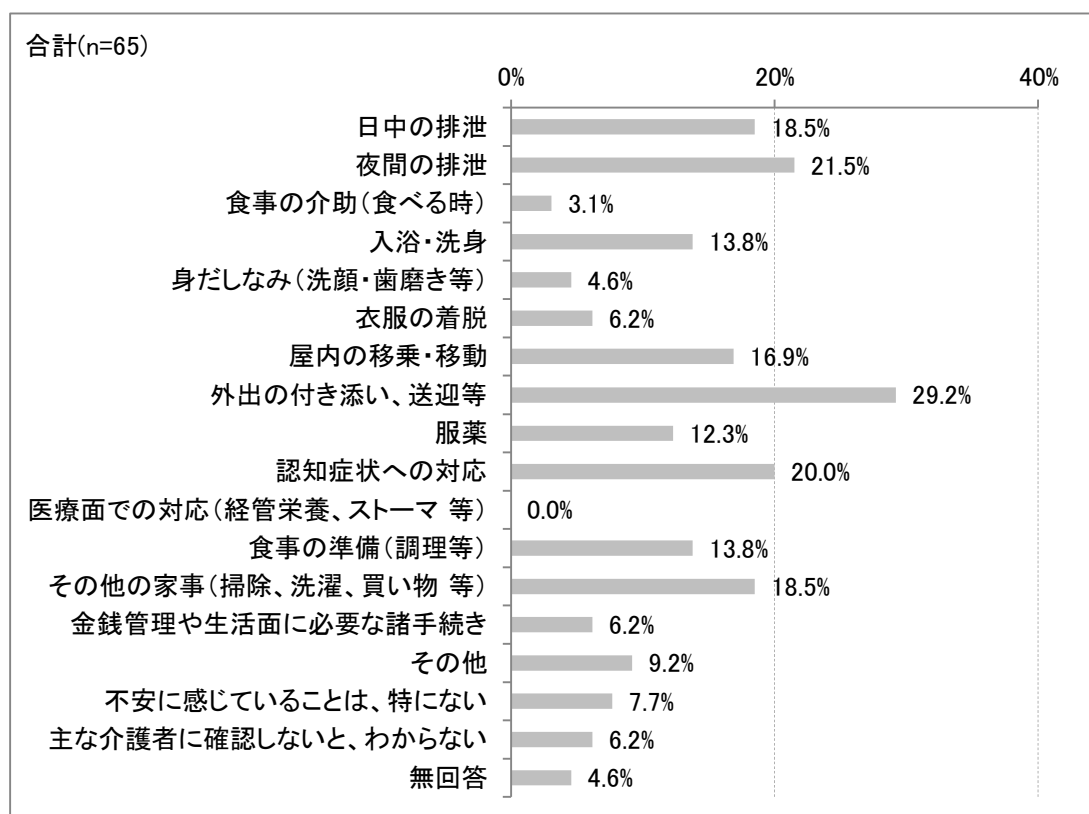
図表 3-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護

「外出の付き添い、送迎等」が29.2%と最も高くなっているほか、「夜間の排泄」が21.5%、「認知症状への対応」が20.0%となっており、介護者が不安を感じていると回答しています。

図表 3-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護（複数回答）



第3編 クロス集計結果

「在宅介護実態調査」の主な調査趣旨は、「どのような支援を充実すれば、在宅介護の継続や、介護者の就労の継続が可能かを検討すること」です。この趣旨に沿って行ったクロス集計結果は、以下のとおりです。

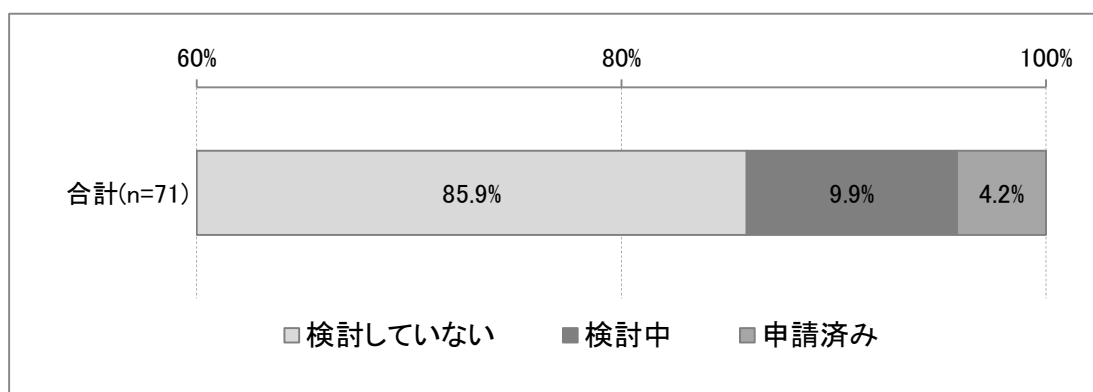
1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができるのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

(1) 基礎集計

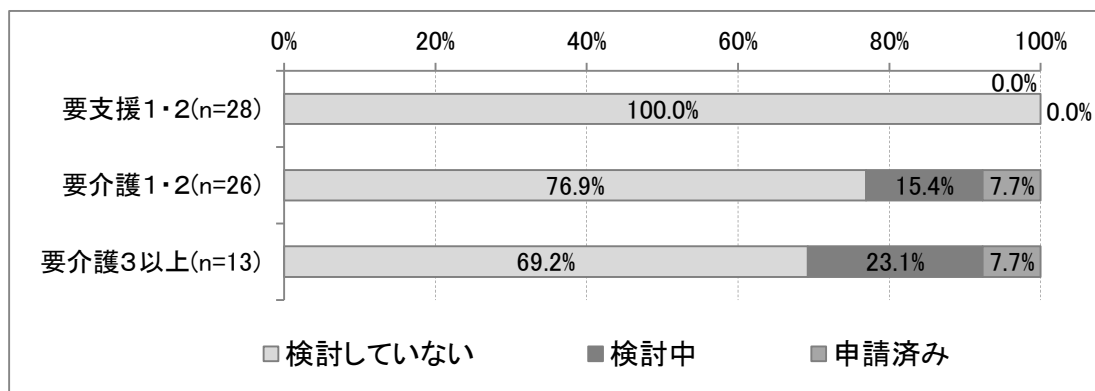
入所・居住系施設の利用を「検討していない」が85.9%と最も高く、次いで、「検討中」(9.9%)、「申請済み」(4.2%)となっています。

図表 1-1 施設等検討の状況



要介護度が高くなるほど「検討中」や「申請済み」が高い状況です。

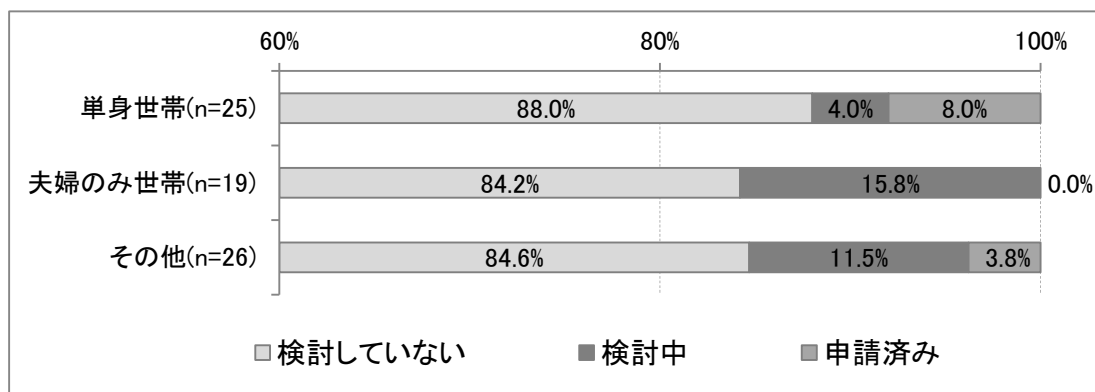
図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況



単身世帯では「検討中」は他の世帯に比べ割合が低いものの「申請済み」は8.0%と高くなっています。また、「検討していない」が88.0%となっており、この理由としては、以下のことが考えられます。

単身世帯では、介護サービスに対する情報アクセス度が低いことや、介護度が高くなった独居高齢者はすでに施設に入所しているケースが多いことが想定されます。また、住んでいる家が持ち家であればその処分が課題となってきます。

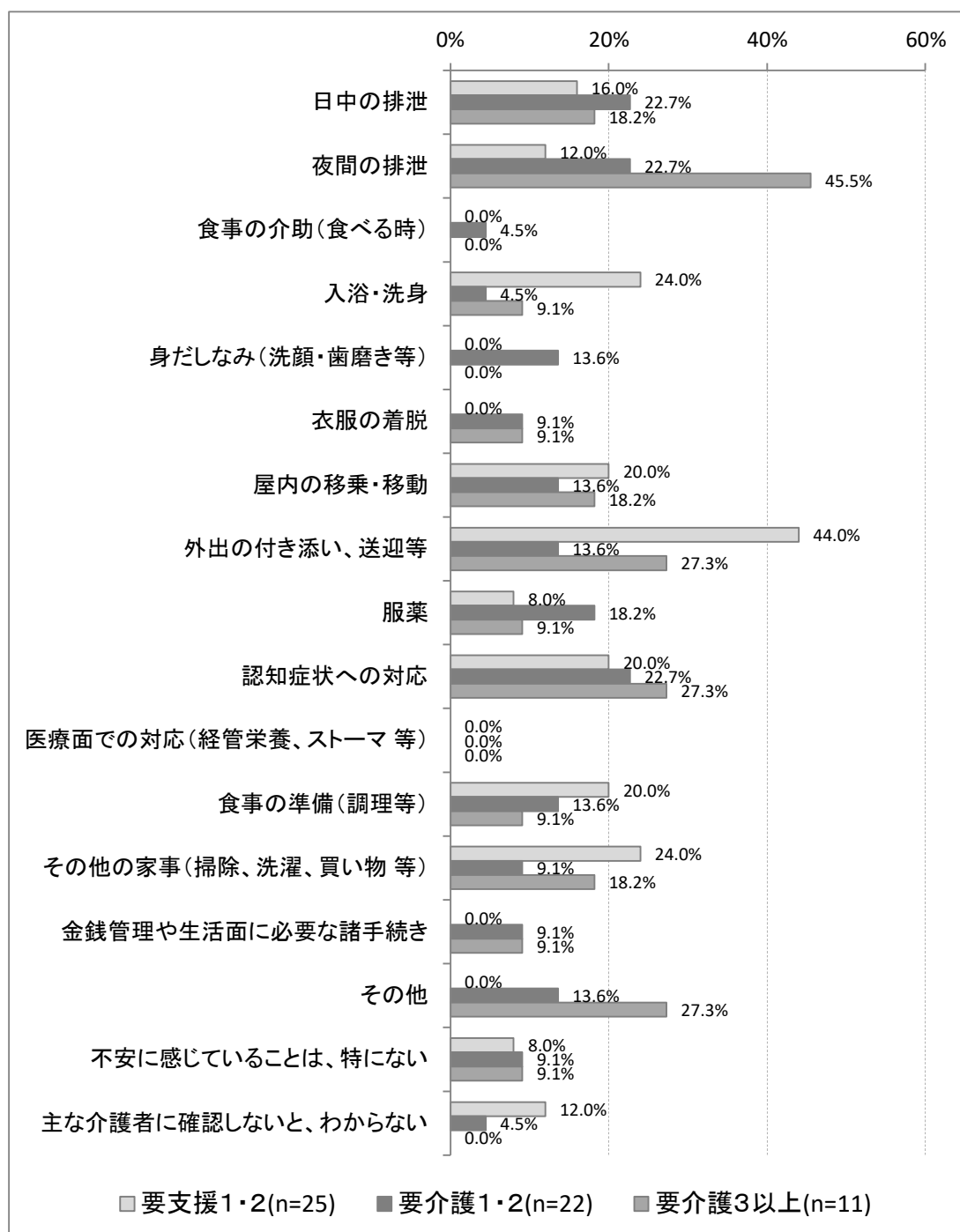
図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



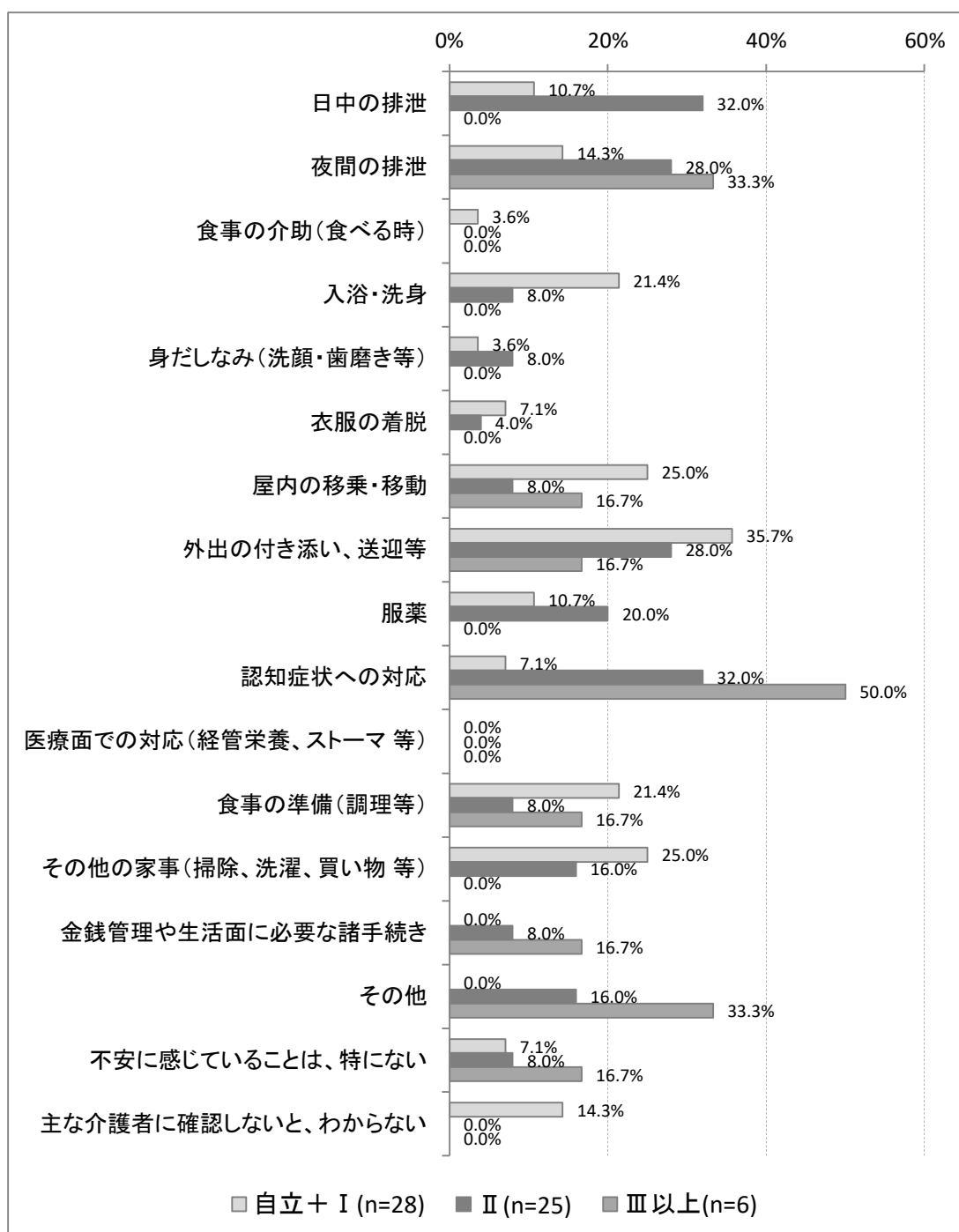
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化

要介護度・認知症自立度（図表 1-4、図表 1-5）の重度化に伴って、「夜間の排泄」や「認知症状への対応」などの不安が高くなっていることがわかります。これらの支援を行うことが在宅生活継続に向けたポイントの1つになると考えられます。

図表 1-4 要介護度別・介護者が不安を感じる介護



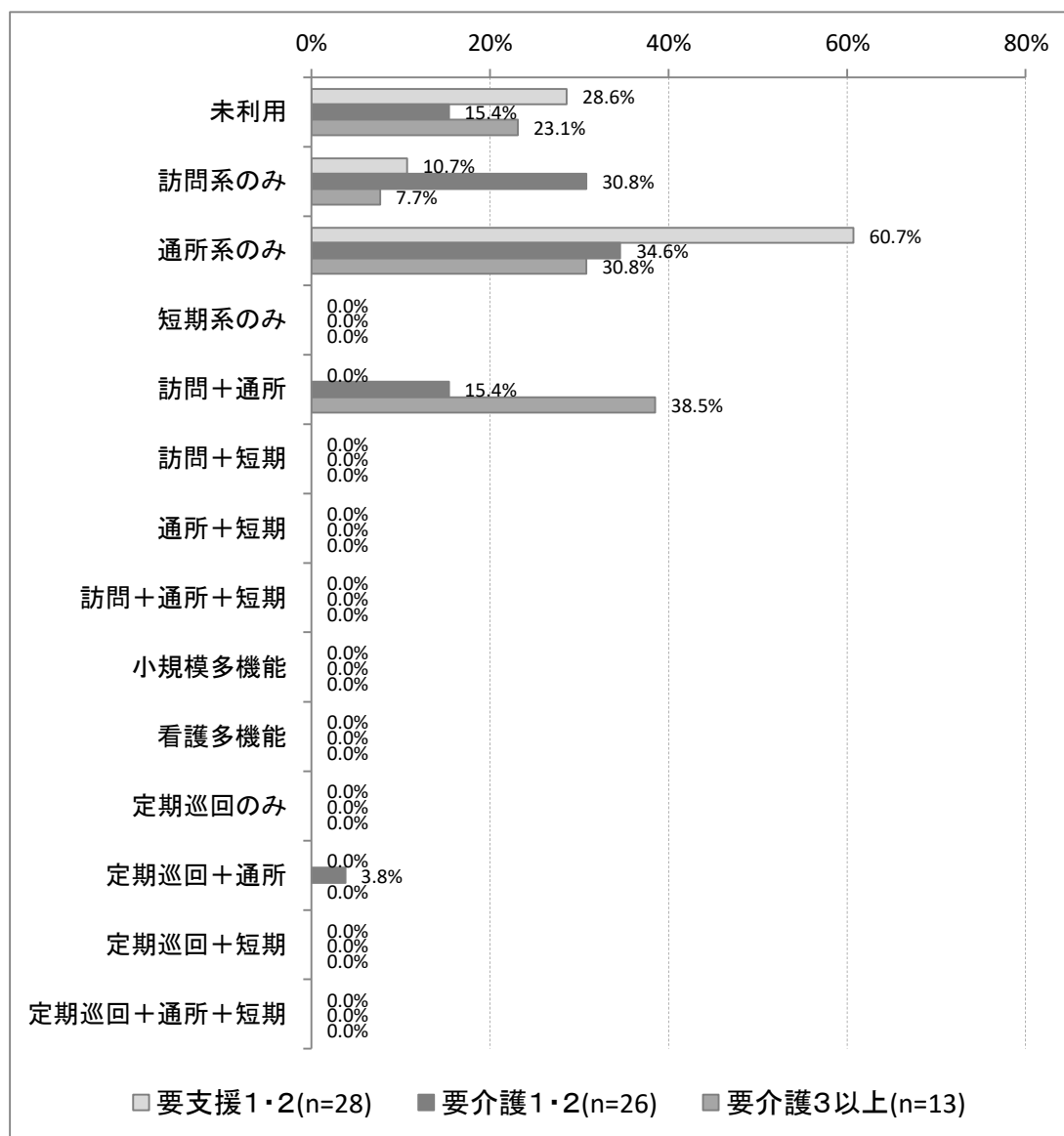
図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安を感じる介護



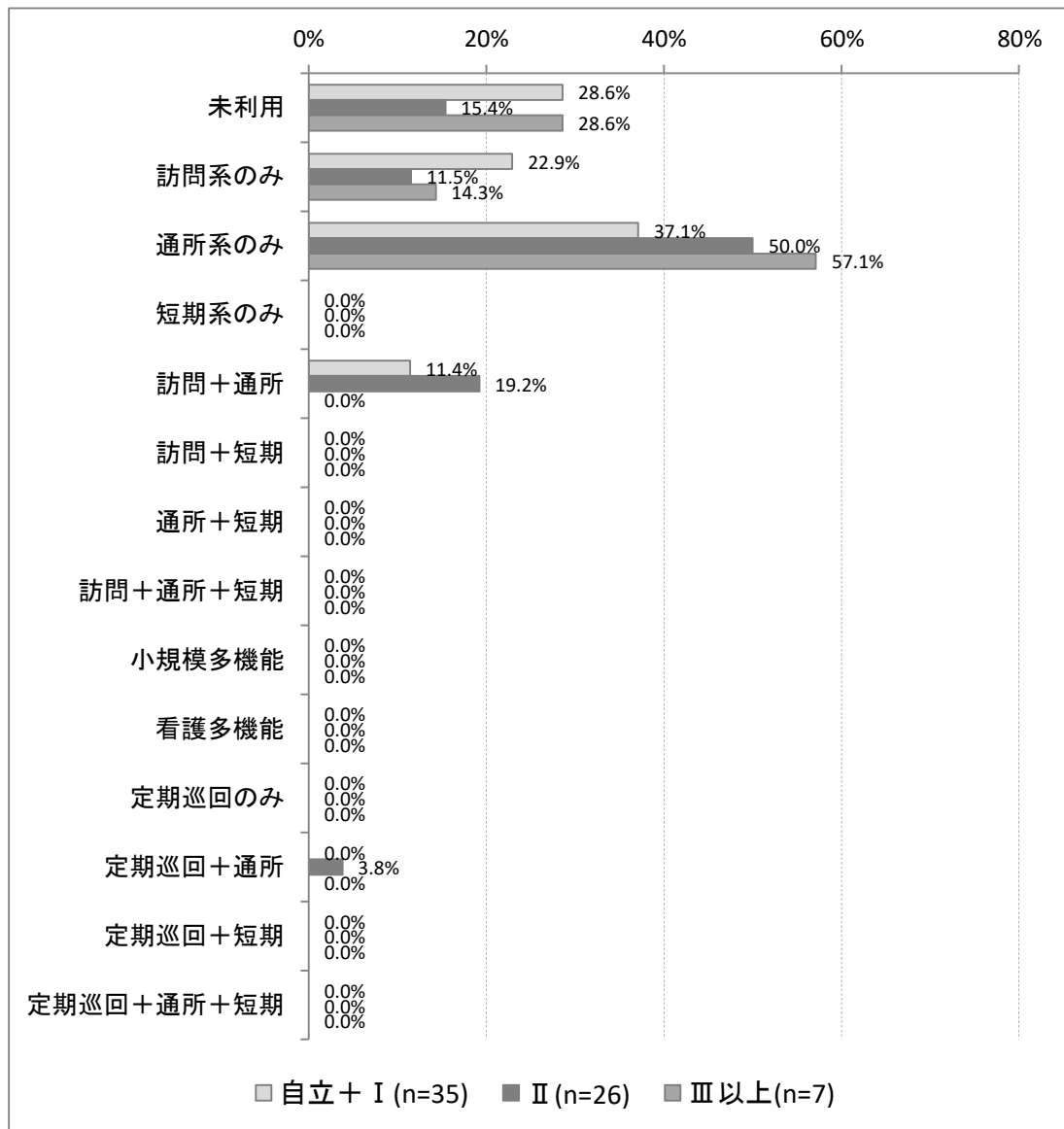
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

要介護度別（図表 1-6）では「要支援 1・2」で、「通所系のみ」を利用している割合が 60.7% と最も高く、「要介護 3 以上」では「訪問+通所」が 38.5% で最も高くなっています。認知症自立度別（図表 1-7）では、「通所系のみ」がすべての自立度で高くなっており、特に「認知症自立度Ⅲ以上」で 57.1%（4 人）となっています。

図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ

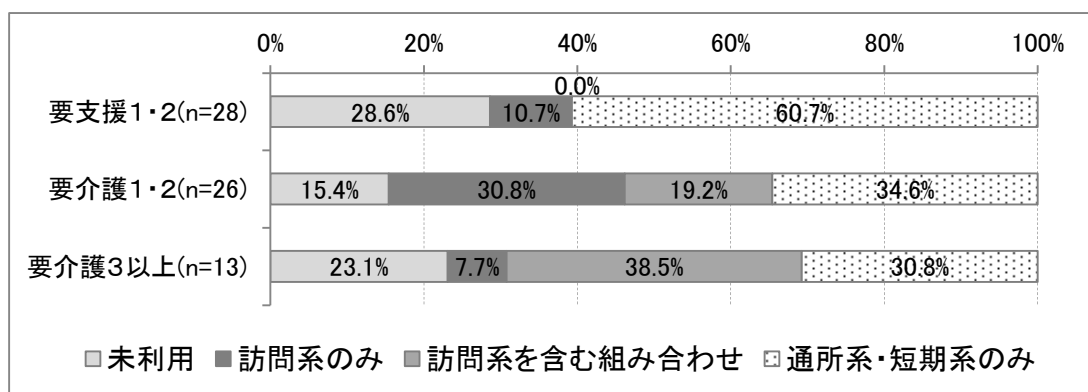


図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ

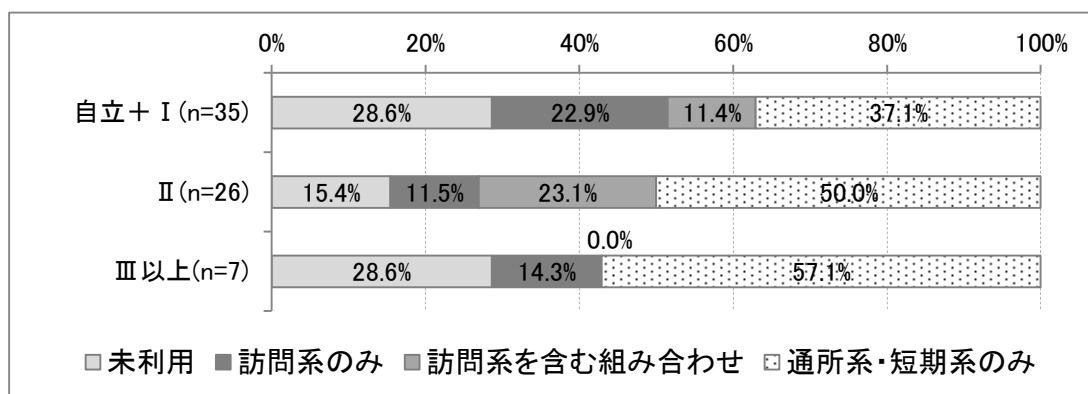


サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、介護者の休息的な機能（レスパイト機能）をもつ「通所系・短期系のみ」のサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類して見てみると、「通所系・短期系のみ」は、要介護度が進行するにつれ、減少している一方で、認知症自立度が進行するにつれ、増加しています。

図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



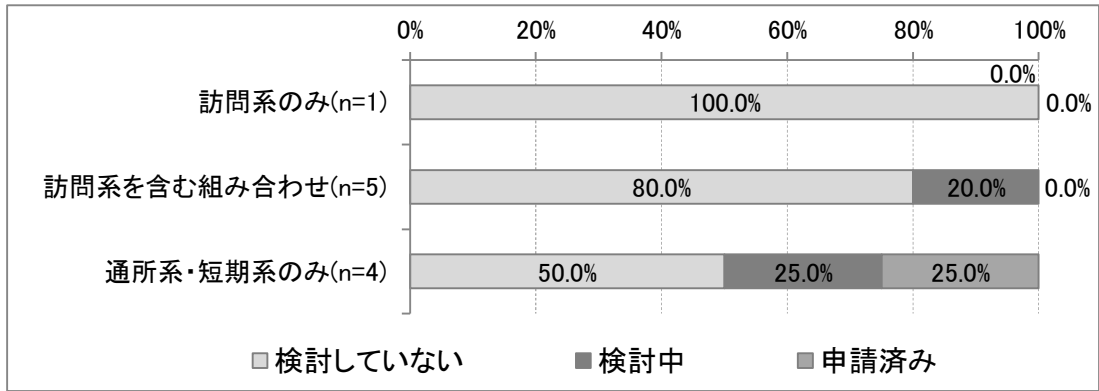
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

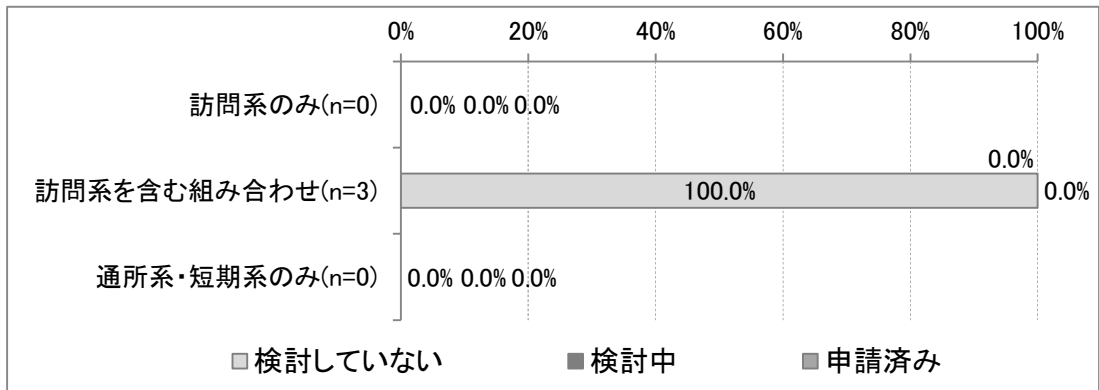
「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。

図表 1-10～図表 1-12 は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したものであり、図表 1-13～図表 1-15 は、表側と表頭を逆にして集計したのですが、標本数が少なく、また、対象となる方がいない区分もあるため、町の傾向をとらえることは難しい結果となっています。

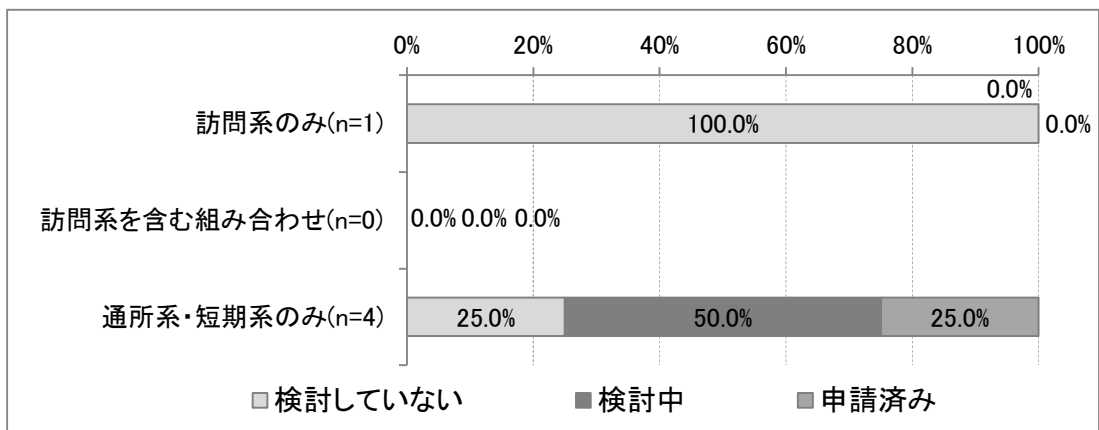
図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



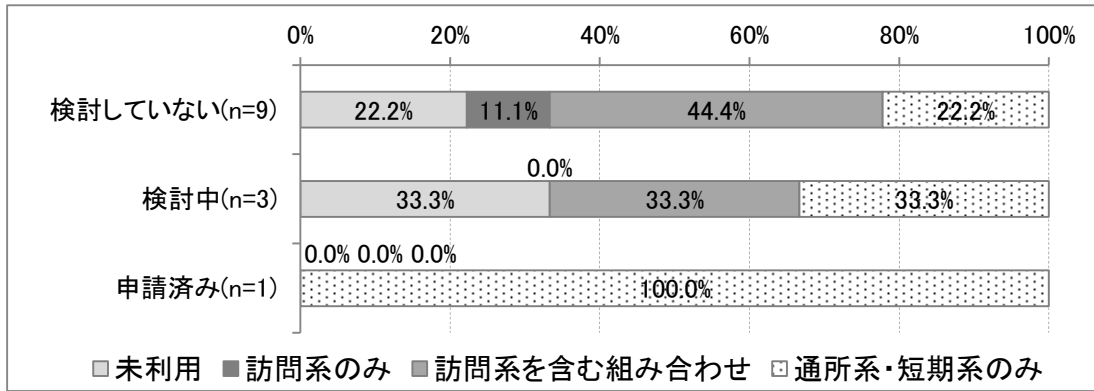
図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



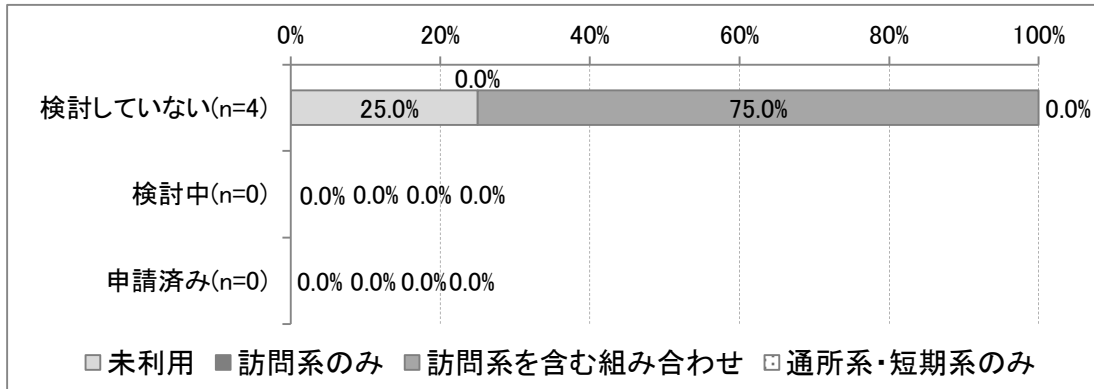
図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



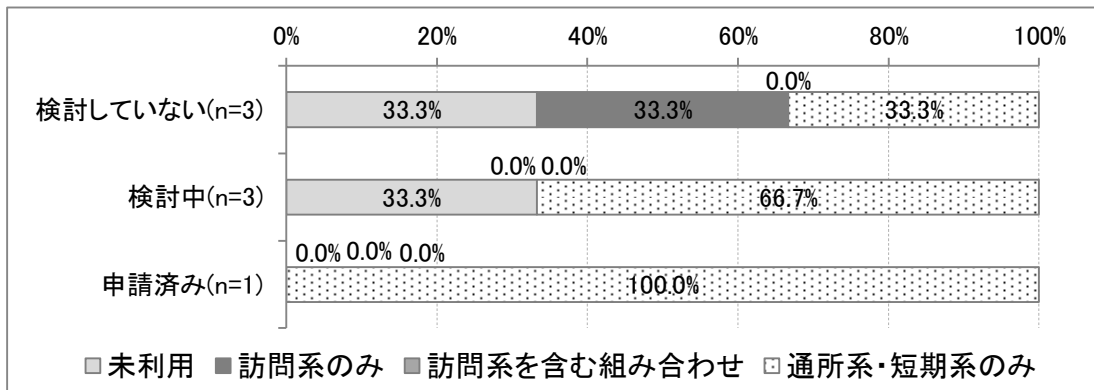
図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



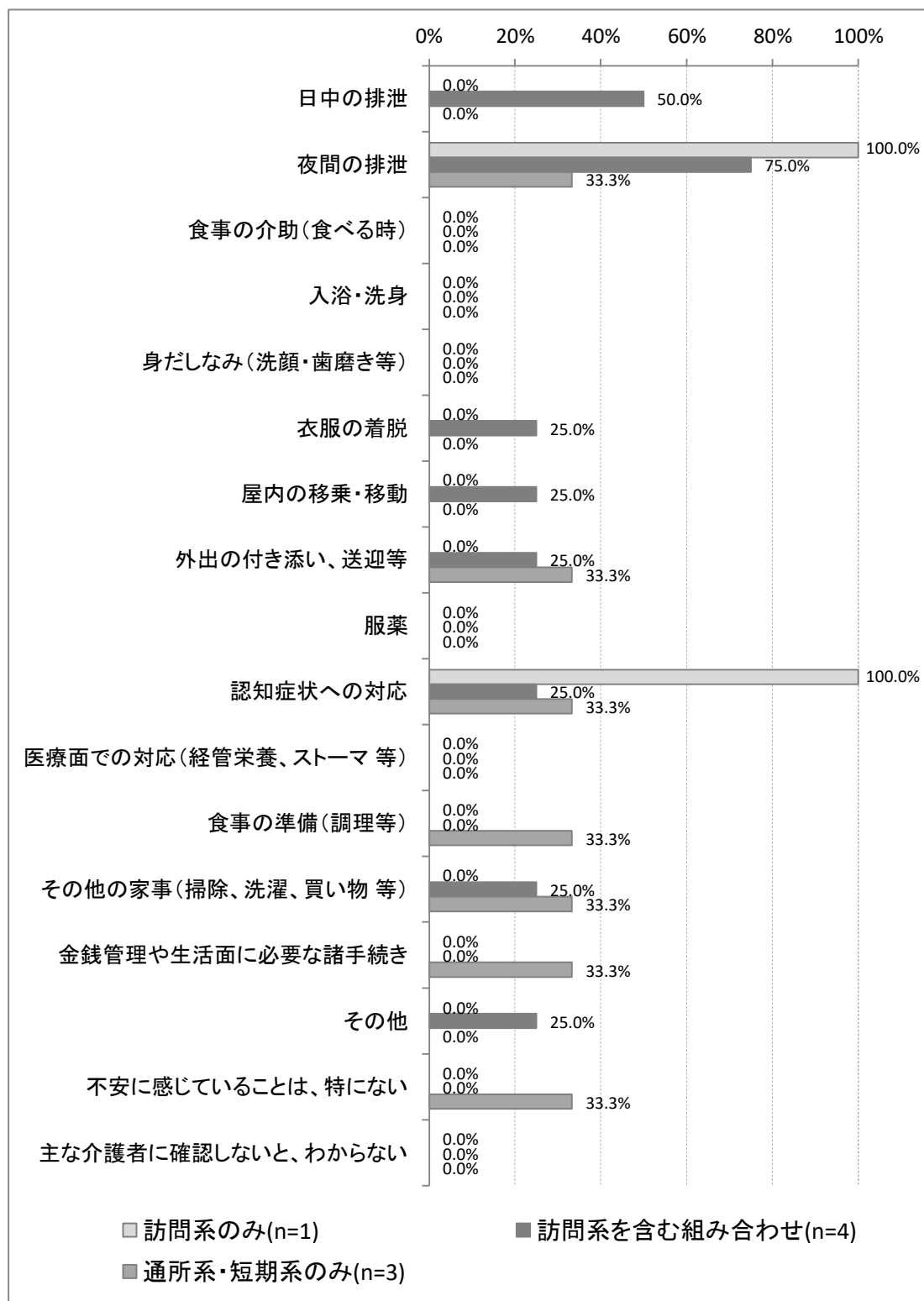
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係について、集計分析をしています（図表 1-16、図表 1-17）。それぞれ、要介護 3 以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

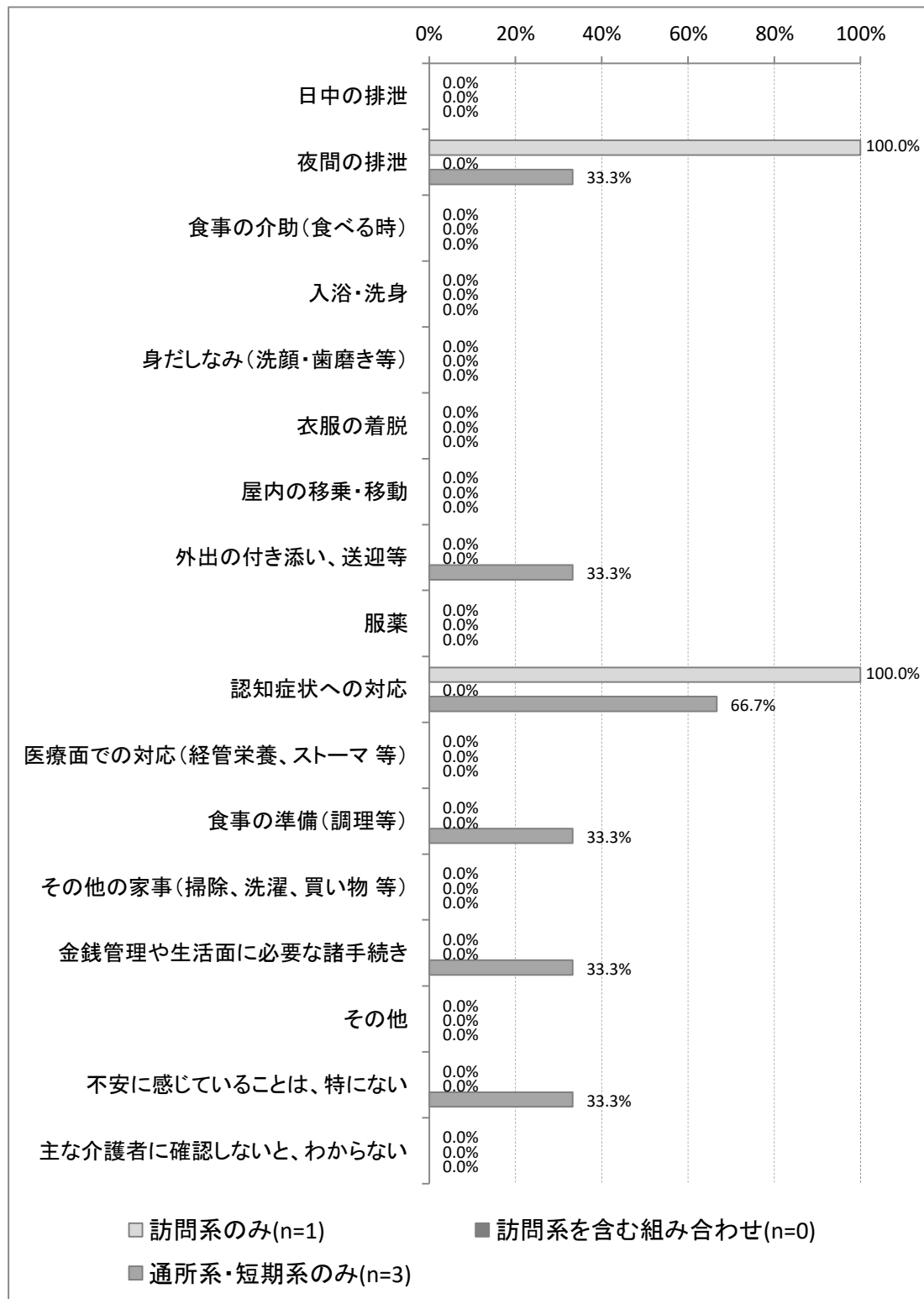
「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護等）」について、「主な介護者が不安を感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の 1 つです。

図表 1-16 では、標本数が少なく、町の傾向をとらえることは難しい結果となっていますが、「夜間の排泄」や「認知症状への対応」等の割合が高くなっています。

図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

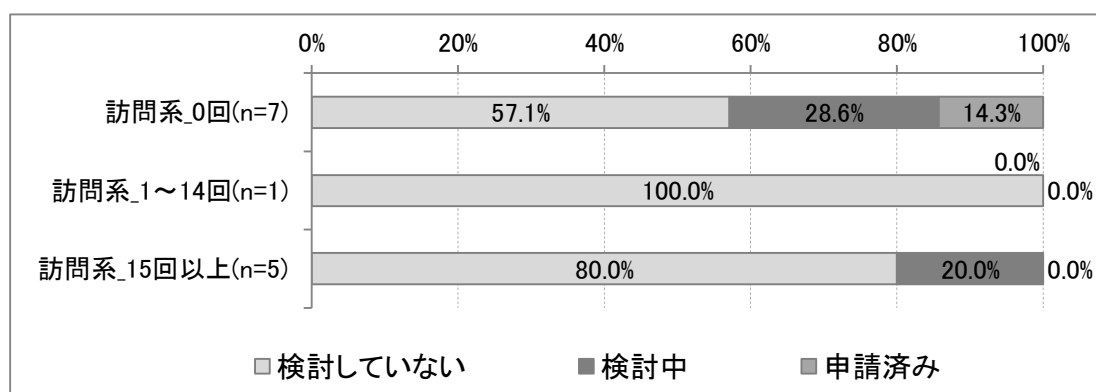
(4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。

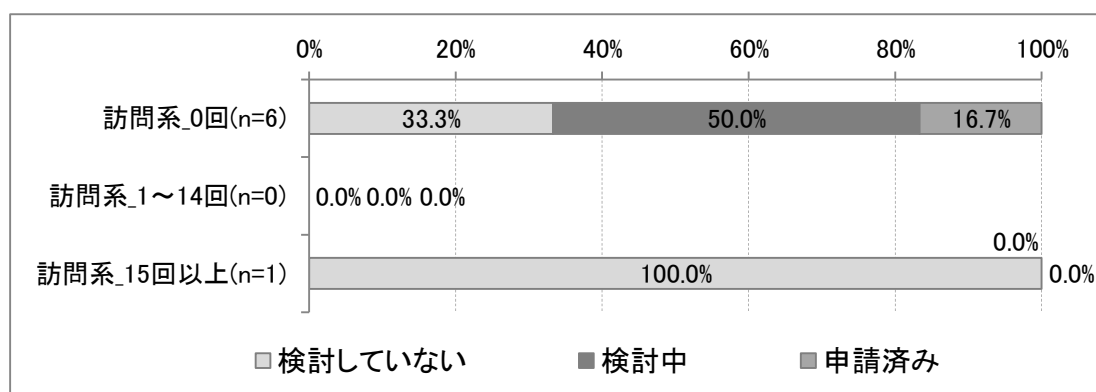
図表 1-18 と図表 1-19 が訪問系、図表 1-20 と図表 1-21 が通所系、図表 1-22 と図表 1-23 が短期系について集計分析した結果です。

図表 1-18～図表 1-23 は標本数が少なく、対象となる方がいない区分もあるため、町の傾向をとらえることは難しい結果となっていますが、訪問系・通所系のサービスにおいては、利用回数が多くなると施設等への入所・入居意向が高まることが考えられます。

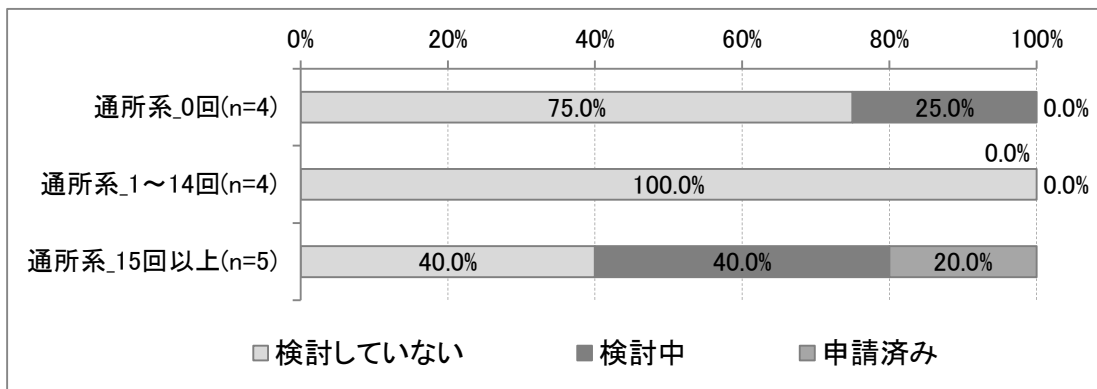
図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



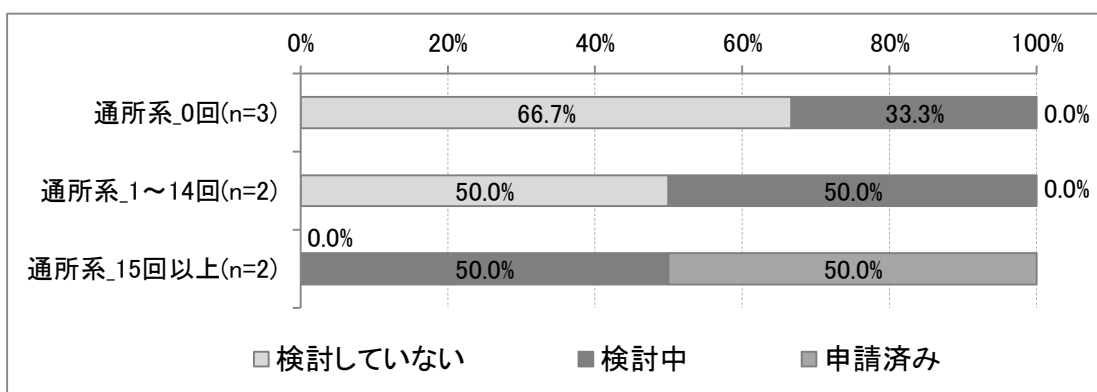
図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



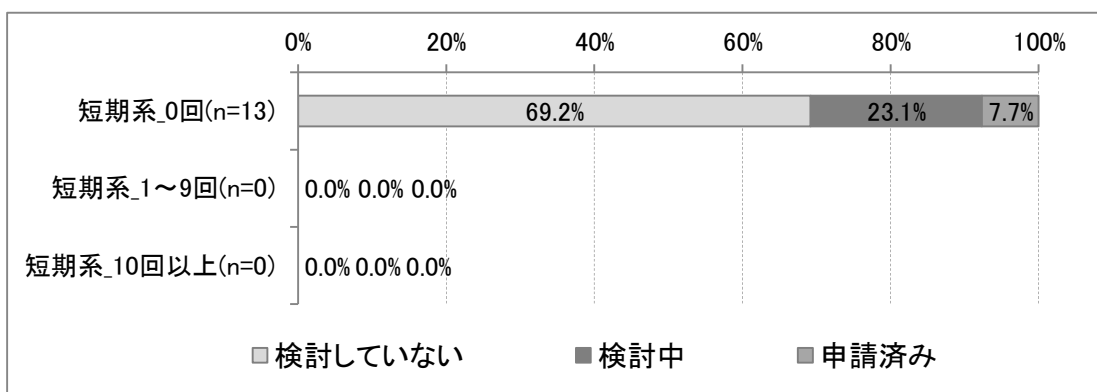
図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



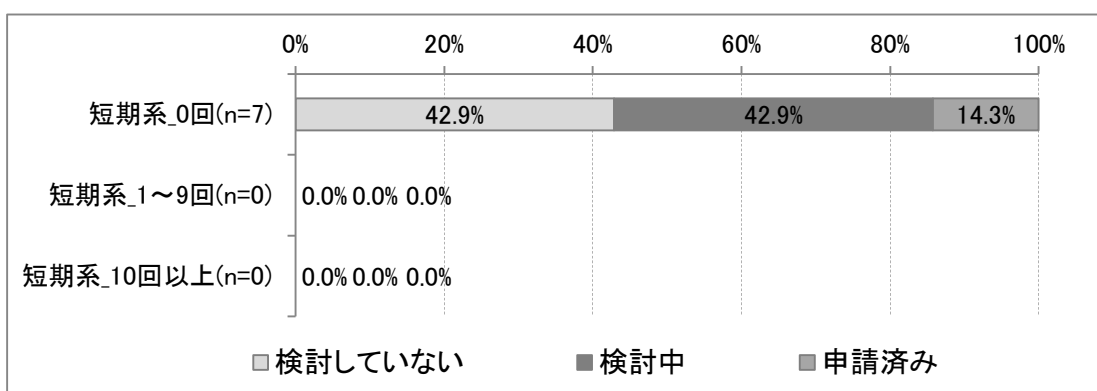
図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

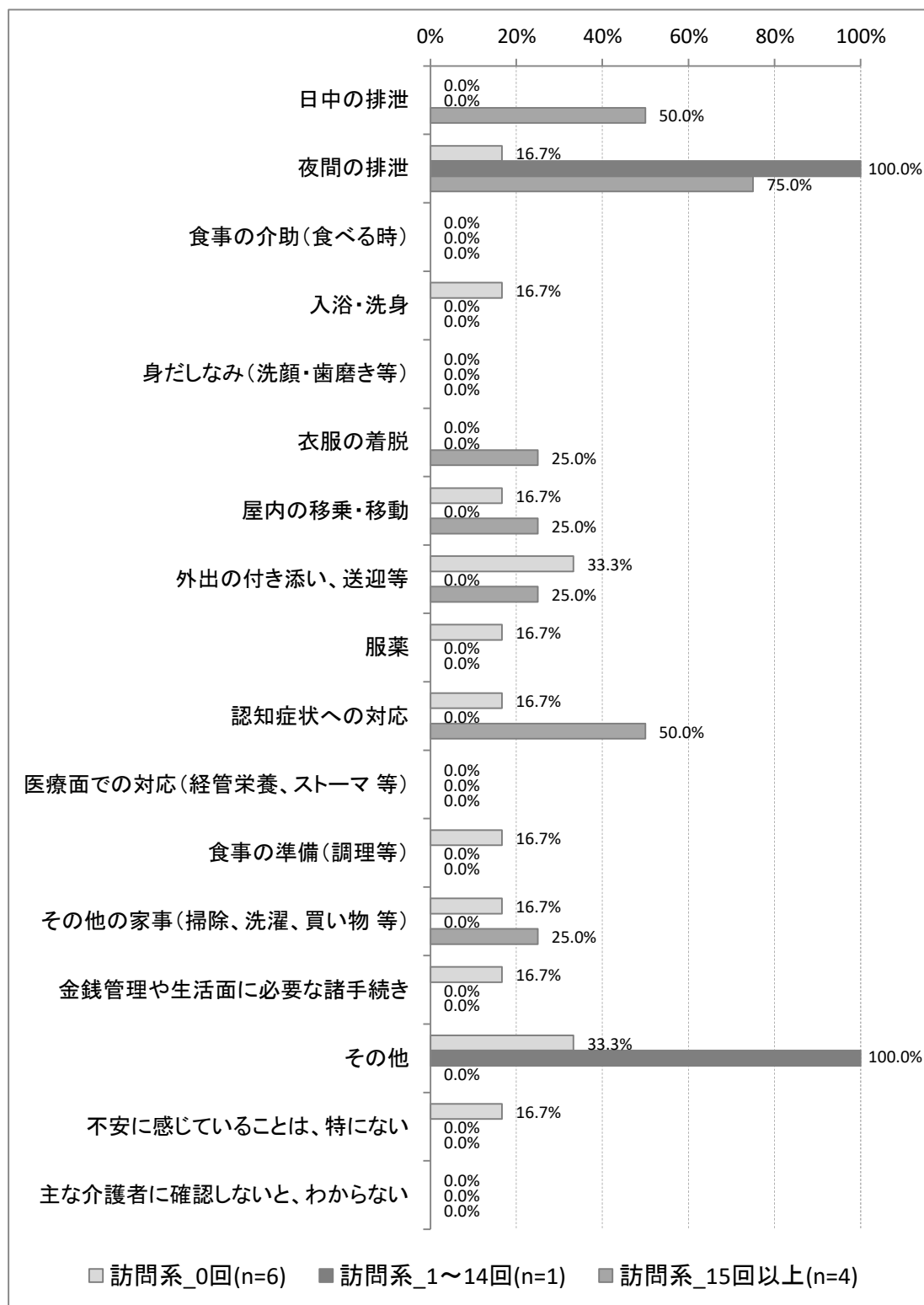
(5)では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」について、集計分析を行っています。

「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護等）」について、「主な介護者が不安を感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。

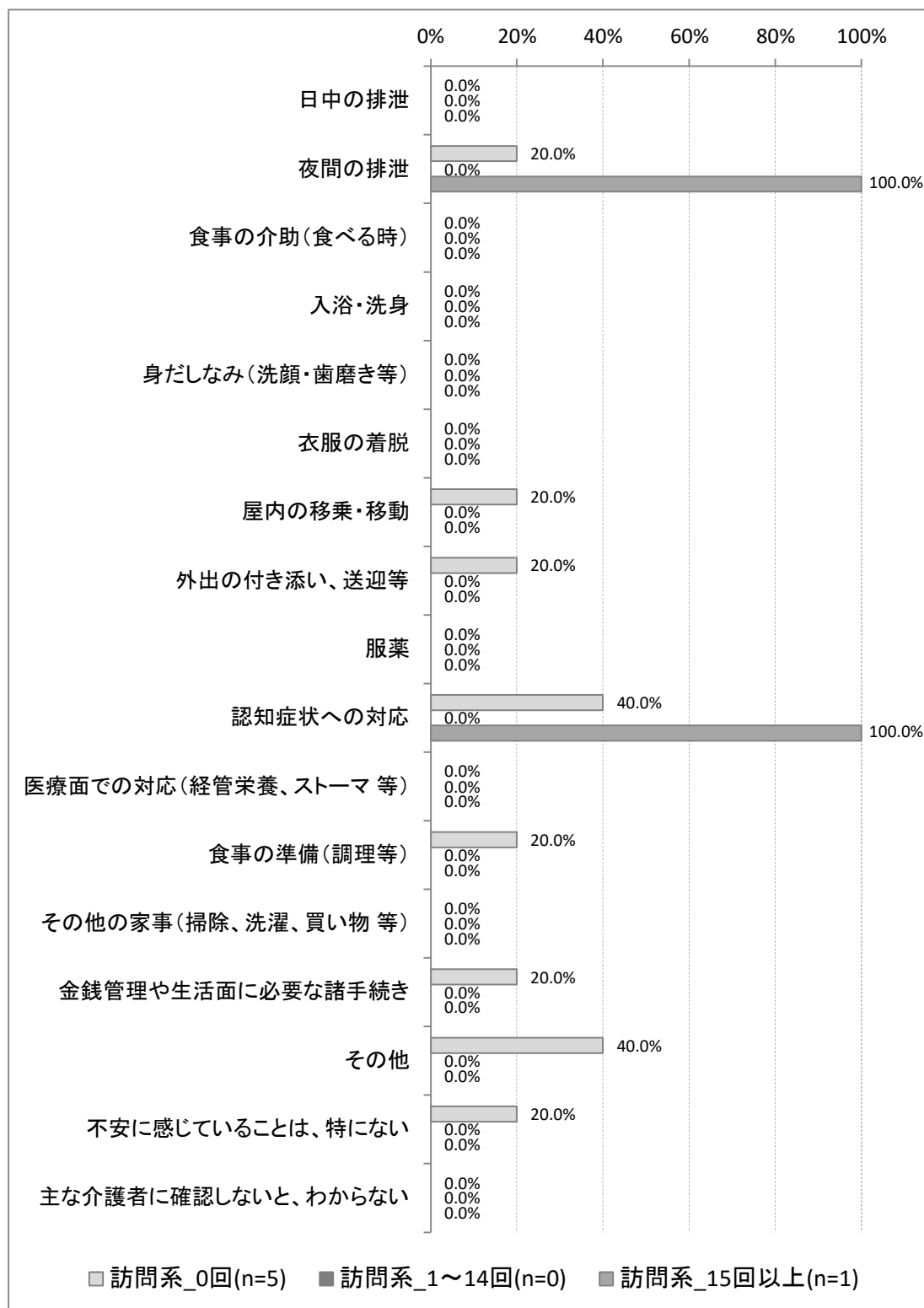
図表 1-24 と図表 1-25 が訪問系、図表 1-26 と図表 1-27 が通所系、図表 1-28 と図表 1-29 が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

標本数が少なく、対象となる方がいない区分もあるため、町の傾向をとらえることは難しい結果となっていますが、「夜間の排泄」や「認知症状への対応」等を不安を感じる傾向が見て取れます。

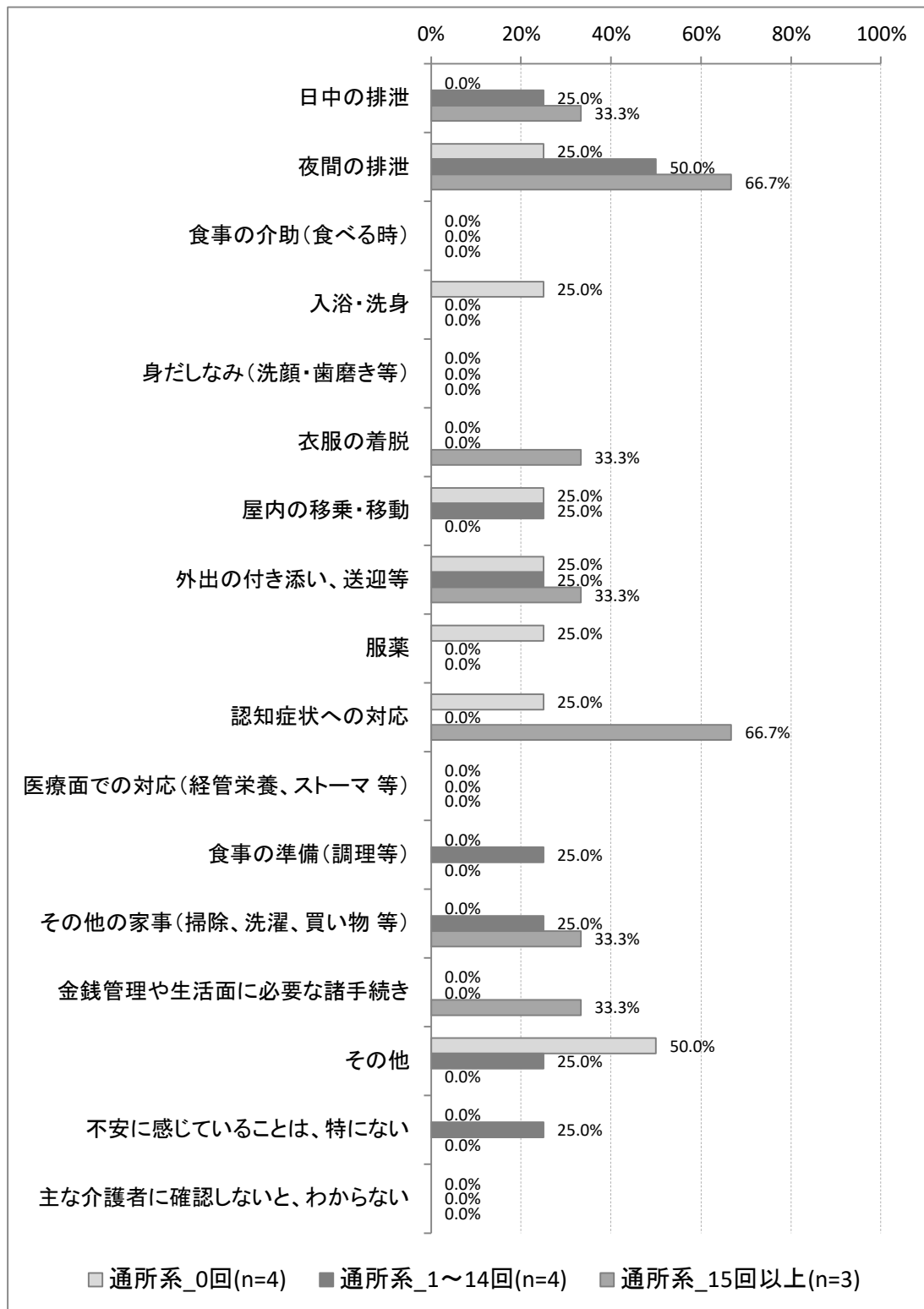
図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



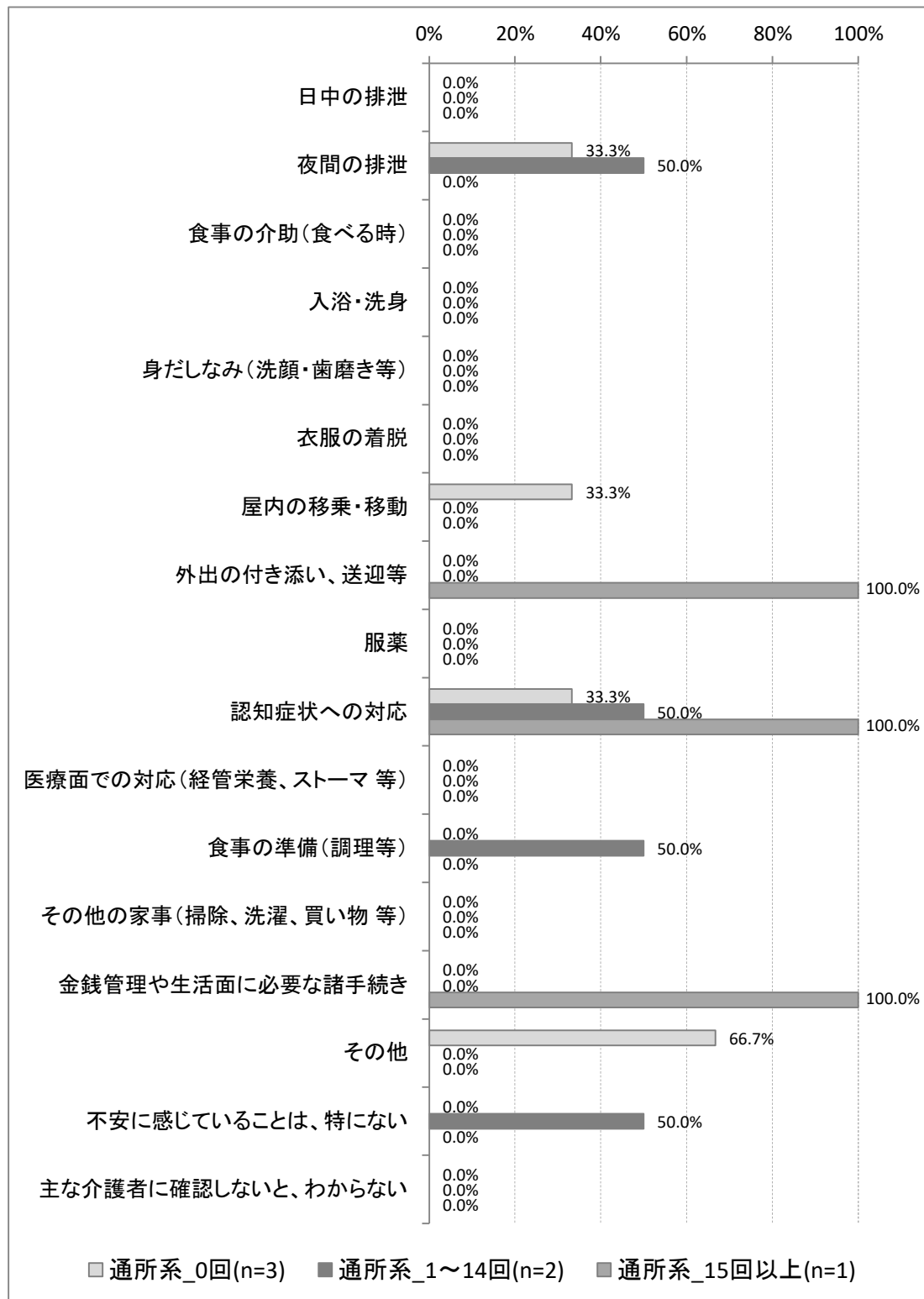
図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



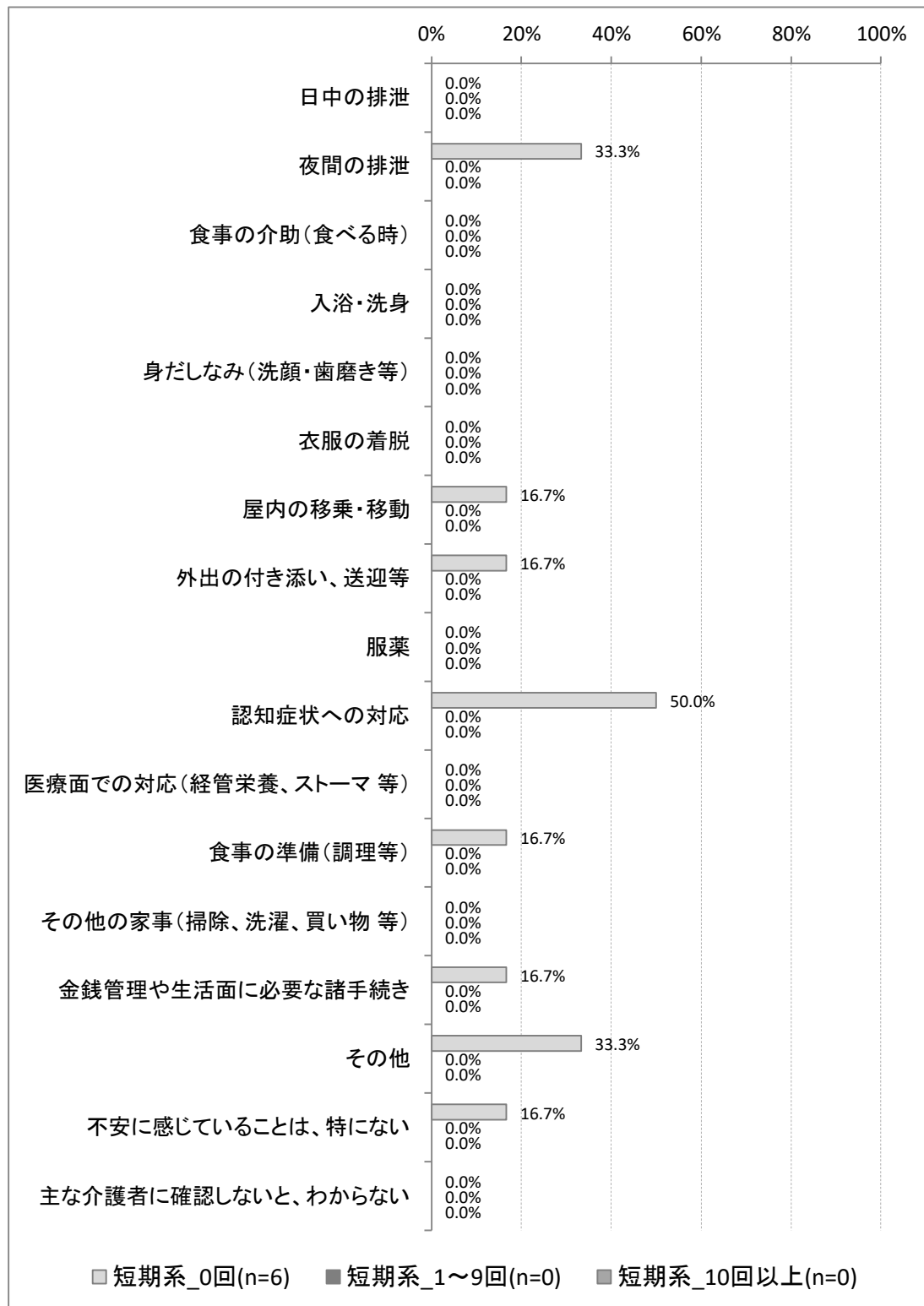
図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



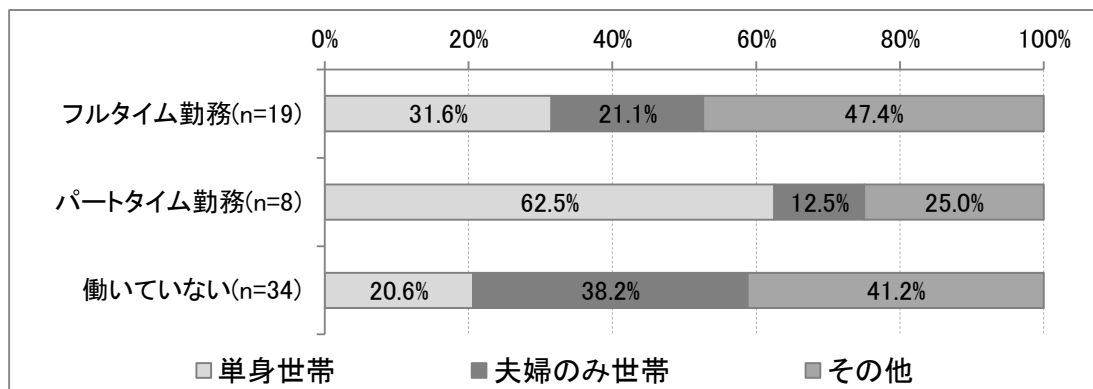
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

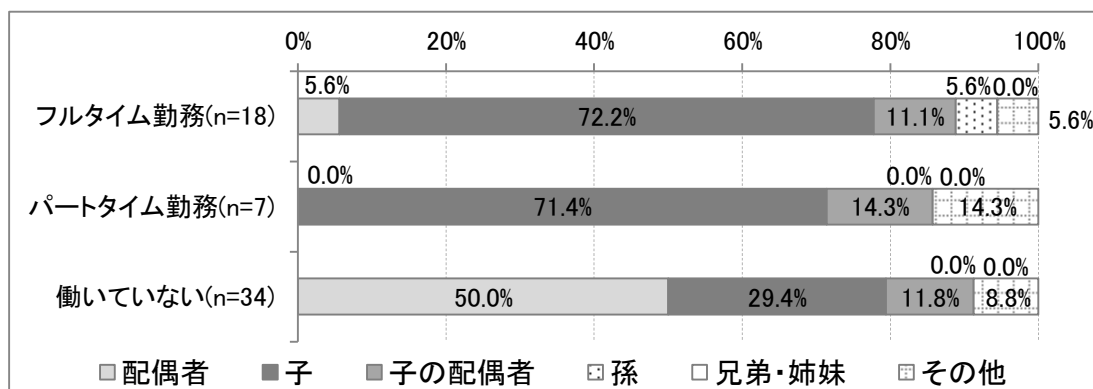
(1) 基本集計

主な介護者が要介護者とは別居であり、フルタイム勤務であれば、介護に従事できる時間が少なくなり、介護が十分に行き届かない可能性があります。図表 2-1 をみると、主な介護者がフルタイム勤務で要介護者本人が単身の世帯が 31.6% となっています。また、図表 2-2 をみると、フルタイム勤務の介護者の約 7 割は「子」となっています。

図表 2-1 就労状況別・世帯類型

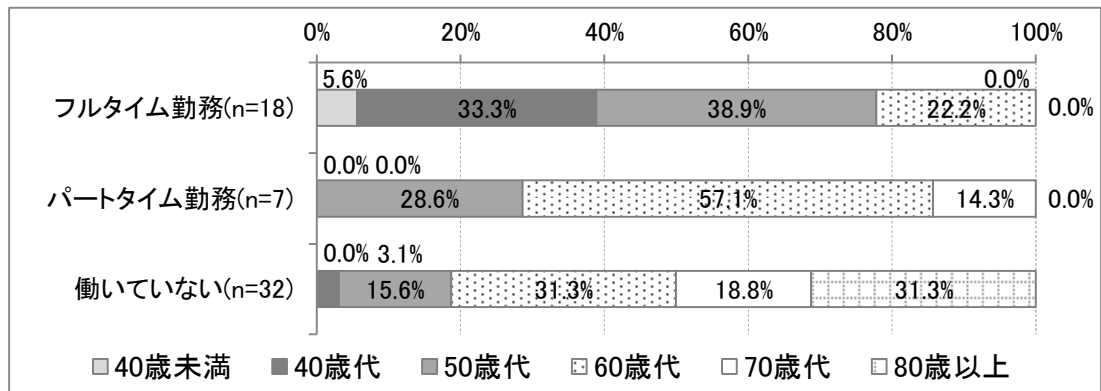


図表 2-2 就労状況別・★主な介護者の本人との関係



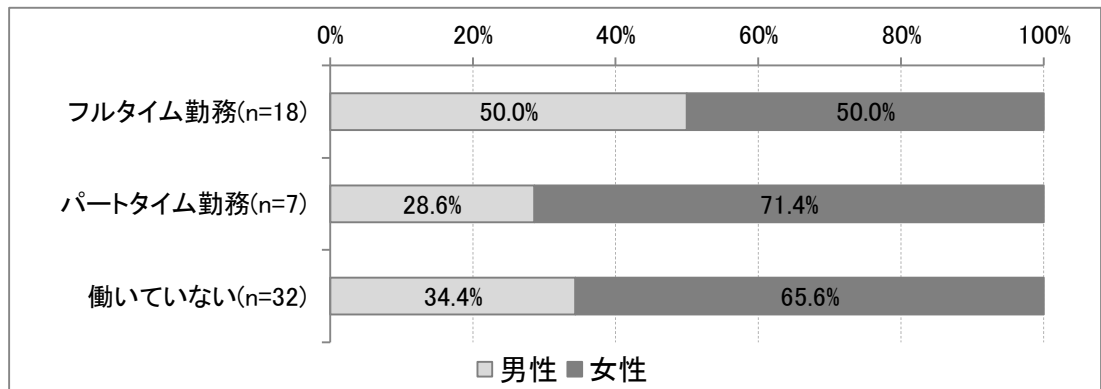
図表 2-3 によると、主な介護者の年齢は「50 歳代」と「60 歳代」が高くなっています。

図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢



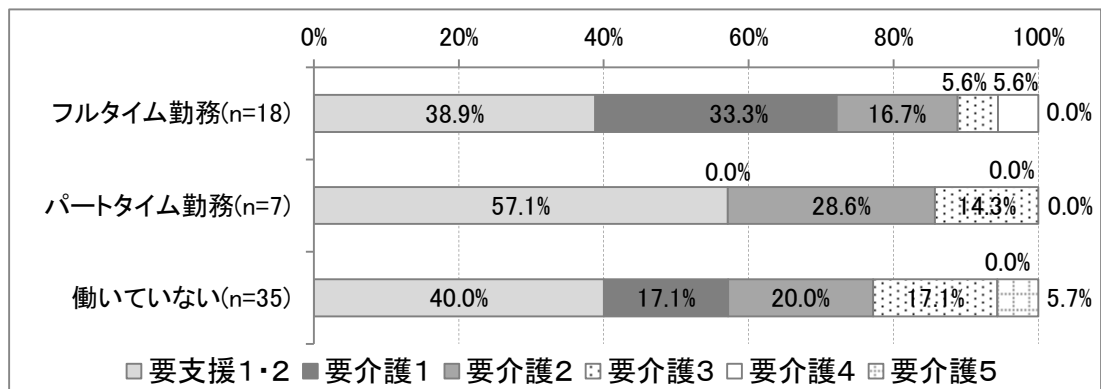
図表 2-4 によると、フルタイム勤務の割合は男女ともに 50.0%となっていますが、パートタイム勤務では女性の割合が 71.4%と高くなっています。

図表 2-4 就労状況別・主な介護者の性別



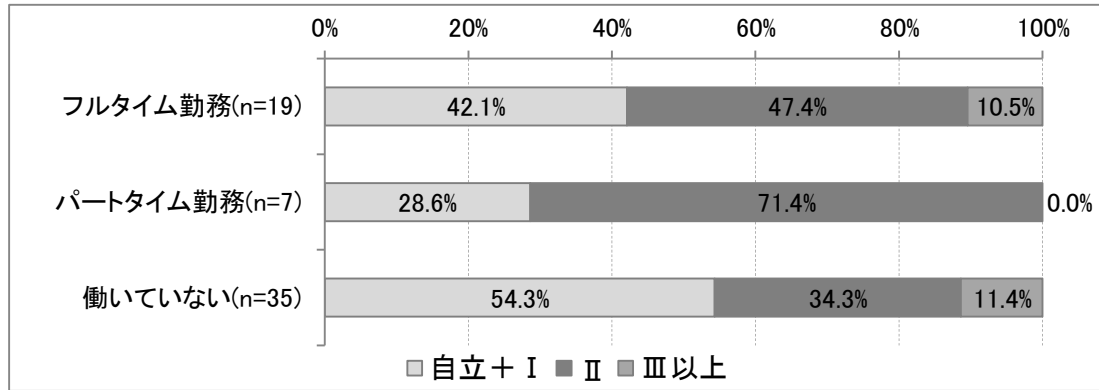
図表 2-5 によると、勤務日数及び時間が少ないほど、重度者のケースが増加しています。

図表 2-5 就労状況別・要介護度



図表 2-6 によると、フルタイム勤務において認知症自立度Ⅱ以上を介護している割合は57.9%（11人）、パートタイム勤務では71.4%（5人）となっています。

図表 2-6 就労状況別・認知症自立度



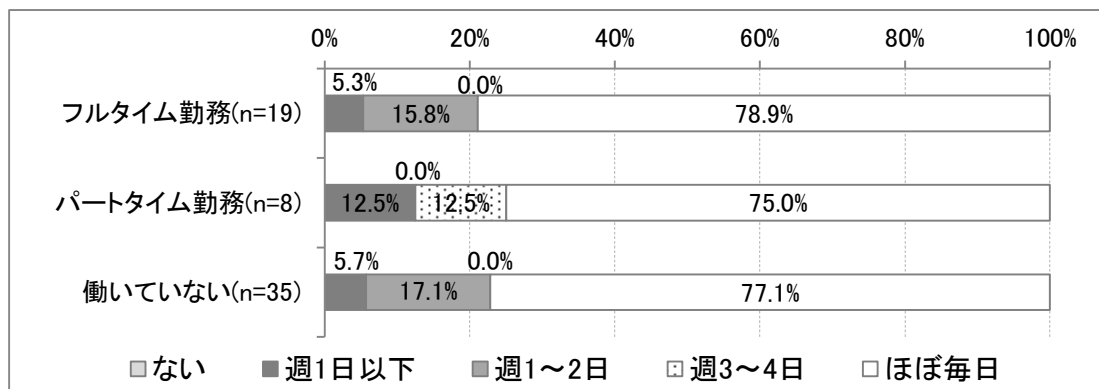
(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています（図表 2-8、図表 2-9）。

「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」方と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。

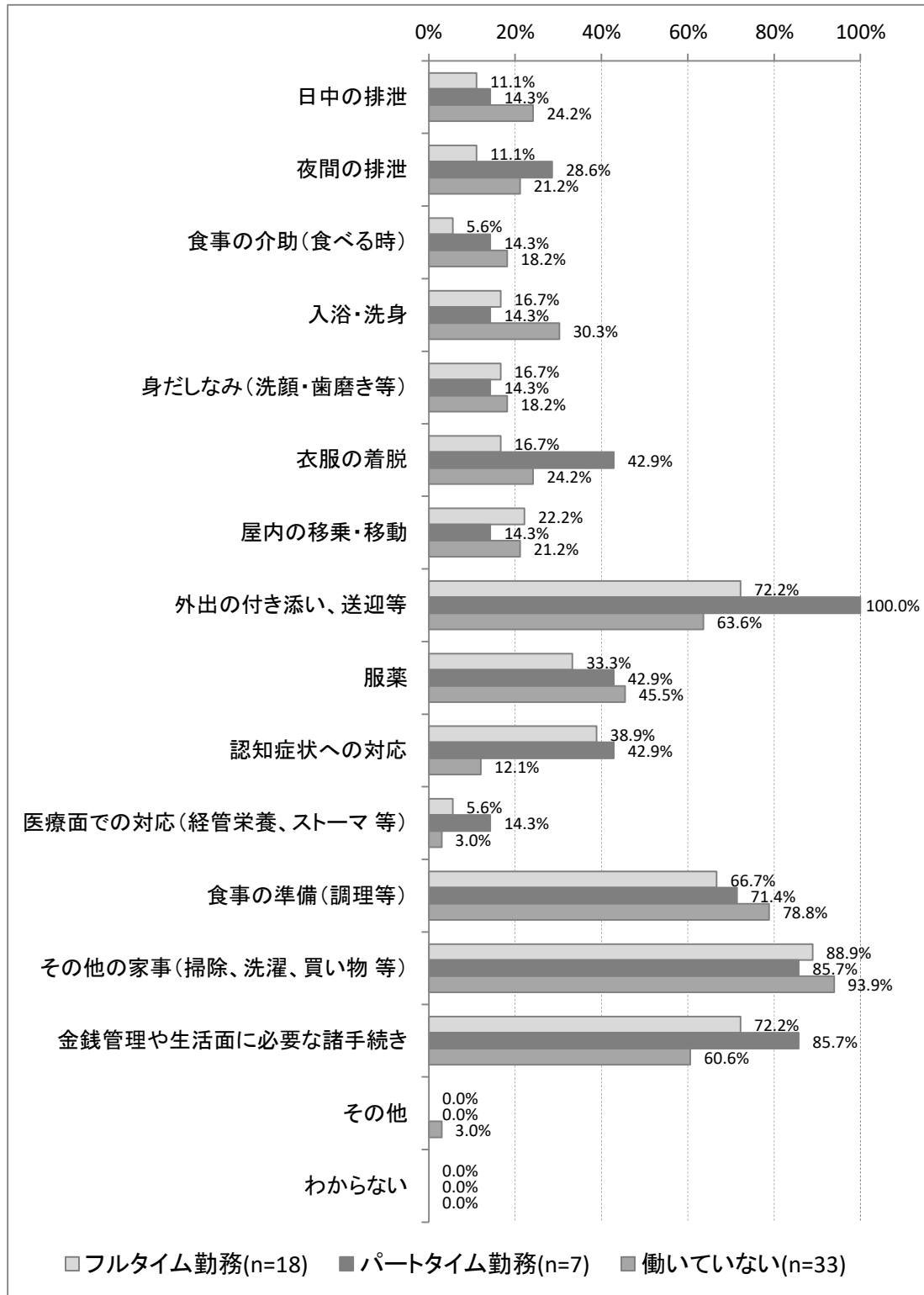
図表 2-7 によると、いずれの就労状況においても、「ほぼ毎日」は7割以上となっています。

図表 2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度



図表 2-8 によると、「日中の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」などの身体介護は、「働いていない」方と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で低い一方で、「外出の付き添い、送迎等」や「認知症状への対応」は高くなっています。

図表 2-8 就労状況別・★主な介護者が行っている介護

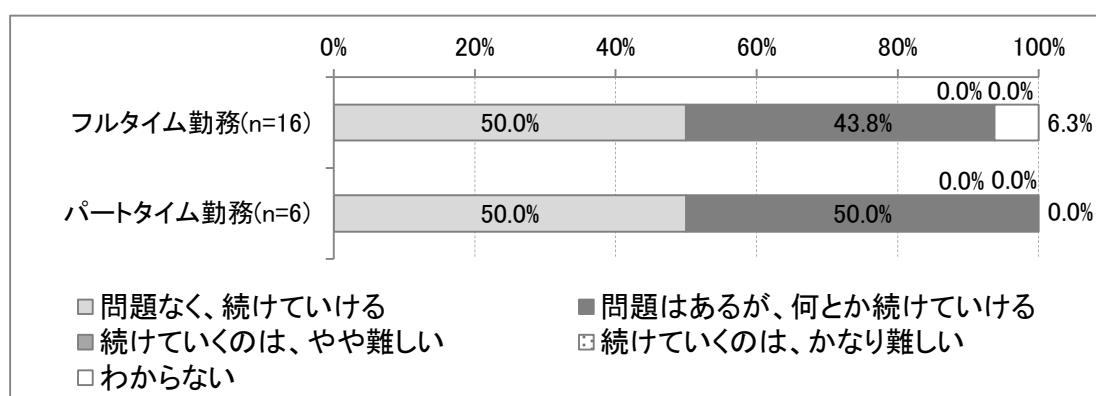


「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える方が増加するかどうかを把握することができます。

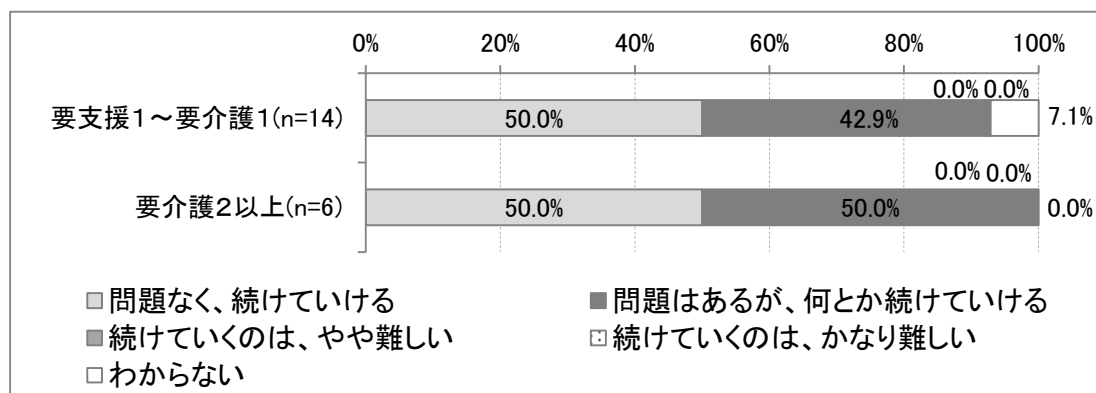
図表に 2-9 によると、いずれの勤務形態においても、ほとんどの介護者が就労を継続できると回答しており、勤務形態の違いによる就労継続見込みの差異はあまり見られません。

図表 2-10、図表 2-11 によると、重度要介護者の介護者であっても、就労継続見込みが悪化する傾向は見られません。

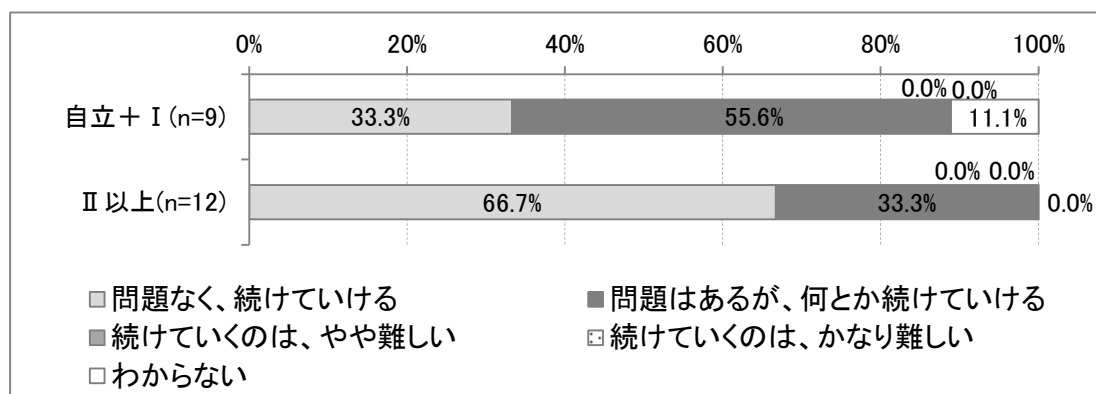
図表 2-9 就労状況別・就労継続見込み



図表 2-10 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



図表 2-11 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

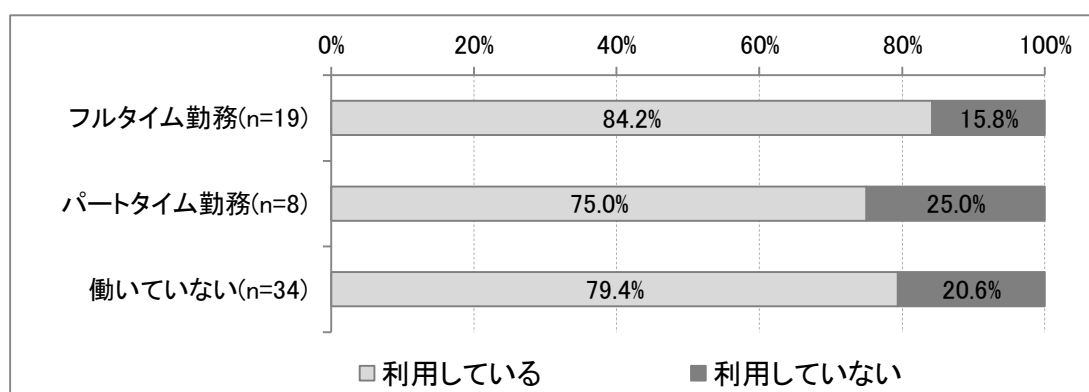


(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。

図表 2-12 によると、本町では、介護者が「フルタイム勤務」、「働いていない」、「パートタイム勤務」の順に介護保険サービスの利用割合が高くなる傾向が見られました。

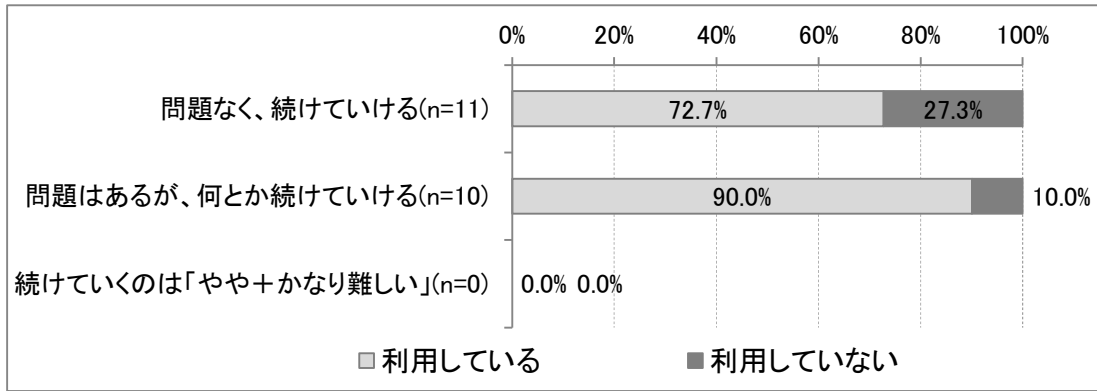
図表 2-12 就労状況別・★介護保険サービス利用の有無



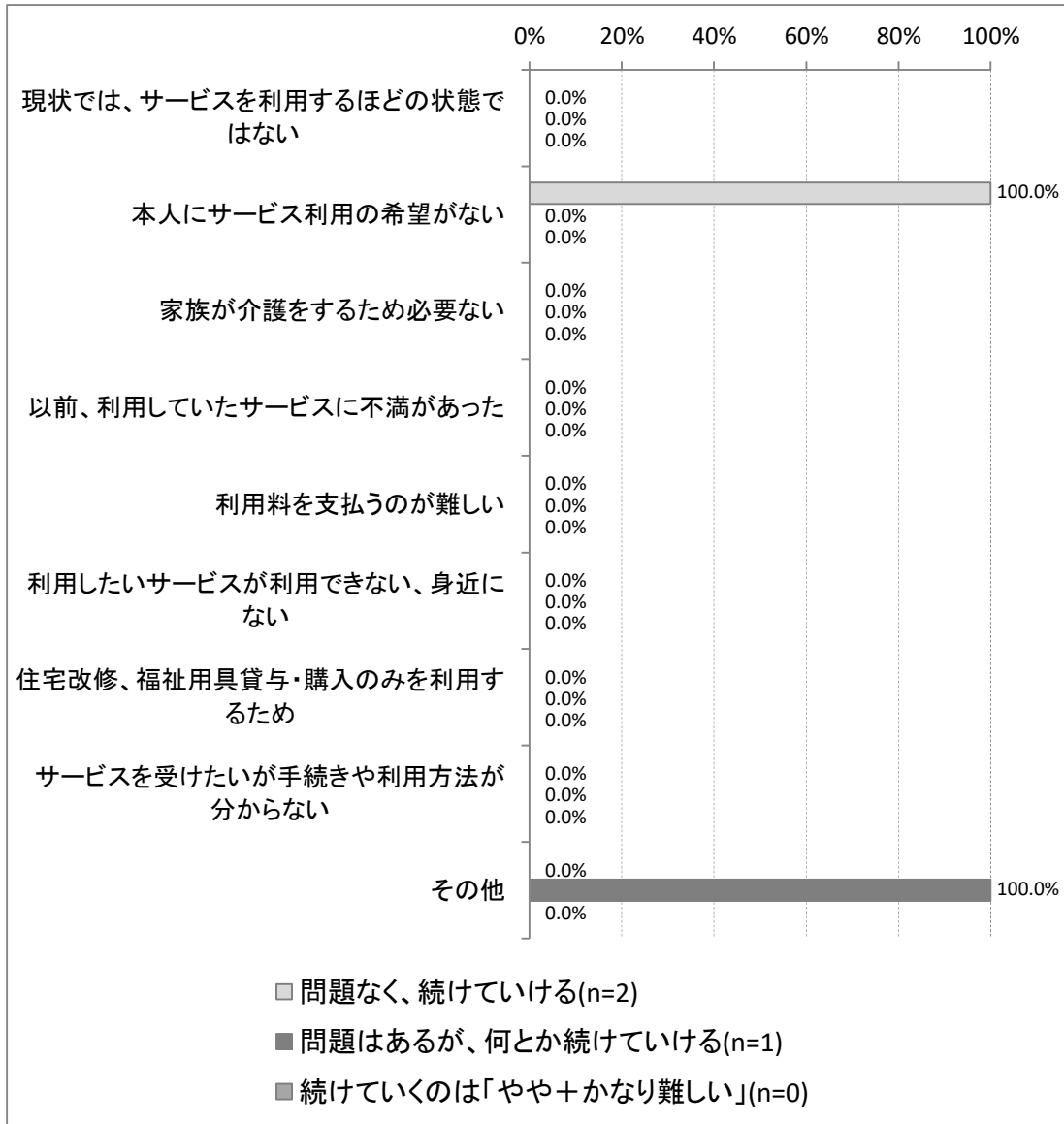
また、「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析からは、サービスを利用していない方の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える方が、そうでない方と比較して特徴が見られる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。

例えば、就労継続が困難と考える方において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないこととなります。図表 2-13、図表 2-14 から、今回の調査では標本数が少なく、加えて就労継続の見込みが“続けていくのは「やや+かなり難しい」”と回答した方がいないことから、町の傾向をとらえることは難しい結果となっています。

図表 2-13 就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

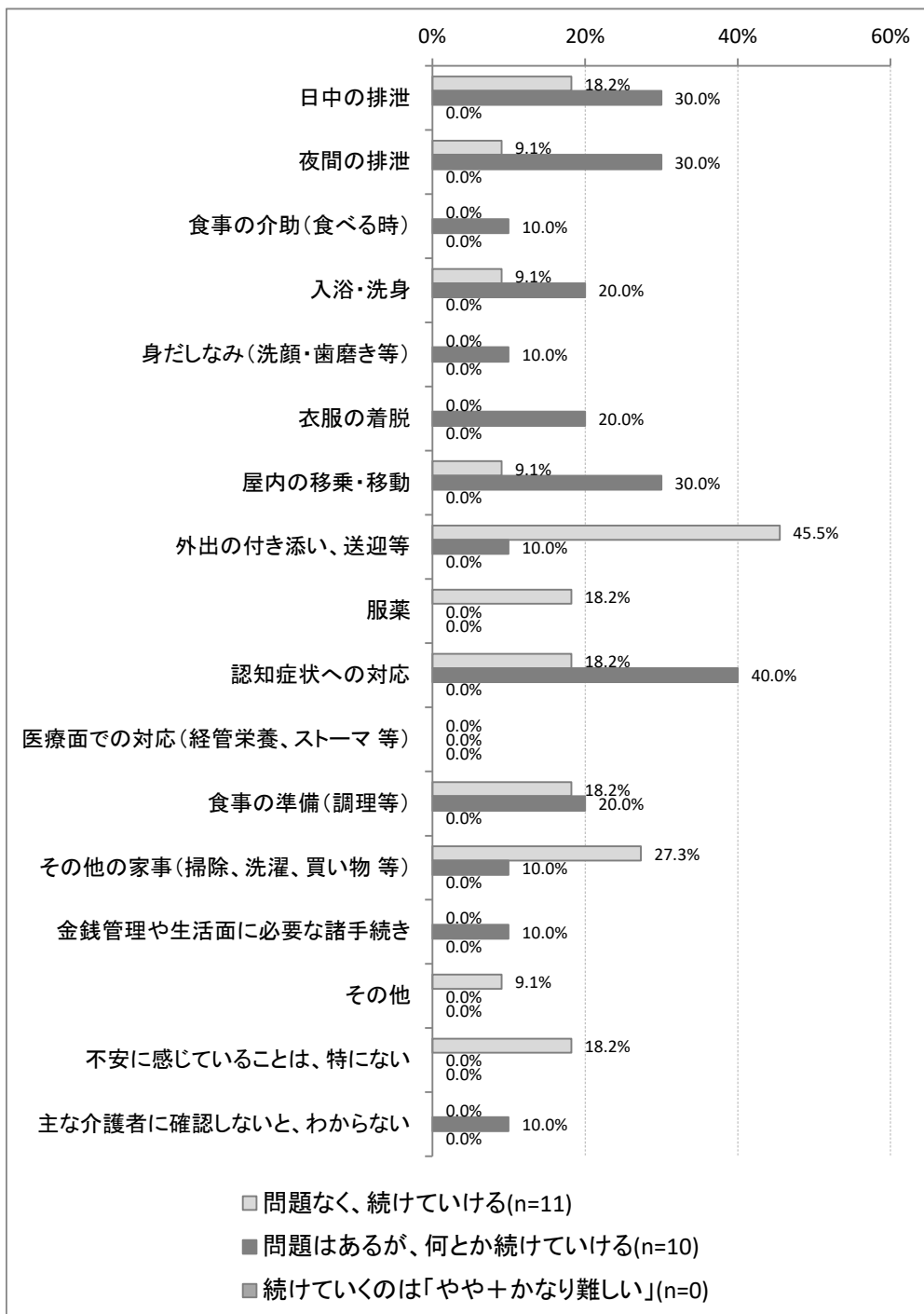


図表 2-14 就労継続見込み別・★サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務）



「主な介護者が不安を感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。図表 2-15 によると、今回の調査では標本数が少なく、在宅生活を継続しながらの就労継続に寄与するサービスの特定・考察が難しくなっていますが、問題があると回答している方では、「認知症状への対応」（4人）や「日中の排泄」「夜間の排泄」「屋内の移乗・移動」（3人）において、不安を感じていることが見て取れます。

図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安を感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

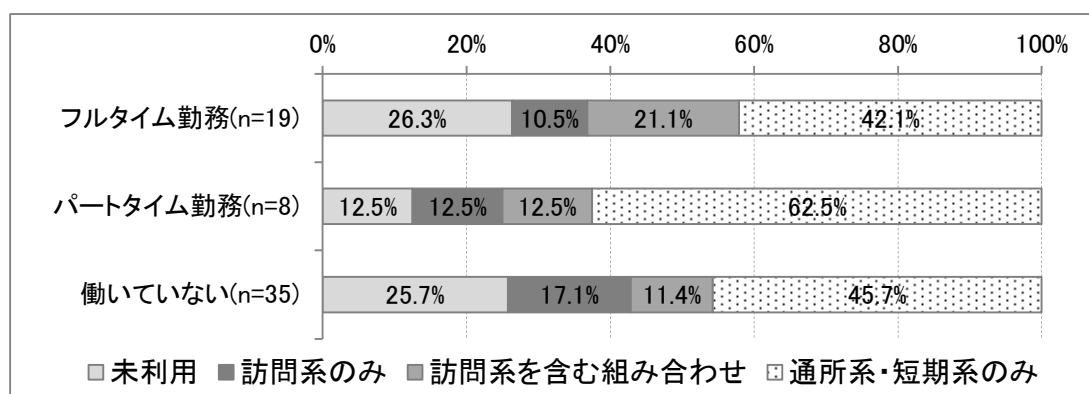


(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています（図表 2-16～図表 2-18）。ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差が見られるかどうかを把握することができます。

図表 2-16 によると、本町では、パートタイム勤務の介護者のケースで、「通所系・短期系のみ」の利用割合が比較的高い（8人中5人）傾向が見られます。

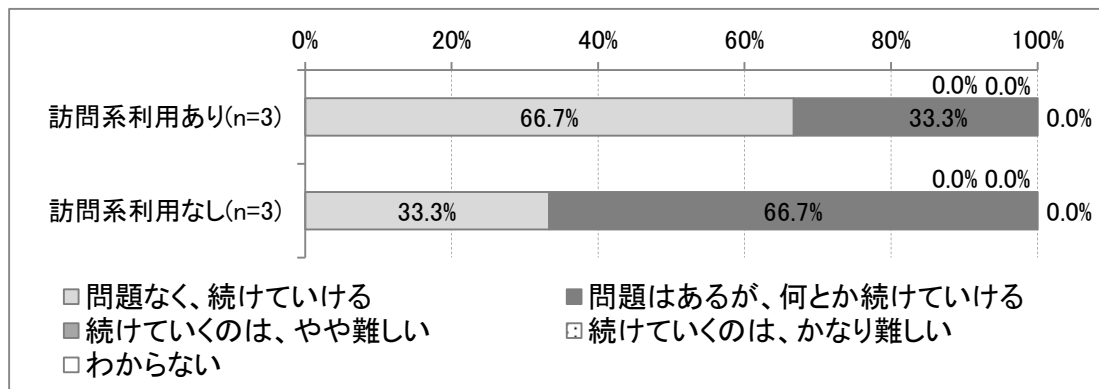
図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



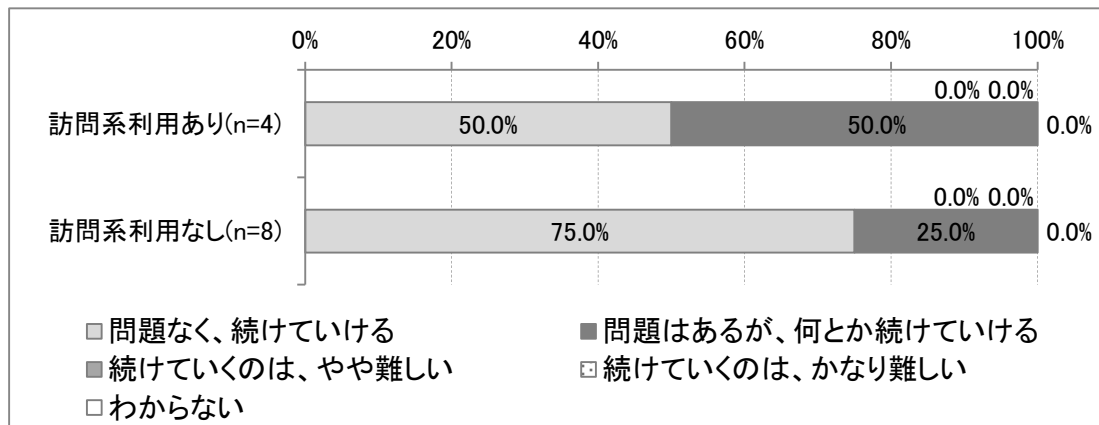
「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

図表 2-17、図表 2-18 によると、標本数が少なく、加えて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と回答した方がいないことから、町の傾向をとらえることは難しい結果となっています。

図表 2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(要介護 2 以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



図表 2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)

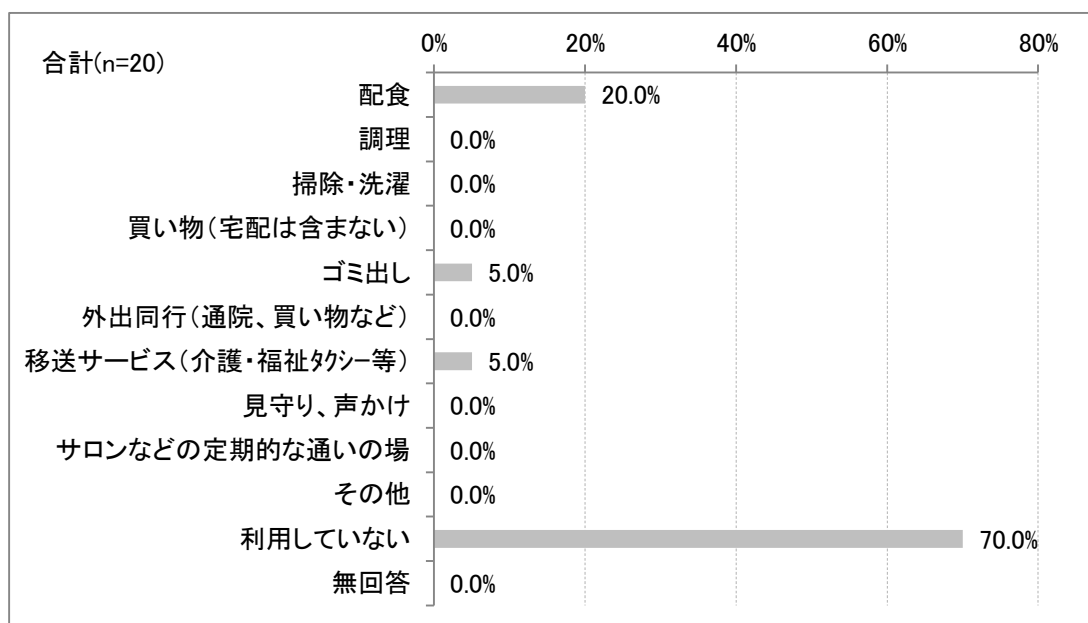


(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

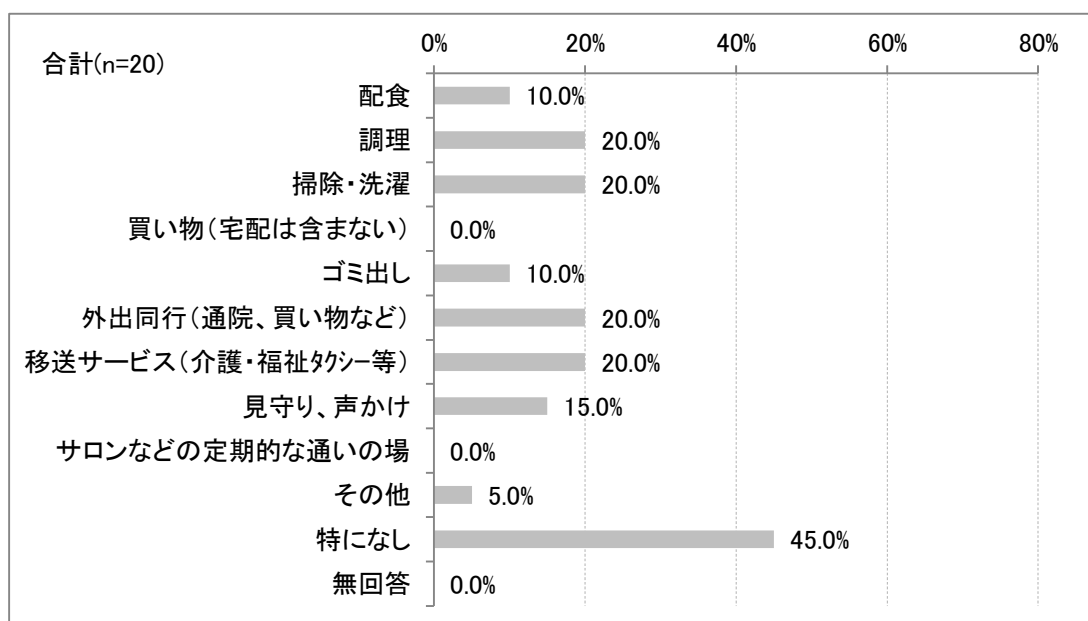
「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差を見ることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。

図表 2-19_1、図表 2-19_2 によると、本町では、フルタイム勤務の介護者は、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の必要と感じる割合が、多くの支援・サービスにおいて、「利用している保険外の支援・サービス」の必要と感じる割合より高くなっています。

図表 2-19_1 ★利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



図表 2-19_2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



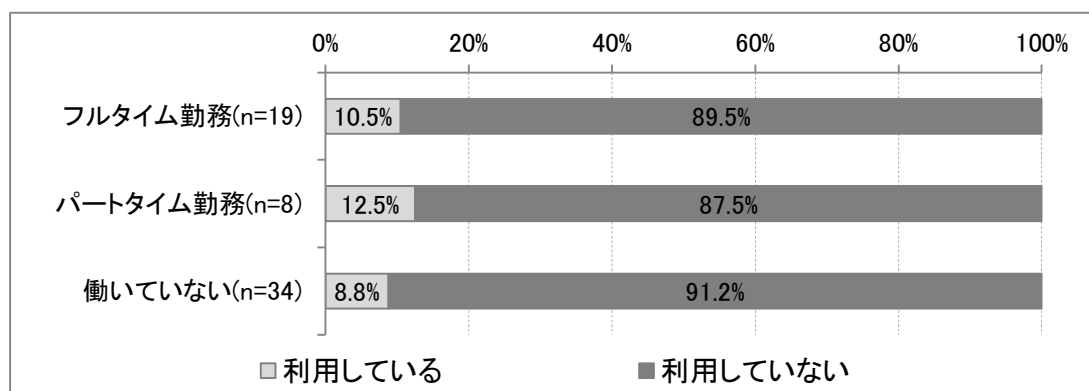
また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができます。

図表 2-20 によると、本町では就労状況による訪問診療を利用している割合の差は見られません。

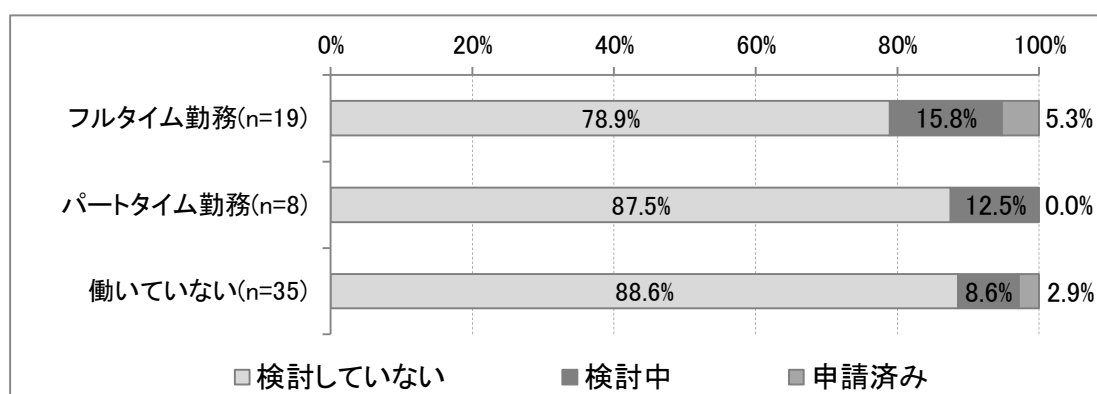
「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。

図表 2-21 によると、本町では介護者がフルタイム勤務の場合、施設入所を「検討中」または「申請済み」の割合が他の区分に比べてやや高くなっています（4人）。

図表 2-20 就労状況別・★訪問診療の利用の有無



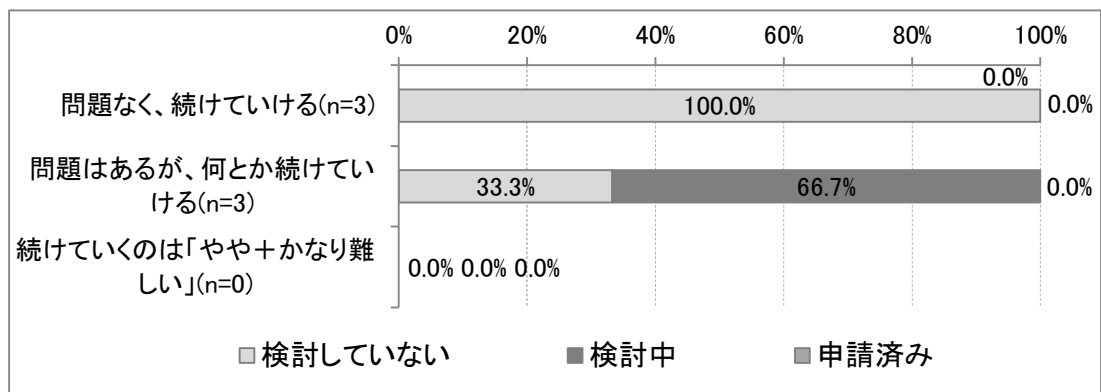
図表 2-21 就労状況別・施設等検討の状況



さらに、要介護2以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える方のうち、どの程度の方が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性と、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

図表 2-22 によると、本町では就労継続の見込みについて、「続けていくのは、やや難しい」及び「続けていくのは、かなり難しい」と回答した方はいませんが、「問題はあるが、何とか続けている」と回答した3人のうち2人は施設を検討しています。

図表 2-22 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）

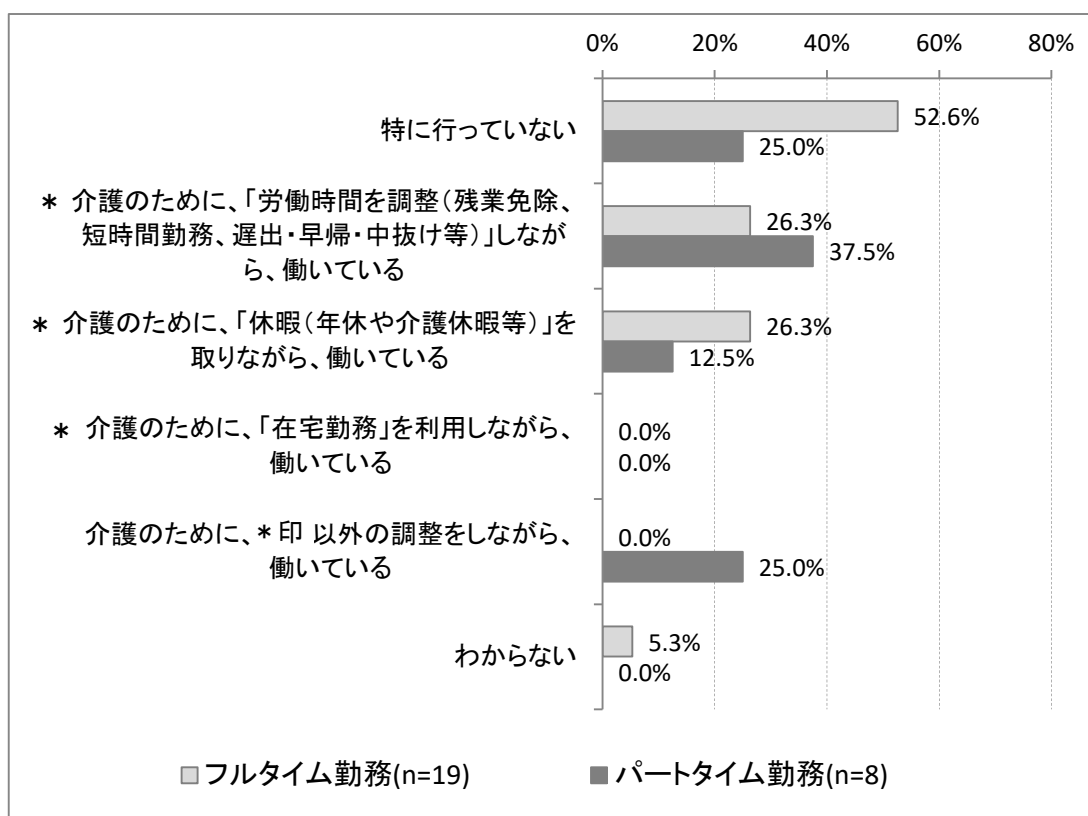


(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。

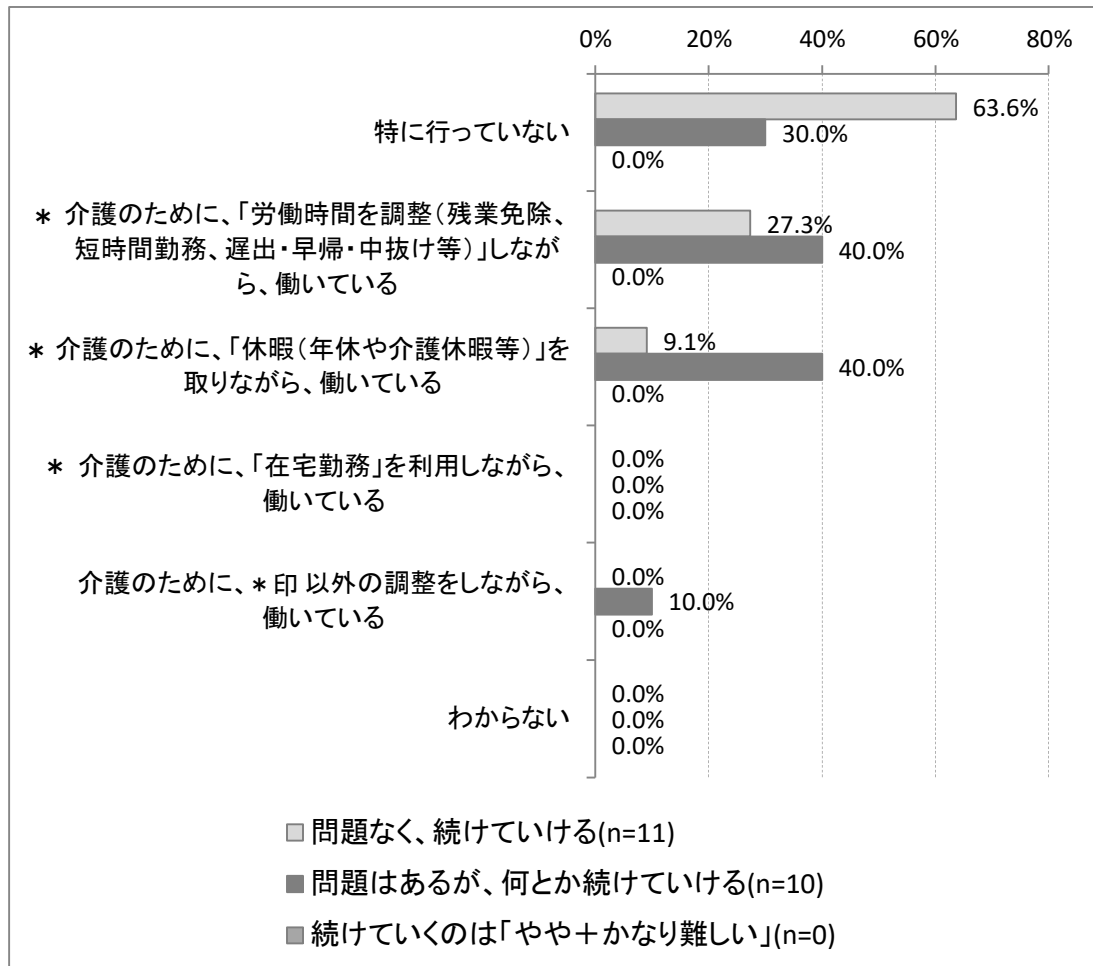
図表 2-23 によると、フルタイム勤務では 19 人中 10 人が「特に行っていない」と回答しています。パートタイム勤務では、8 人中 3 人が「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」と回答しています。

図表 2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整



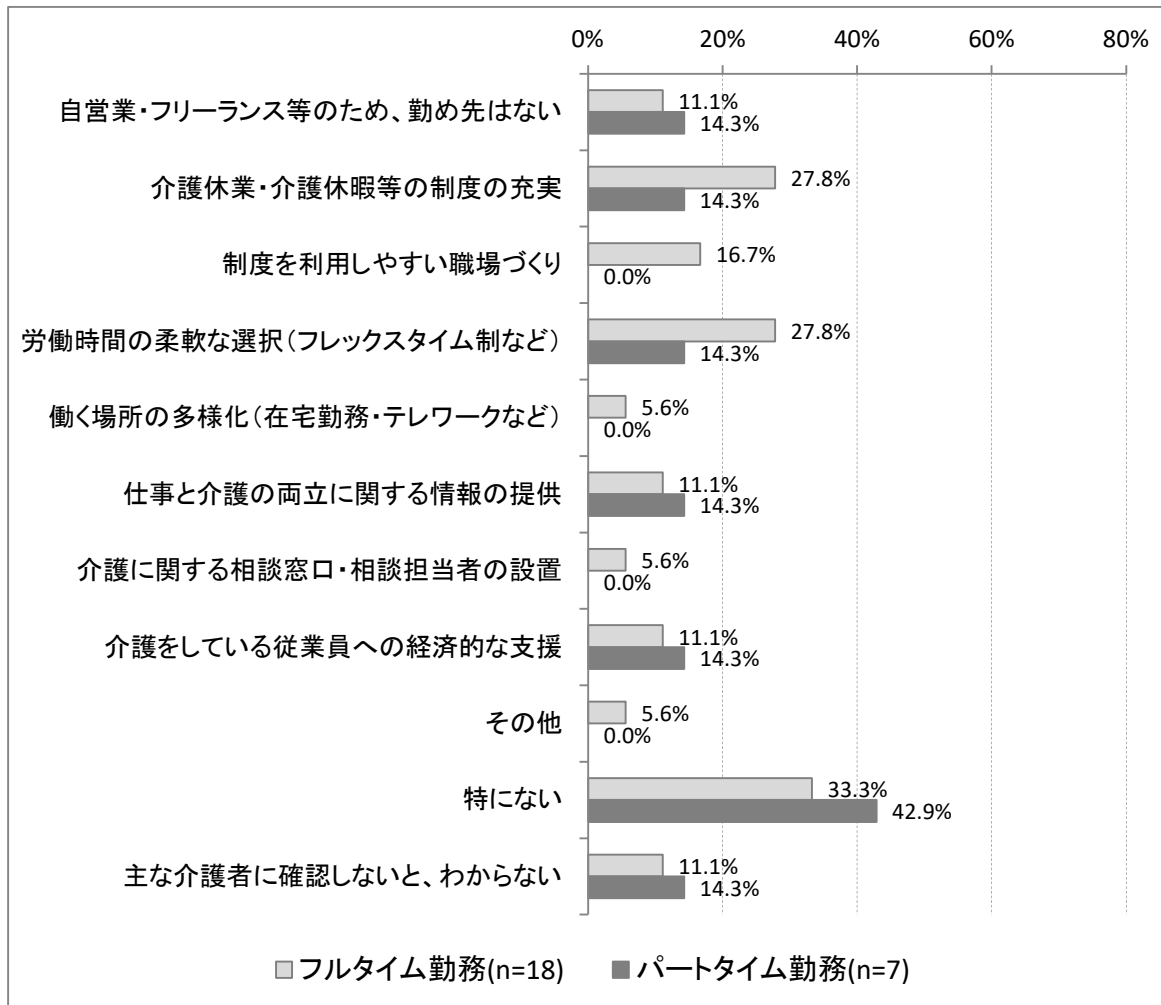
図表 2-24 によると、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と回答している人はいません。

図表 2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



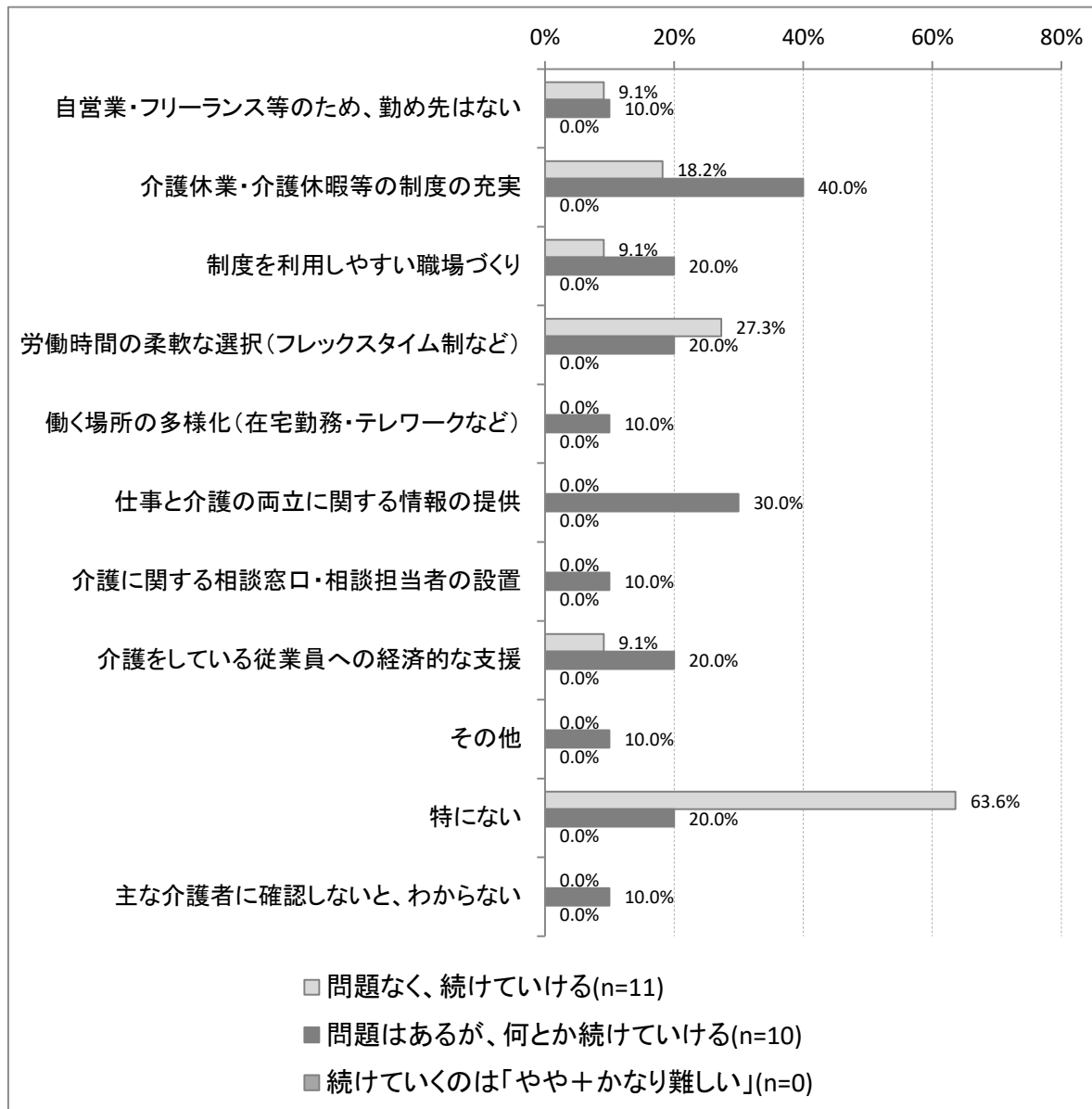
図表 2-25 によると、特に支援を受けたい旨の回答をした方の中では、フルタイム勤務の方は18人中5人が「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」と回答しており、他の支援に比べて高くなっています。

図表 2-25 就労状況別・★効果的な勤め先からの支援



図表 2-26 によると、就労継続見込みについて「問題はあるが、何とか続けている」方では、10人中4人が「介護休業・介護休暇等の制度の充実」と回答しています。

図表 2-26 就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



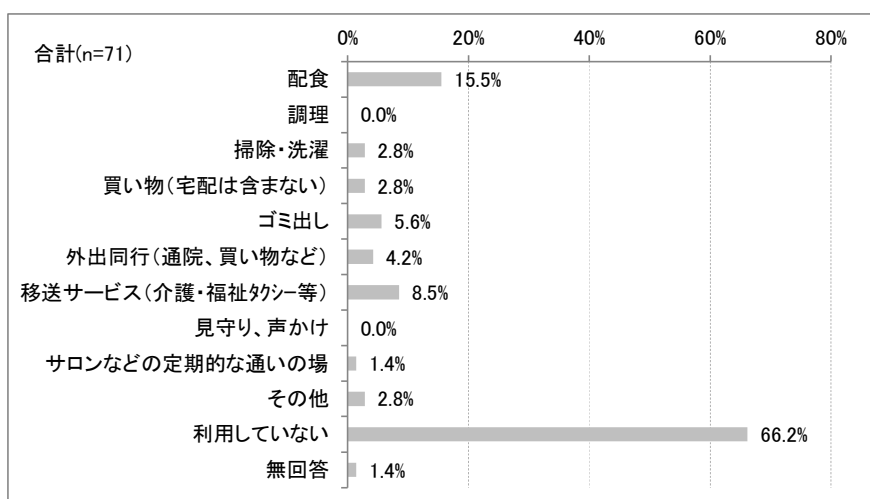
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。
- 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

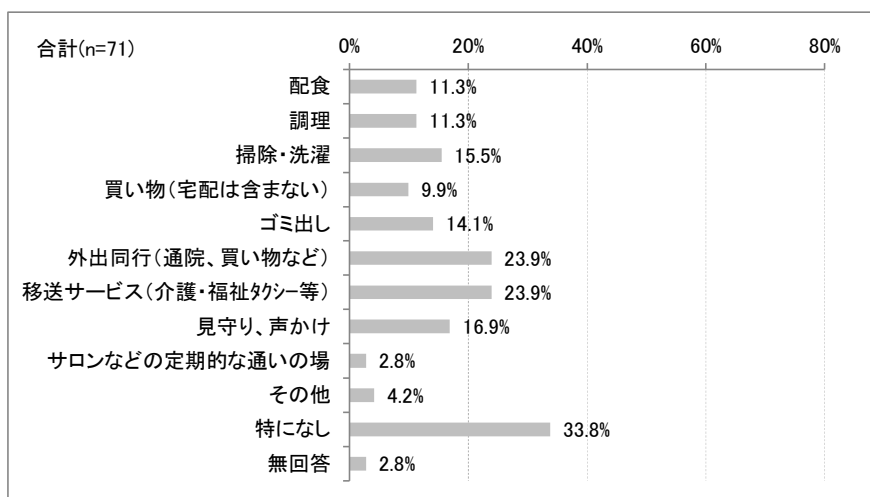
(1) 基礎集計

「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の割合が、「保険外の支援・サービスの利用状況」の割合より、総じて高いことがわかります。

図表 3-1 ★保険外の支援・サービスの利用状況



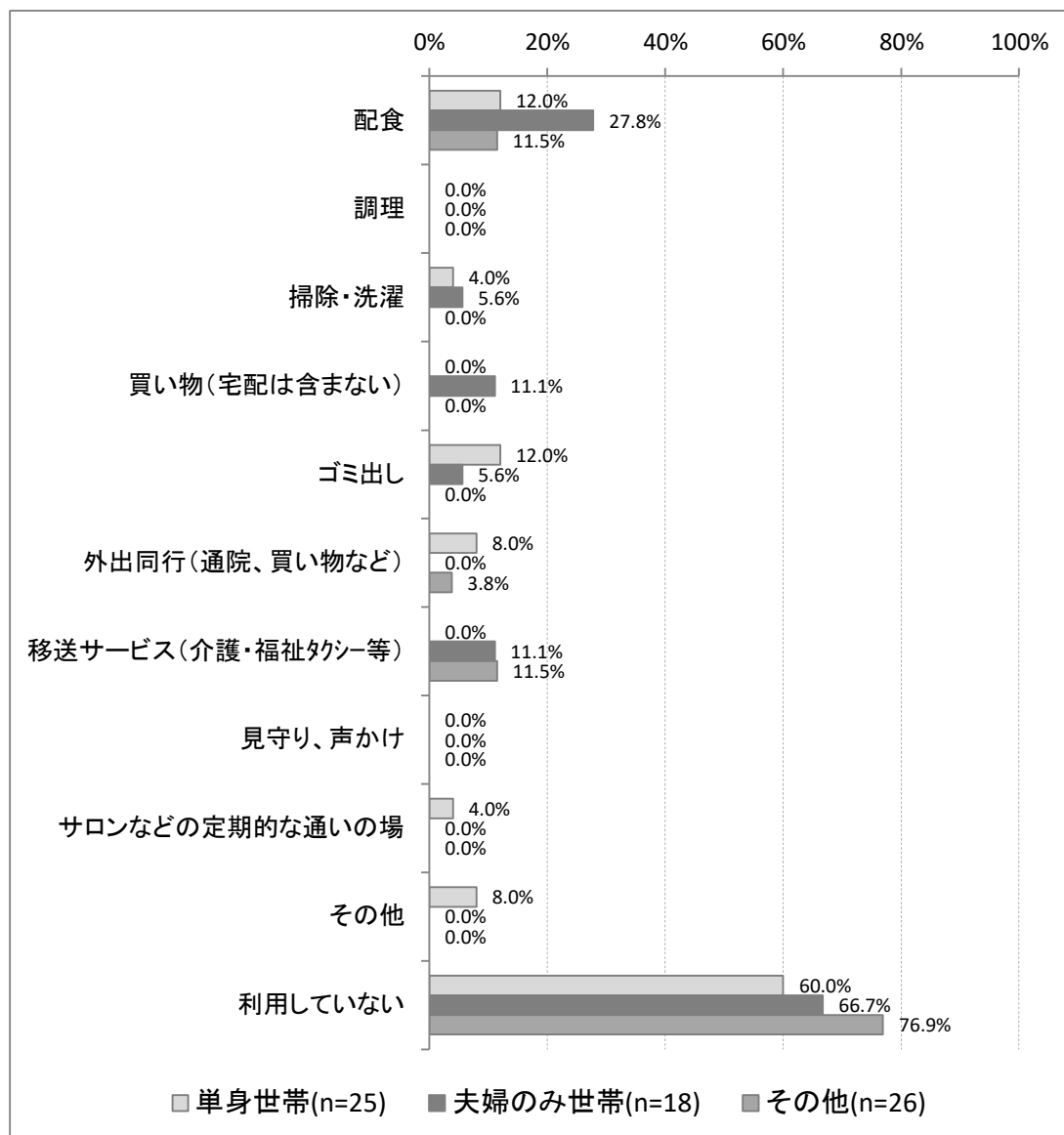
図表 3-2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

「保険外の支援・サービスの利用割合」については、施策をより良いものにしていく材料として、世帯類型別の割合を継続的に把握していくことが有効と考えられます。

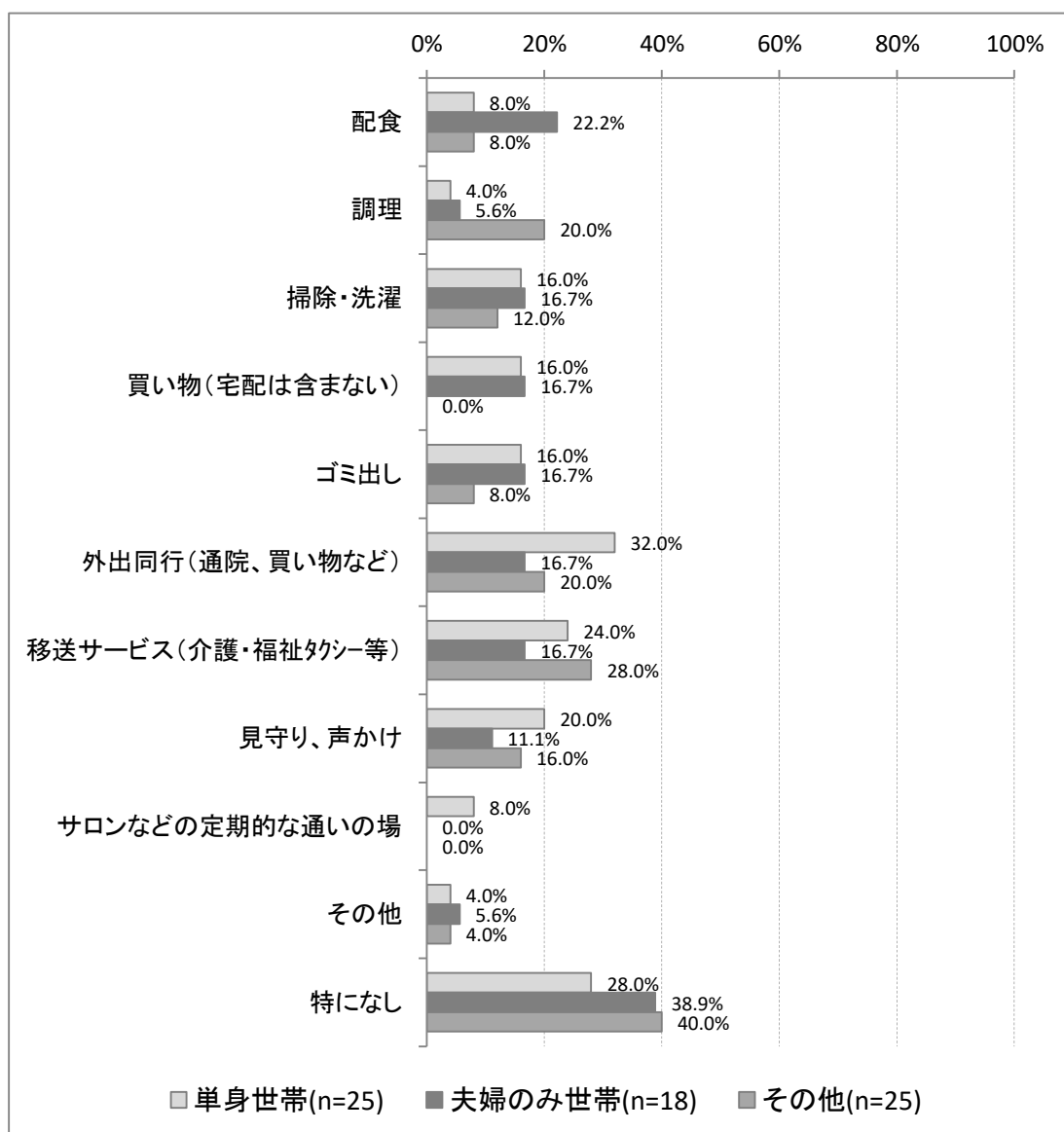
図表 3-3 世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況



図表 3-4 によると、単身世帯では「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「見守り、声かけ」の割合が高くなっており、夫婦のみ世帯では「配食」の割合が高くなっています。

なお、アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、特に「複数の支援・サービスを比較して、より優先順位の高い支援・サービスを明らかにする」といった視点で見ることが重要です。

図表 3-4 世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

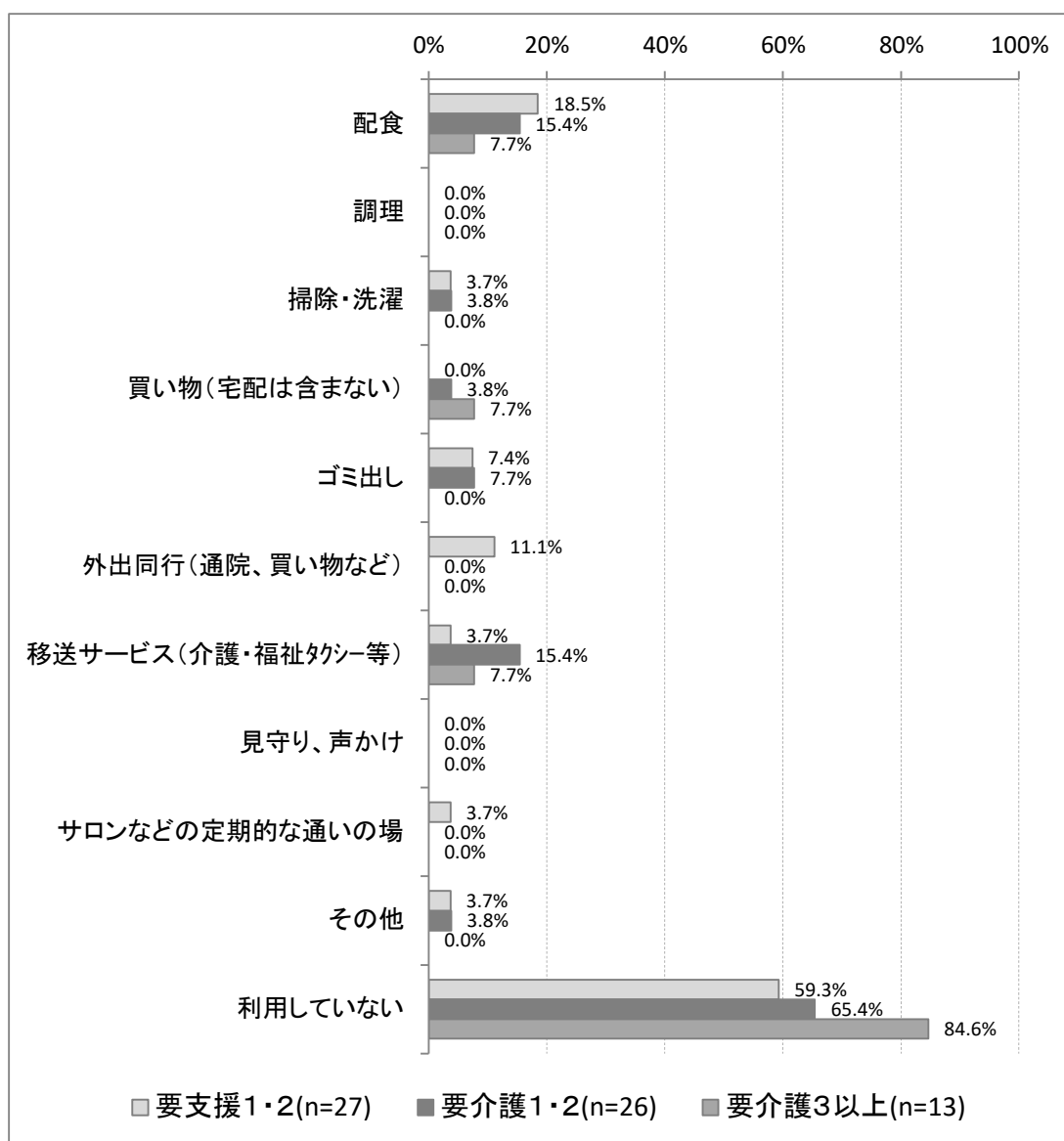


(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています（図表 3-5～図表 3-8）。

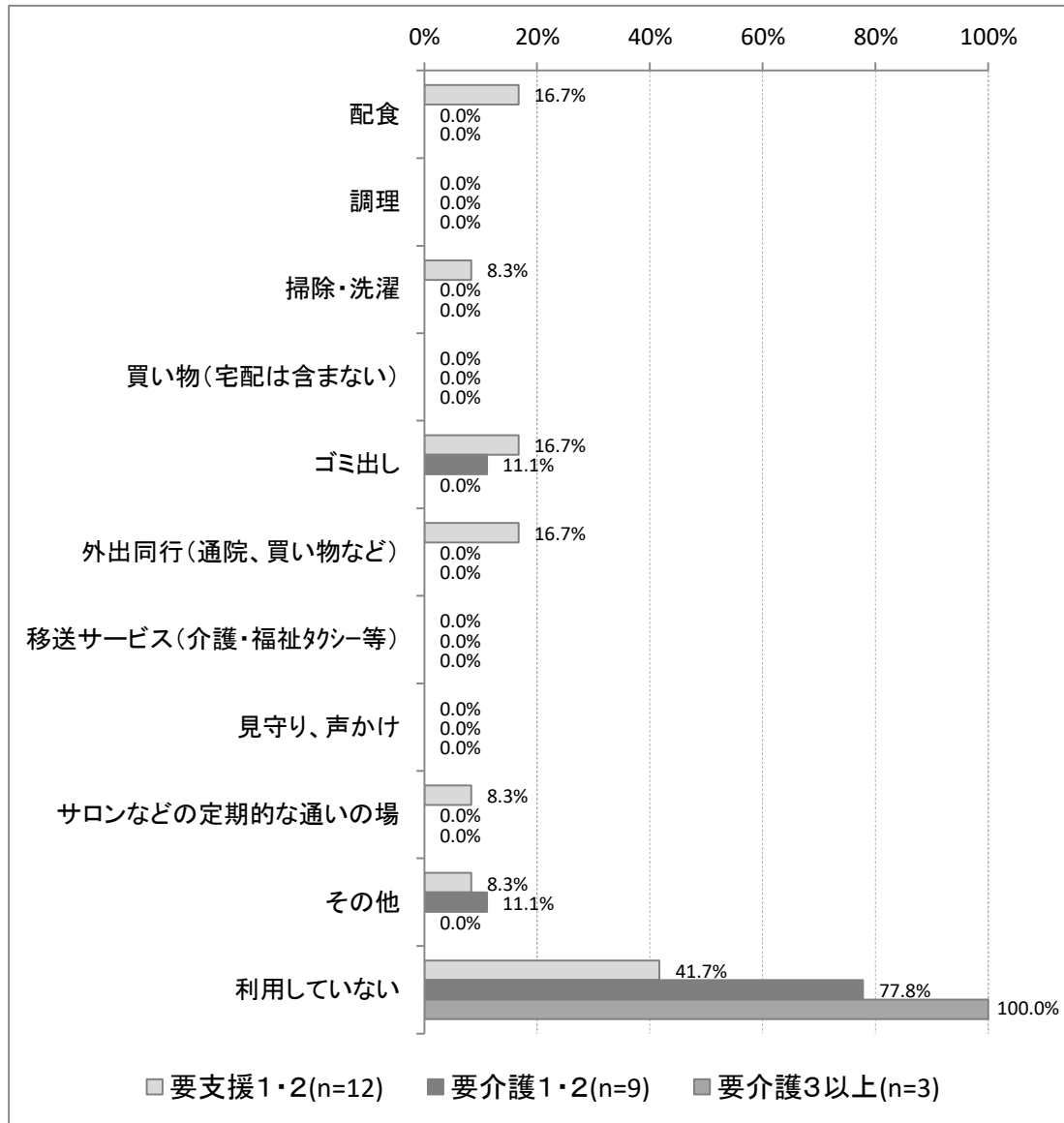
図表 3-5 によると、要支援 1・2 の「利用していない」割合が 59.3%と、要介護 1 以上と比べて低くなっており、要介護度が軽度である方が利用している傾向が見られます。

図表 3-5 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（全世帯）

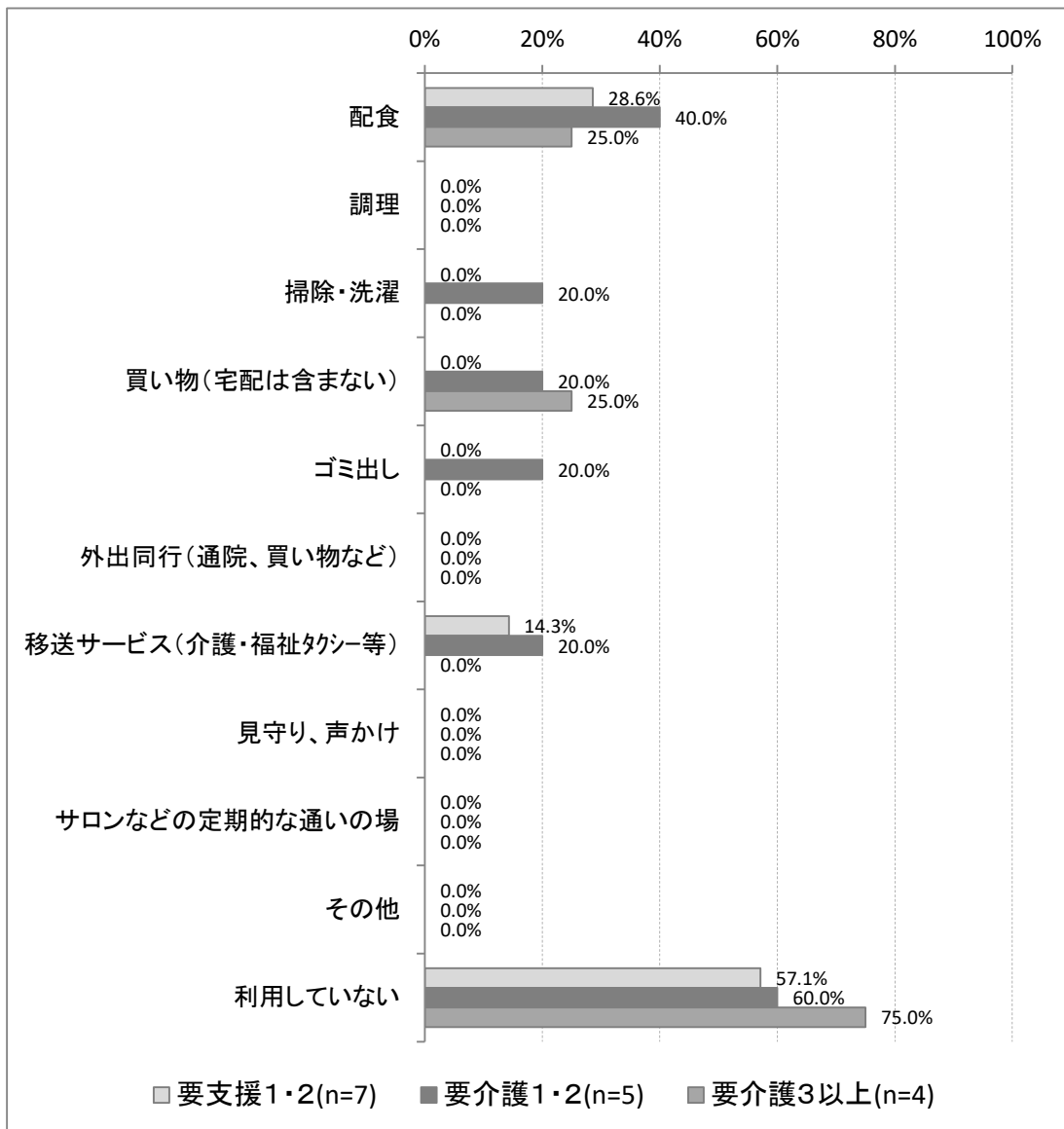


図表 3-6～図表 3-8 では標本数が少なく、町の傾向をとらえることは難しいですが、いずれの世帯でも「配食」の利用が見られ、夫婦のみ世帯とその他世帯では、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の利用が見られます。

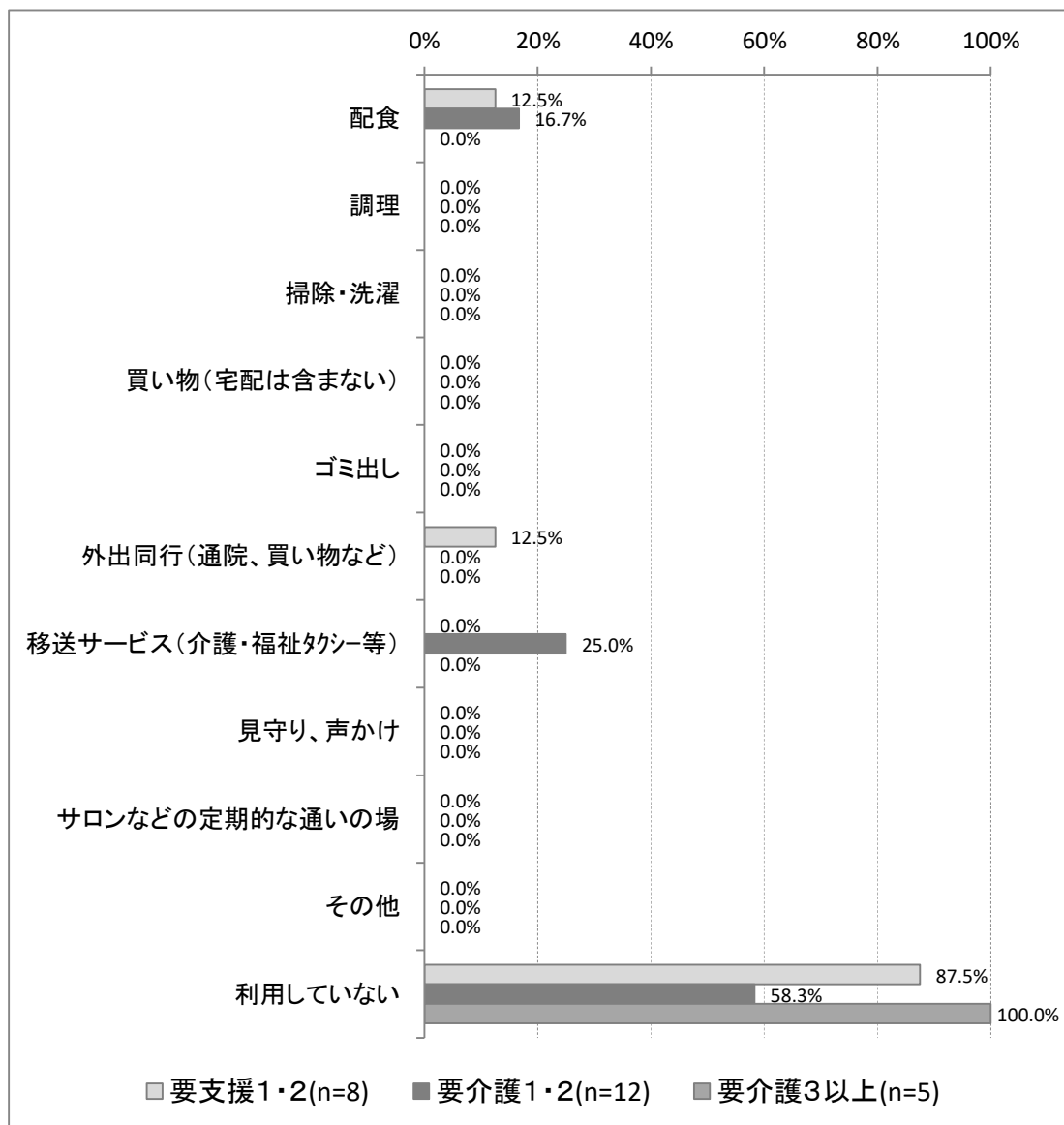
図表 3-6 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



図表 3-7 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）



図表 3-8 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）

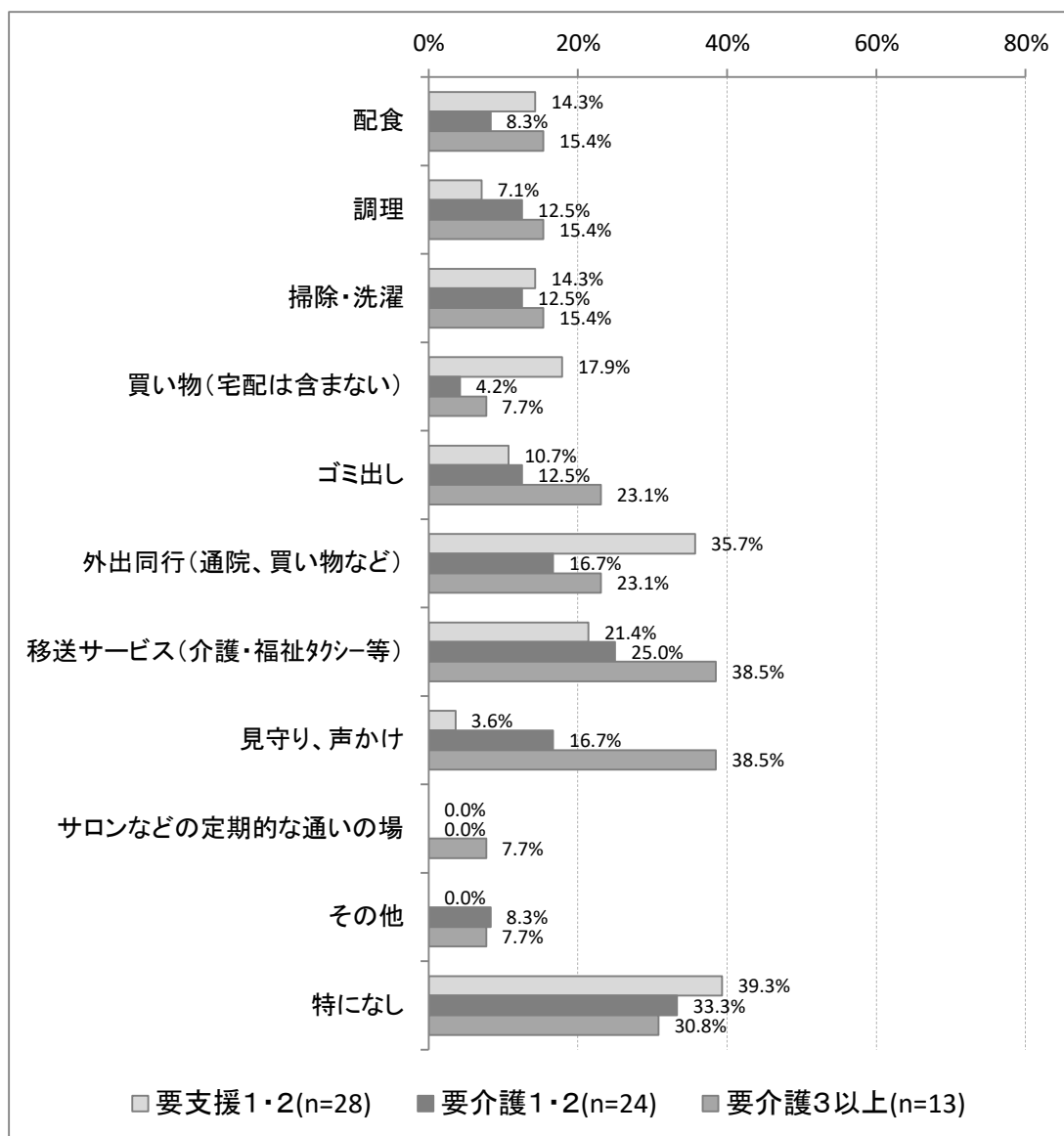


(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています(図表 3-9～図表 3-12)。

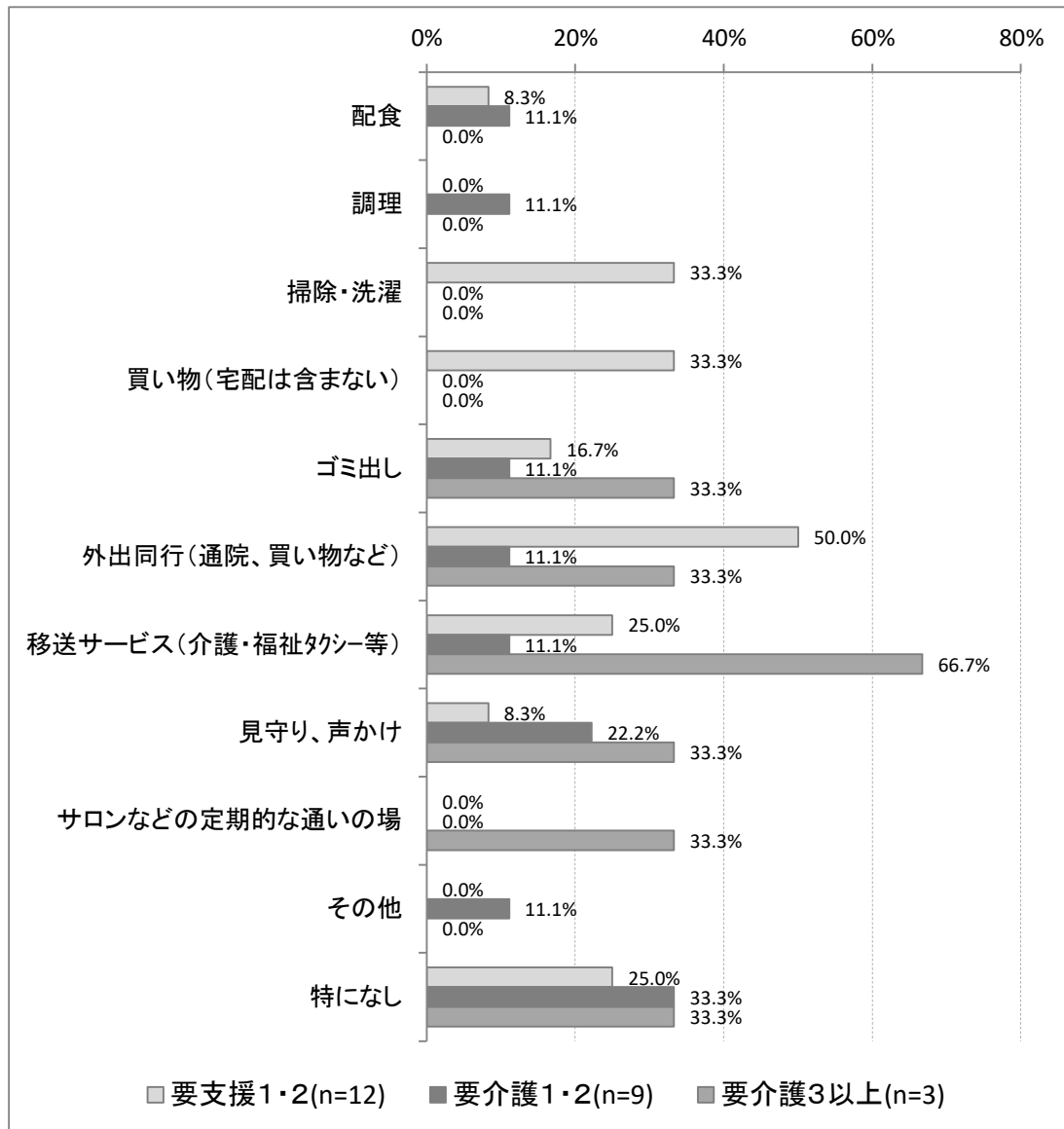
図表 3-9 によると、「必要と感じる支援・サービス」について、要介護度が高くなるにつれて、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」「見守り、声かけ」「調理」「ゴミ出し」は割合が高くなっており、特に、要介護3以上では、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」と「見守り、声かけ」の割合が高くなっています。

図表 3-9 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(全世界帯)



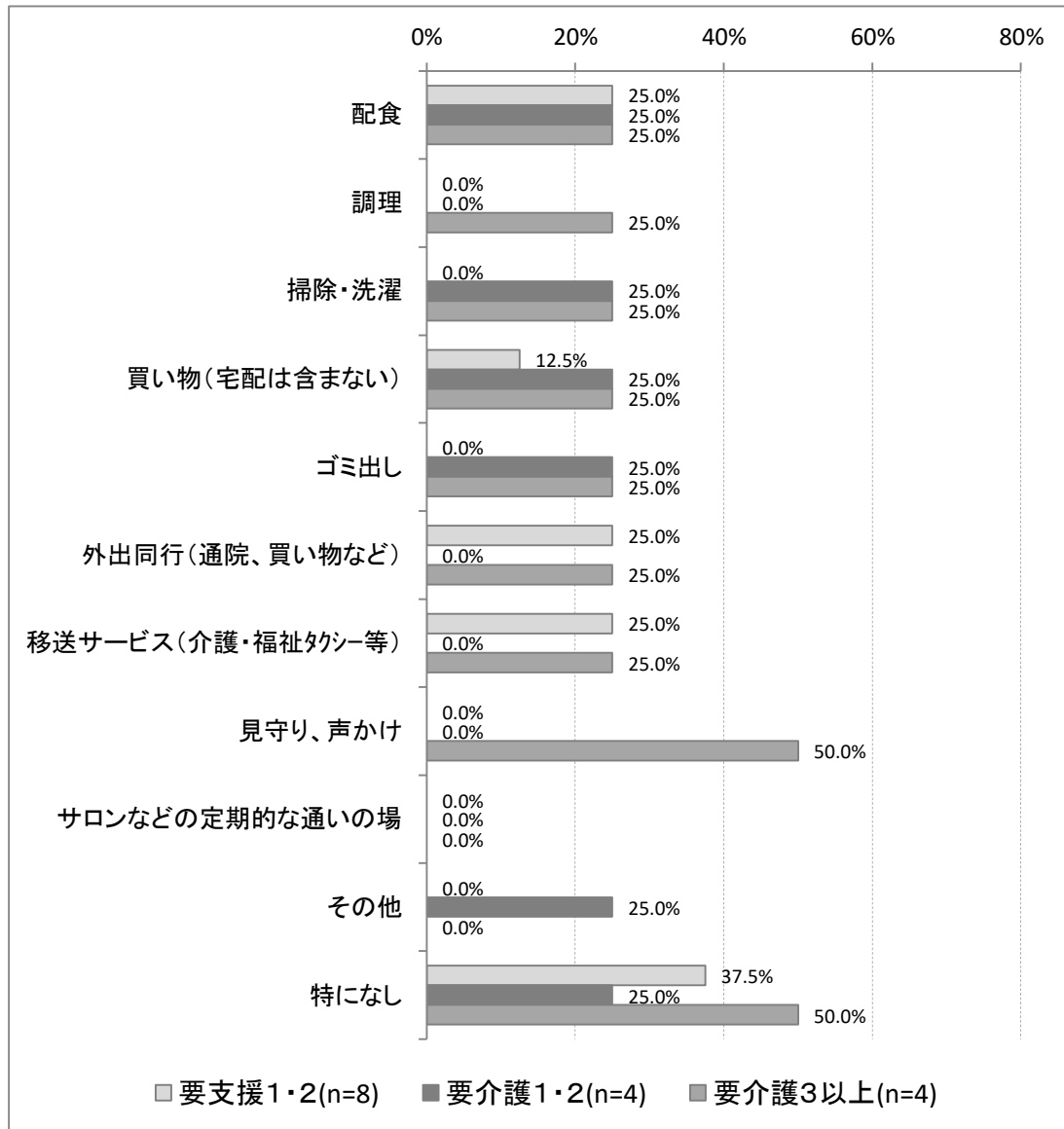
図表 3-10 では標本数が少なく、町の傾向をとらえることは難しいですが、単身世帯の要支援 1・2 では「外出同行（通院、買い物など）」が 50.0%（6 人）、要介護 1・2 では「見守り、声かけ」が 22.2%（2 人）、要介護 3 以上で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 66.7%（2 人）と割合が高くなっています。

図表 3-10 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



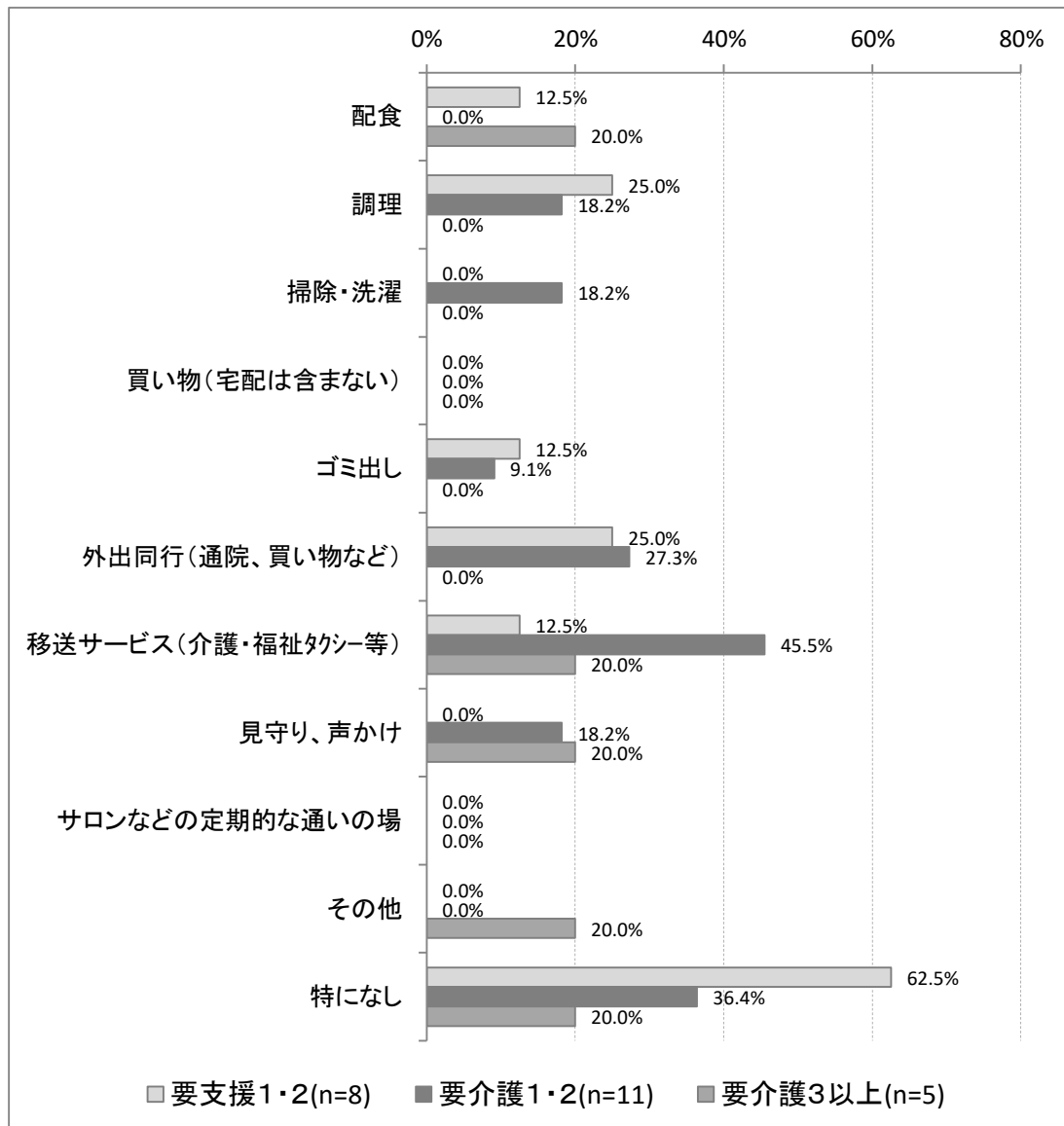
図表 3-11 では標本数が少なく、町の傾向をとらえることは難しいですが、「配食」「買い物(宅配は含まない)」においてはすべての要介護度で必要との回答があります(1~2人)。

図表 3-11 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)



図表 3-12 では標本数が少なく、町の傾向をとらえることは難しいですが、その他の世帯の要介護 1・2 では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 45.5%（5 人）と割合が高くなっています。また、要支援 1・2 では「特になし」が 8 人中 5 人となっています。

図表 3-12 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

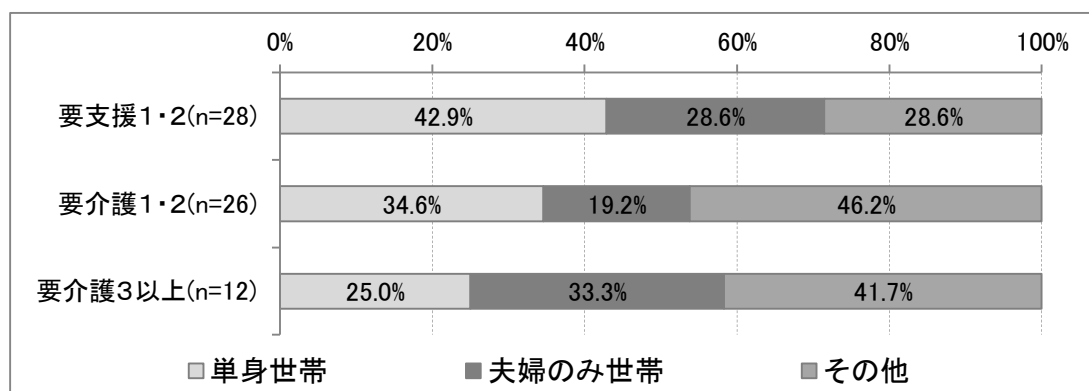
- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

(1) 基礎集計

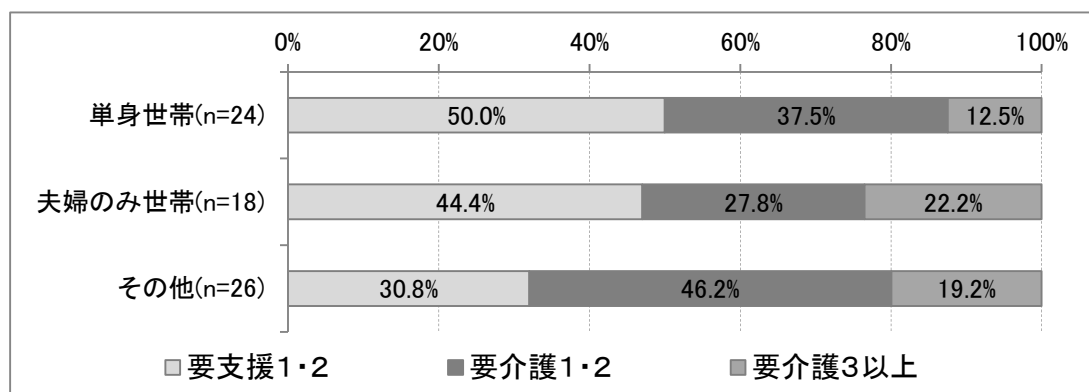
「要介護度別の世帯類型の割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています(図表 4-1、図表 4-2)。

要介護度が重度であるほど、単身世帯の割合は低くなる傾向にあります。

図表 4-1 要介護度別・世帯類型



図表 4-2 世帯類型別・要介護度

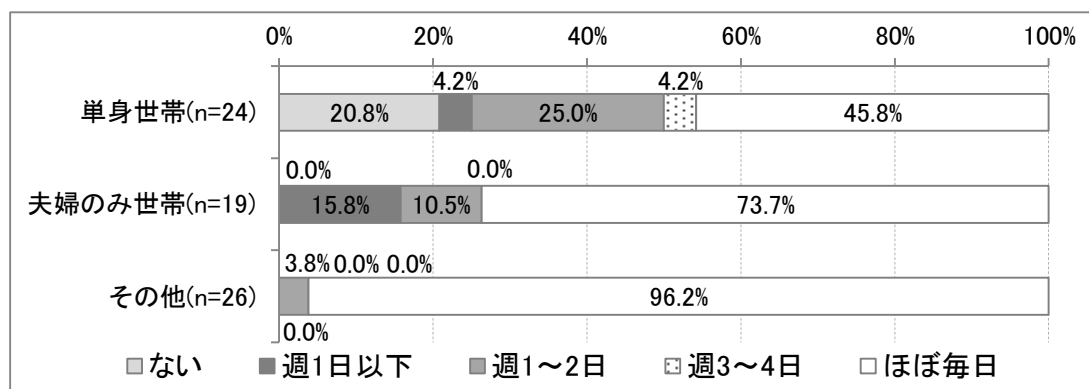


(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

図表 4-3 では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表 4-4～図表 4-6 では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。

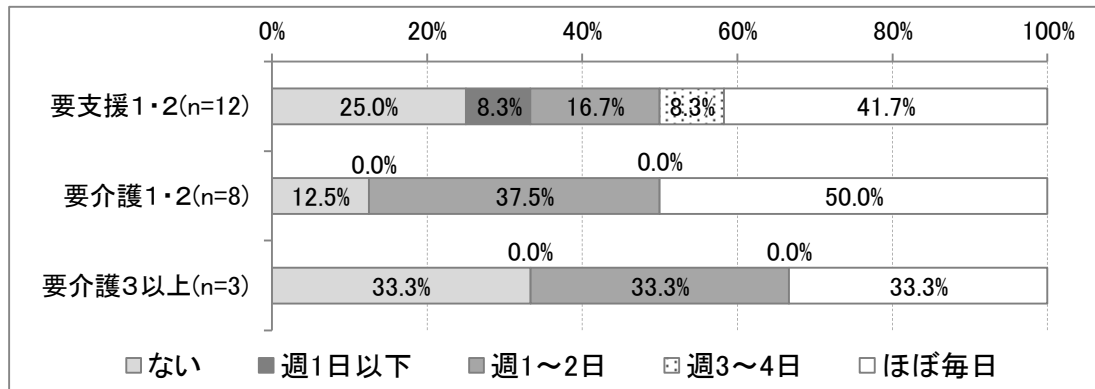
図表 4-3 によると、単身世帯、夫婦のみ世帯、その他の世帯の順に、「家族等による介護の頻度」が多くなる傾向が見られます。

図表 4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度

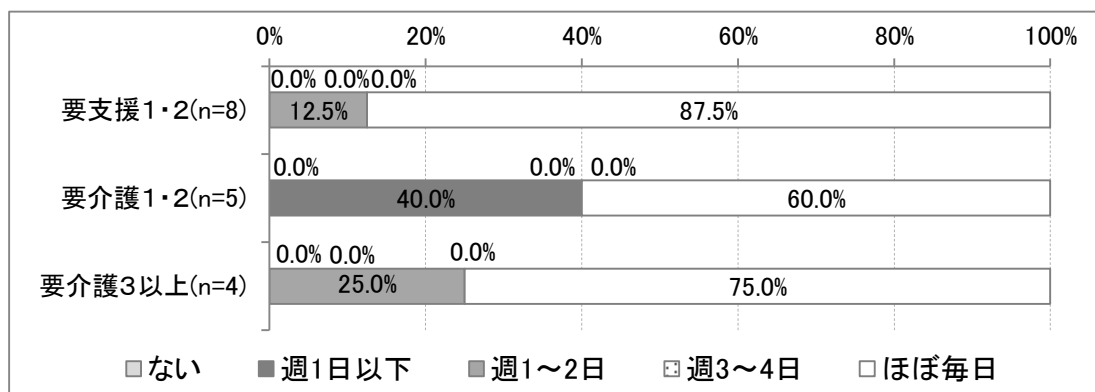


また、図表 4-4～図表 4-6 では標本数が少なく、町の傾向をとらえることは難しい結果となっています。

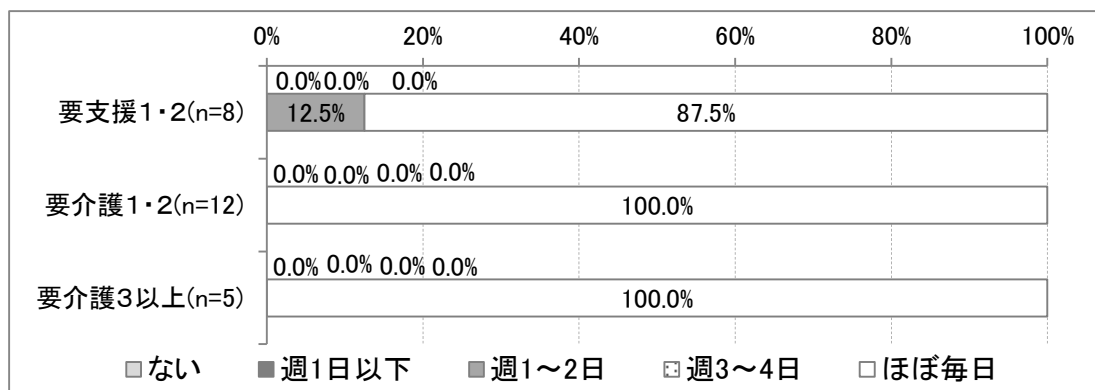
図表 4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



図表 4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



図表 4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

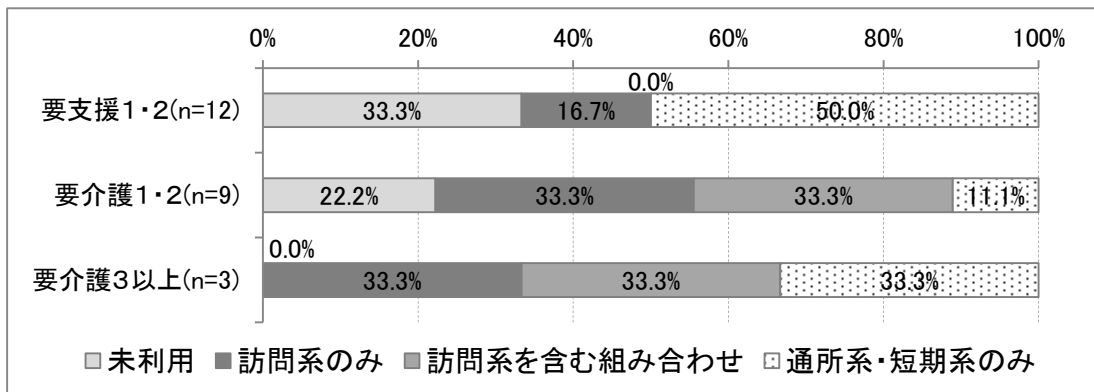
サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、介護者の休息的な機能（レスパイト機能）をもつ「通所系・短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含む組み合わせ」の3種類（未利用を除く）に簡略化したものを使用しています。

重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。

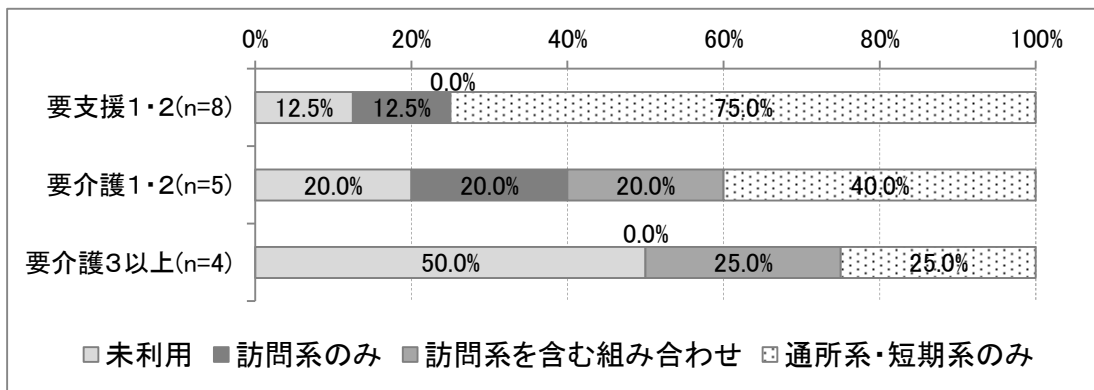
図表 4-7～図表 4-9 では標本数が少なく、町の傾向をとらえることは難しいですが、夫婦のみ世帯とその他世帯において、要介護度が上がるにつれて通所系・短期系のみのサービス利用割合が低くなっています。

図表 4-10～図表 4-12 についても標本数が少なく、町の傾向をとらえることは難しいですが、その他世帯では要介護度が上がるにつれて、通所系・短期系のみのサービス利用割合が高くなっています。

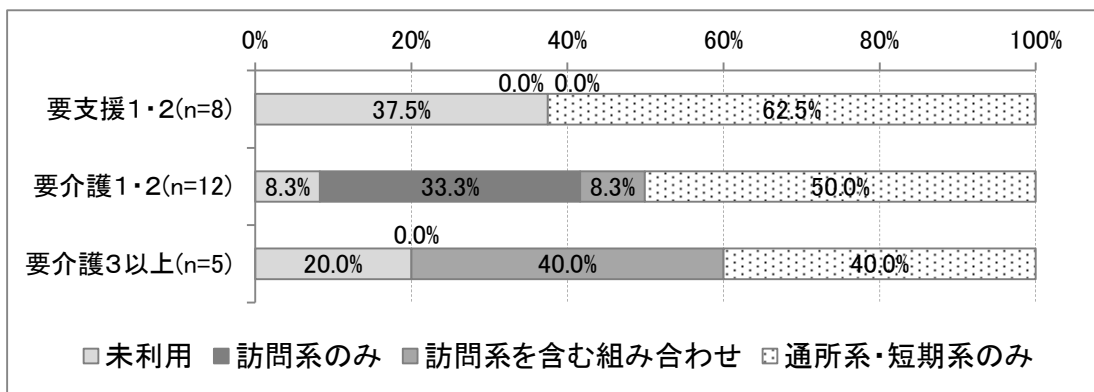
図表 4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



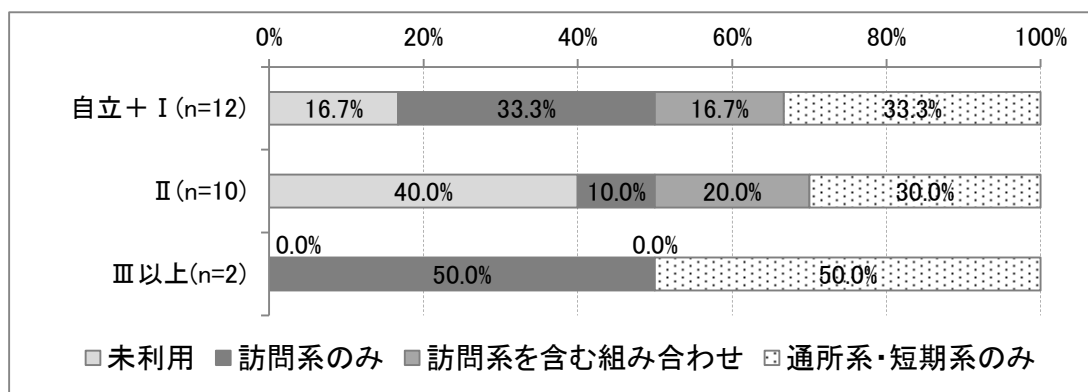
図表 4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



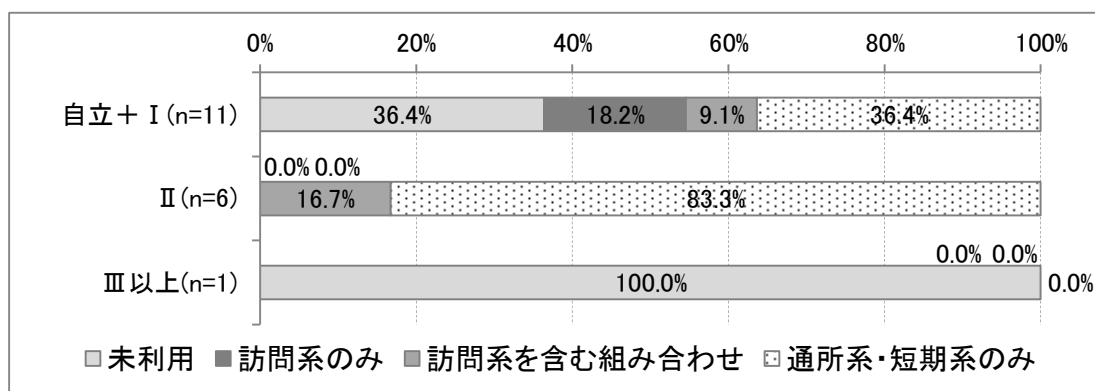
図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



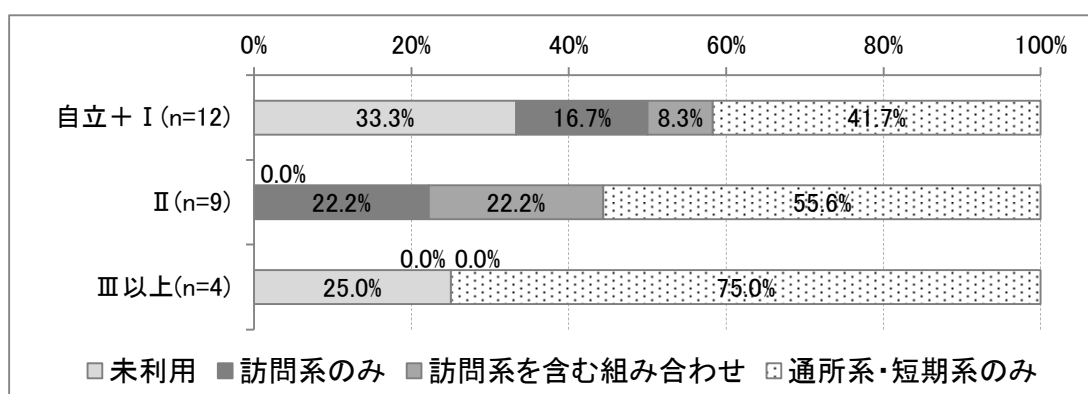
図表 4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



図表 4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



図表 4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



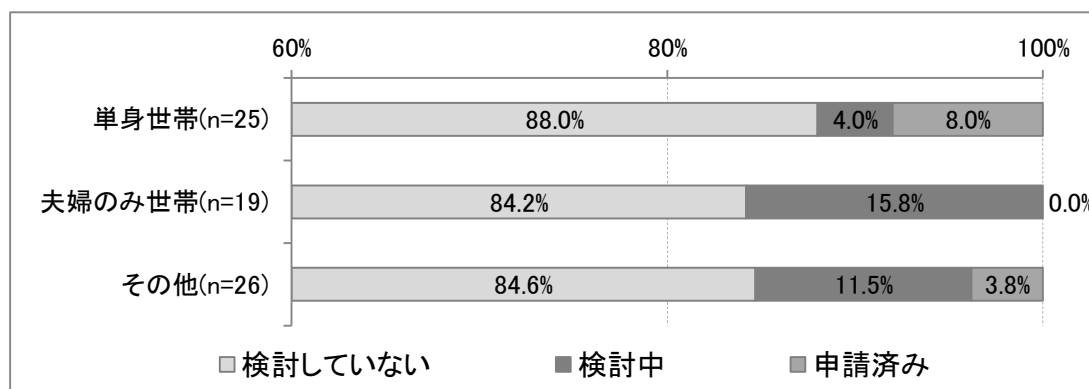
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。

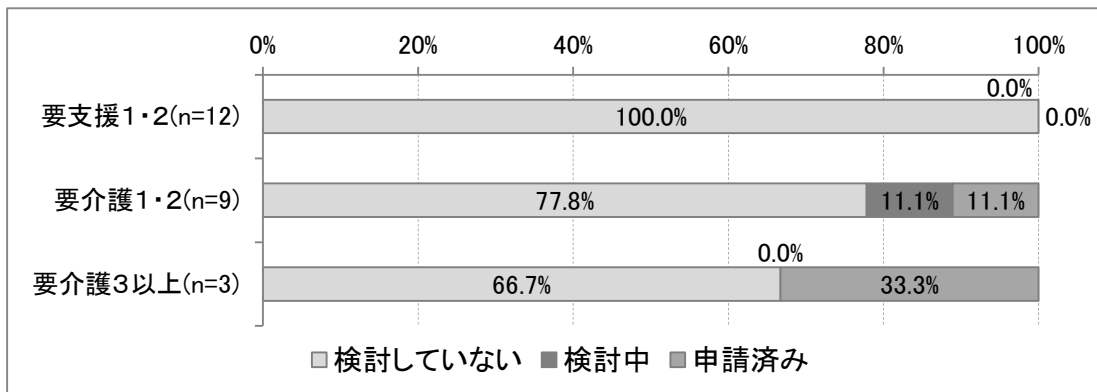
図表 4-13 をみると、単身世帯では「検討中」は他の世帯に比べ割合が低いものの「申請済み」は8.0%と高くなっています。また、「検討していない」が88.0%となっています。

図表 4-14～図表 4-19 では標本数が少なく、町の傾向をとらえることは難しいですが、今回の調査対象者においては、「検討していない」の割合が高くなっています。

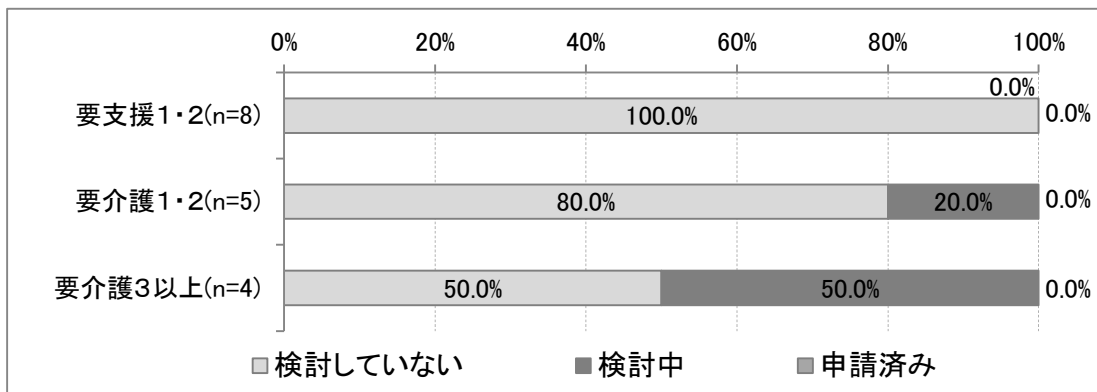
図表 4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



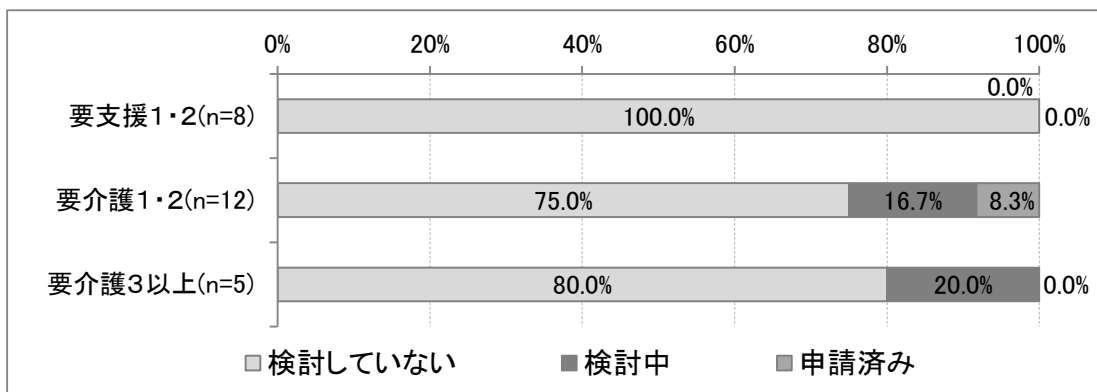
図表 4-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



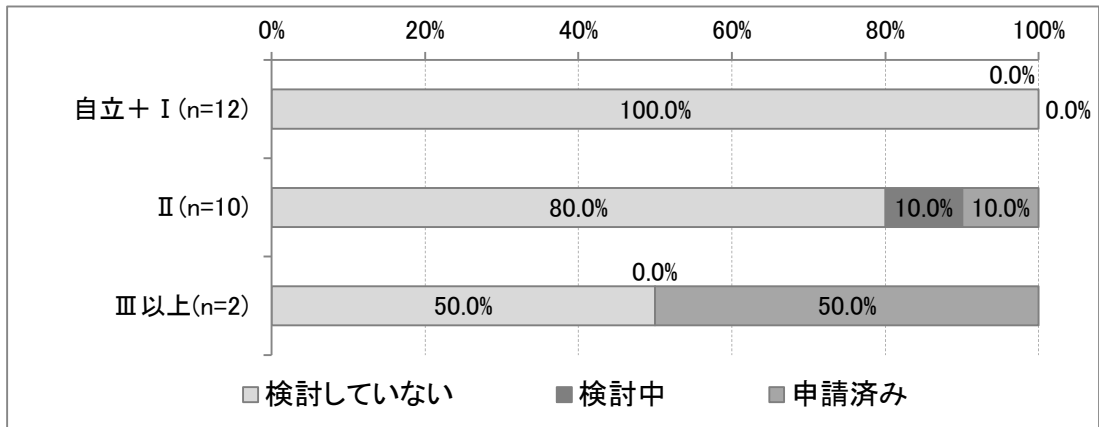
図表 4-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



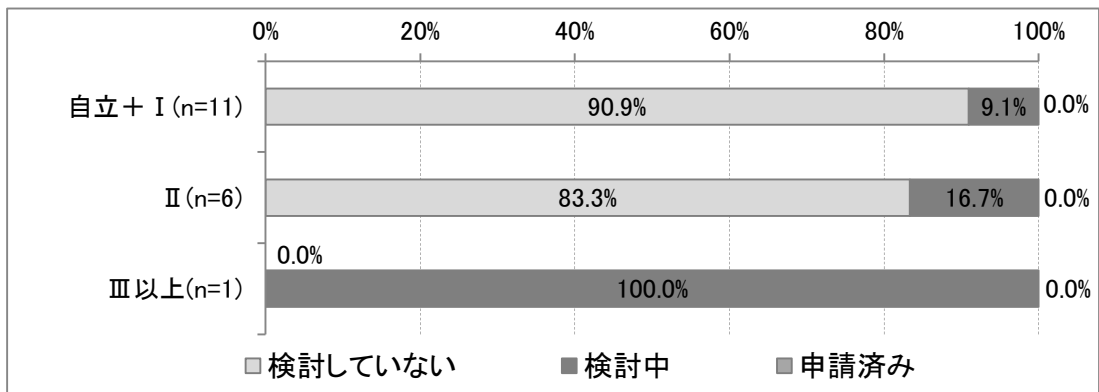
図表 4-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



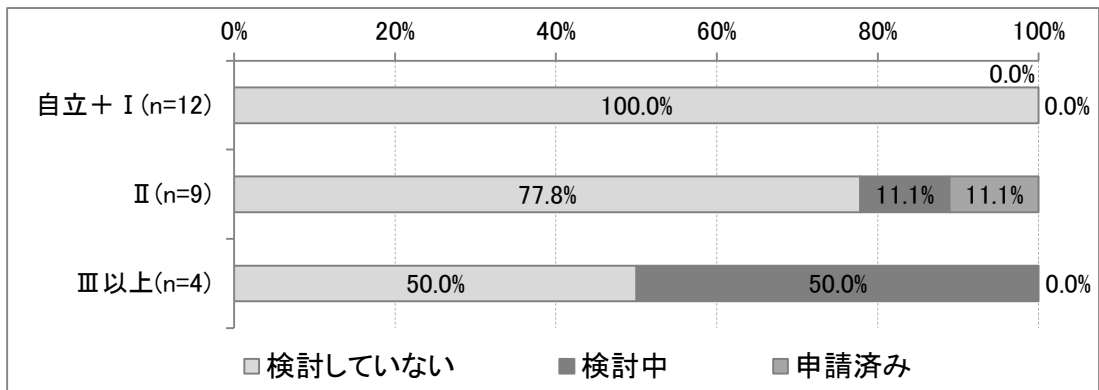
図表 4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



図表 4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



図表 4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）



5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。
- 具体的には、要介護度別・世帯類型別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

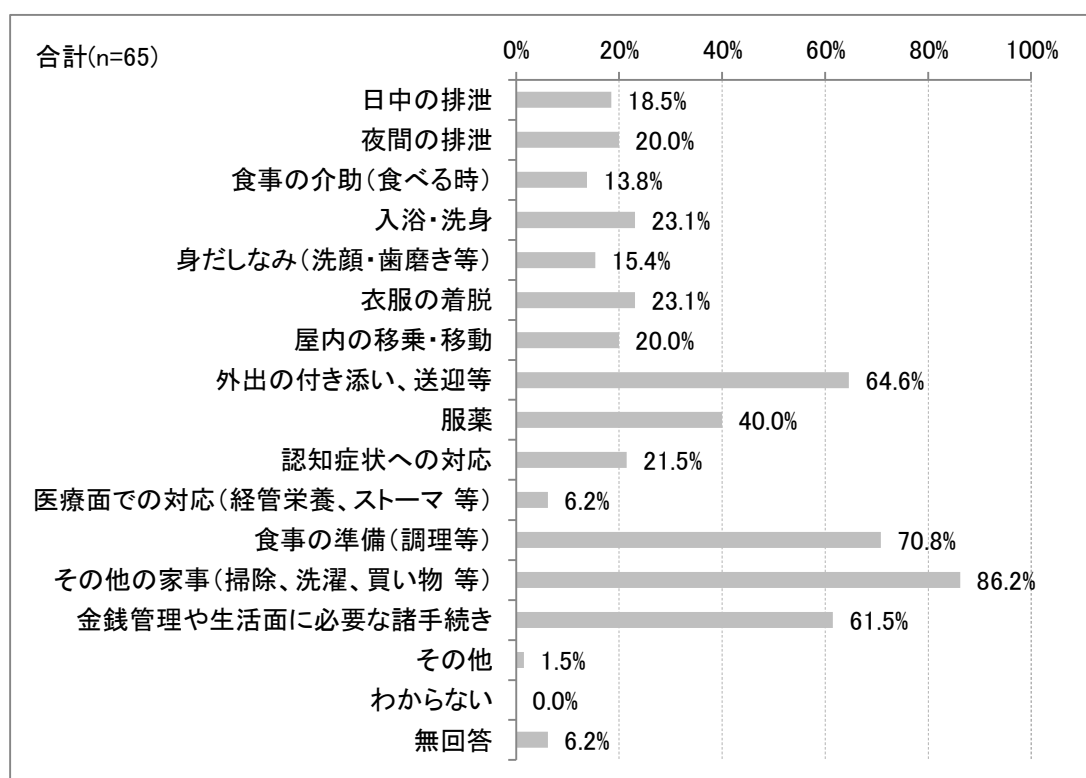
(1) 基礎集計

「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っています（図表 5-1～図表 5-3）。

ここでは、特に「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができます。

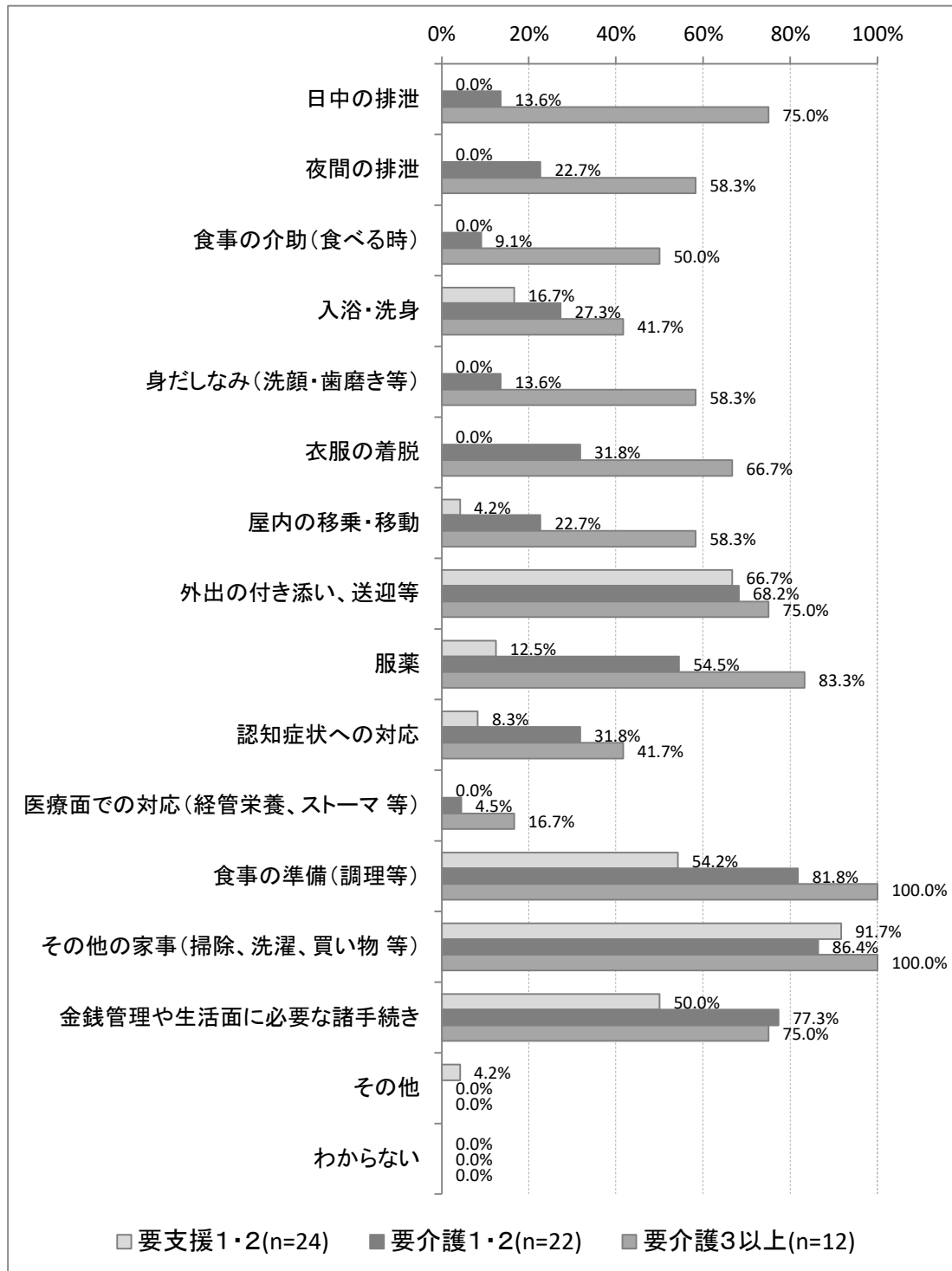
図表 5-1 によると、本町の介護者が「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」を行っている割合は 6.2%（4人）です。

図表 5-1 ★主な介護者が行っている介護



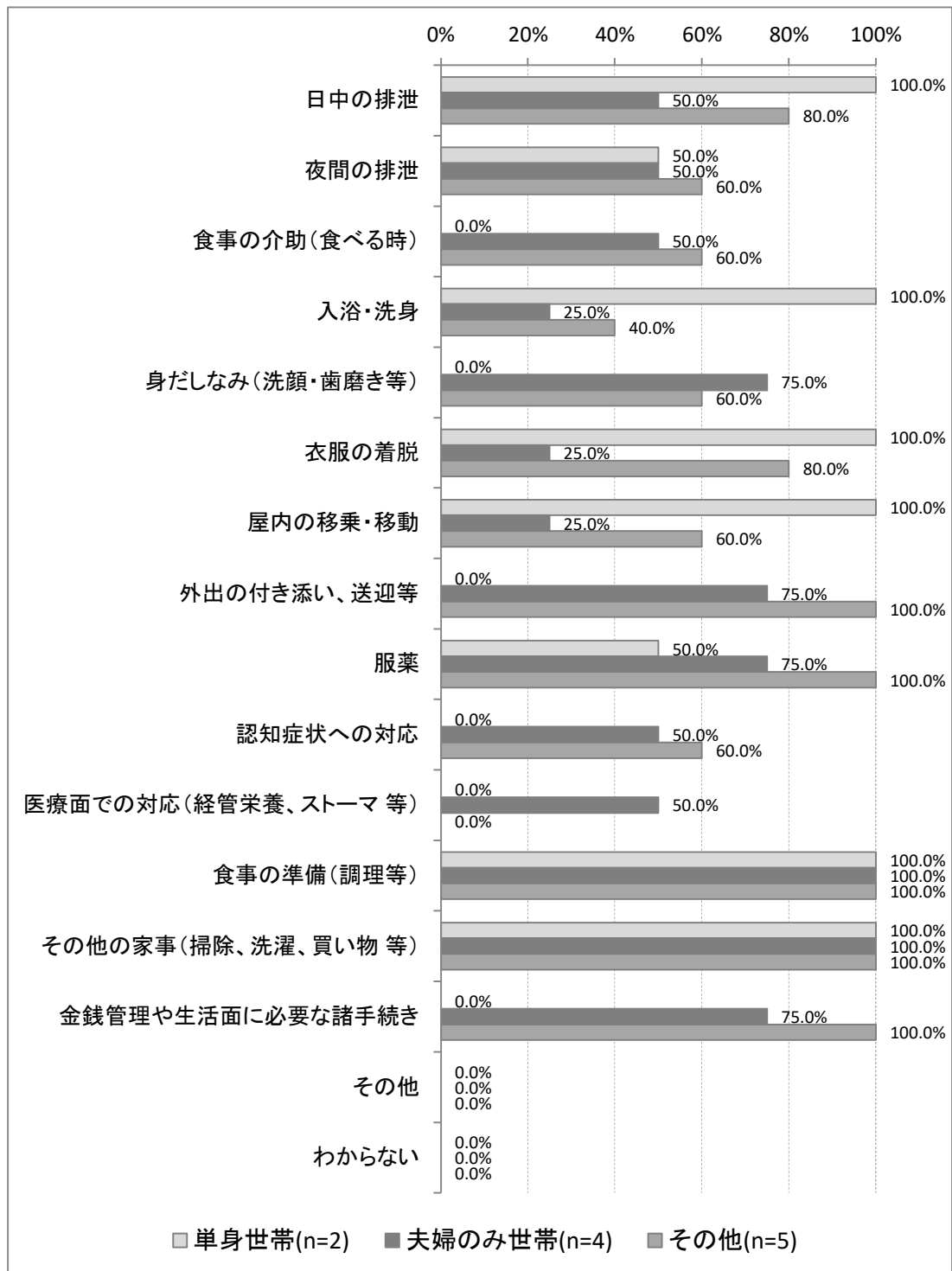
図表 5-2 によると、要介護3以上では、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」の割合は16.7%（2人）となっています。

図表 5-2 要介護度別・★主な介護者が行っている介護



図表 5-3 によると、夫婦のみ世帯では、4人中2人が介護者が要介護者の自宅を訪問して「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」を行っています。単身世帯とその他世帯では、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」を行っているケースはありません。

図表 5-3 世帯類型別・★主な介護者が行っている介護（要介護3以上）

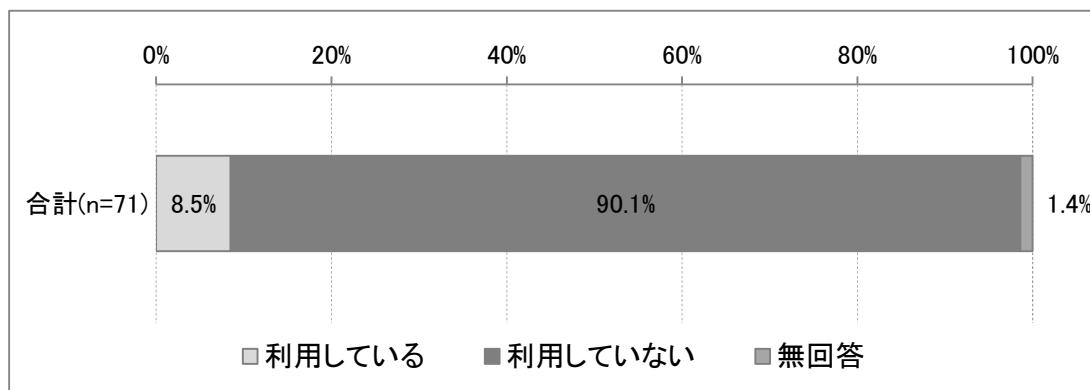


(2) 訪問診療の利用割合

「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています（図表 5-4～図表 5-6）。ここでの「訪問診療」には、訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含まれていません。

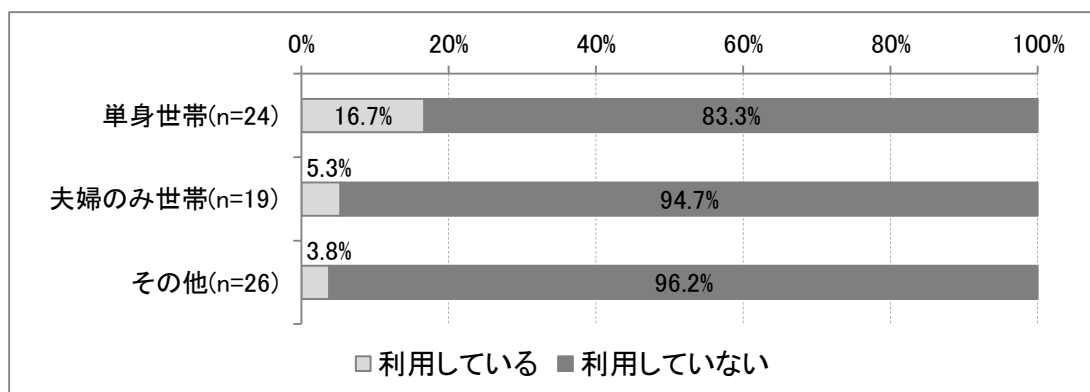
図表 5-4 によると、本町で訪問診療を利用している割合は 8.5%（6 人）です。

図表 5-4 ★訪問診療の利用の有無



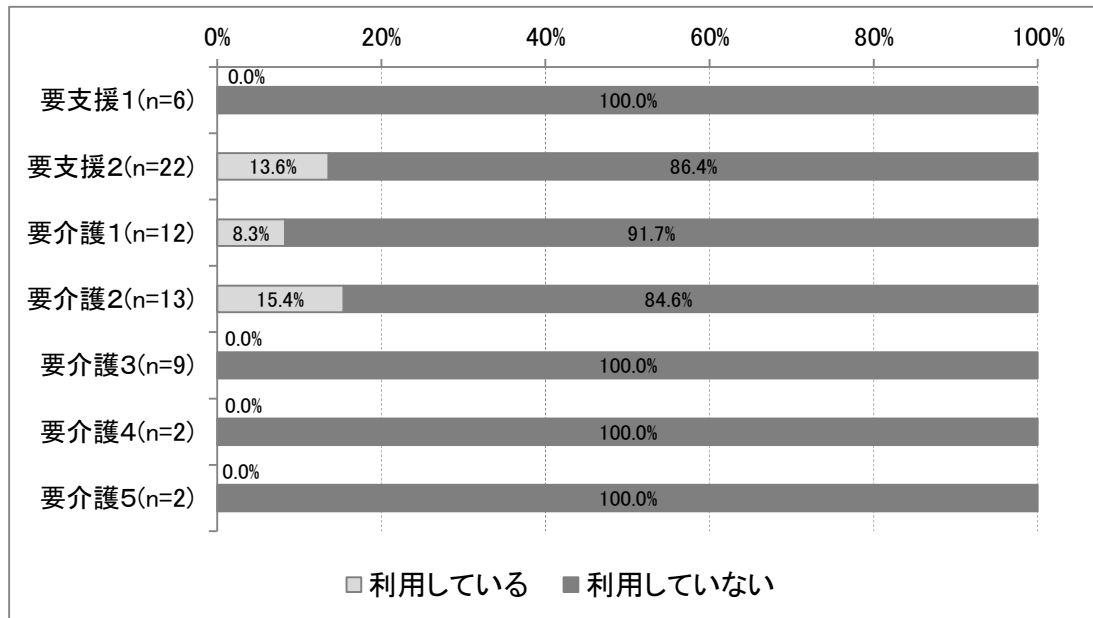
図表 5-5 によると、単身世帯では 16.7%（4 人）が訪問診療を利用しています。

図表 5-5 世帯類型別・★訪問診療の利用割合



図表 5-6 によると、要介護 2 では 13.6%（3 人）、要介護 1 では 8.3%（1 人）、要介護 2 では 15.4%（2 人）が訪問診療を利用しています。

図表 5-6 要介護度別・★訪問診療の利用割合

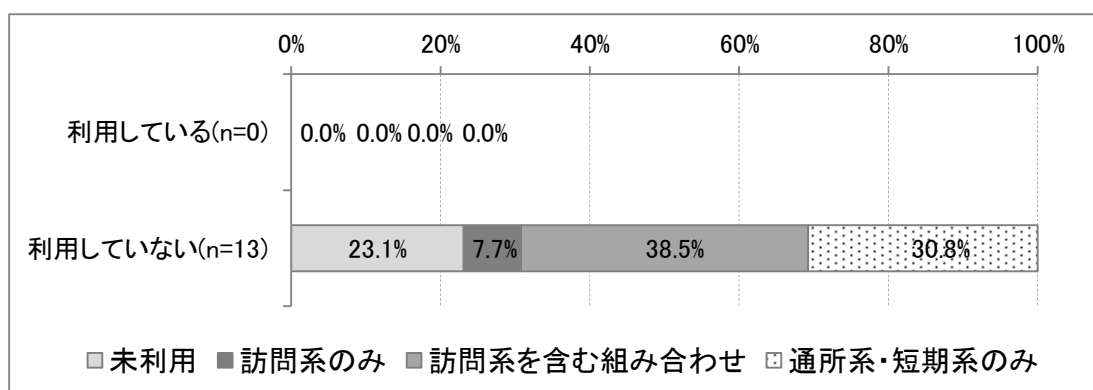


(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

訪問診療の利用の有無別に、要介護 3 以上の「サービス利用の組み合わせ」を集計しています（図表 5-7）。

今回の調査対象者においては、要介護 3 以上で訪問診療を利用している人はいません。

図表 5-7 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護 3 以上）



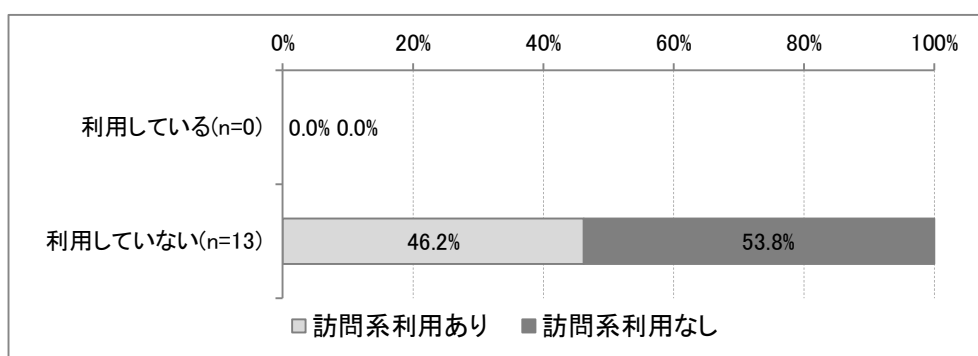
(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています（図表5-8～図表5-10）。

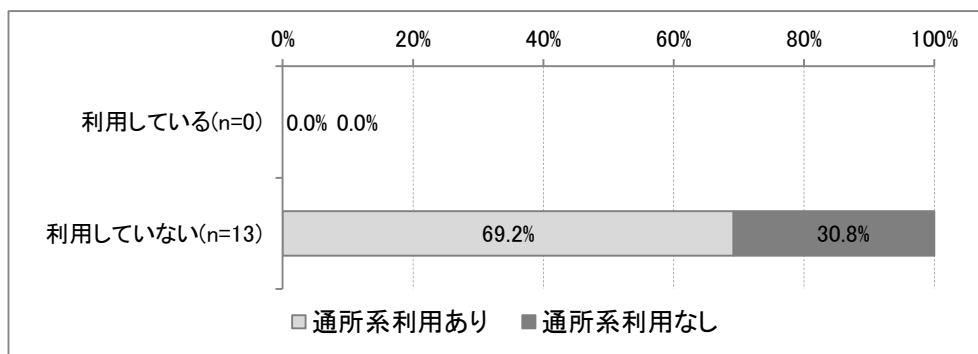
図表5-8では、訪問診療を利用していない13人のうち、46.2%（6人）が「訪問系のみ」または「訪問系を含む組み合わせ」のサービスを利用している状況であり、医療・介護の連携体制を整備する上で留意しておく必要があります。

図表5-9～図表5-10をみると、13人中9人が「通所系」のサービスを利用しており、「短期系」の利用がないことがわかります。

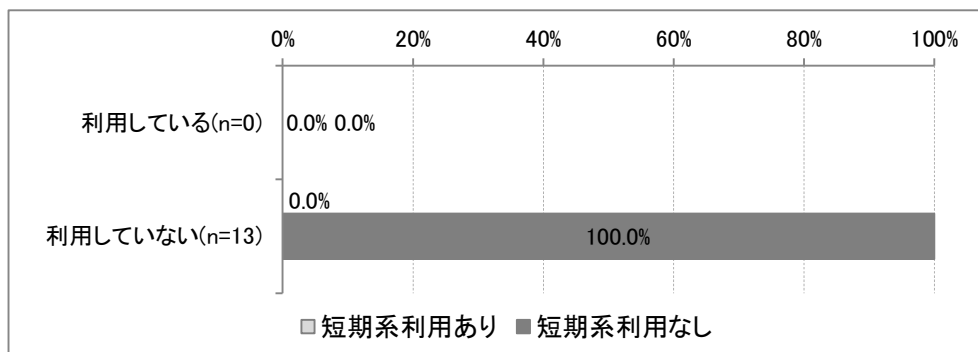
図表5-8 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）



図表5-9 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



図表5-10 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



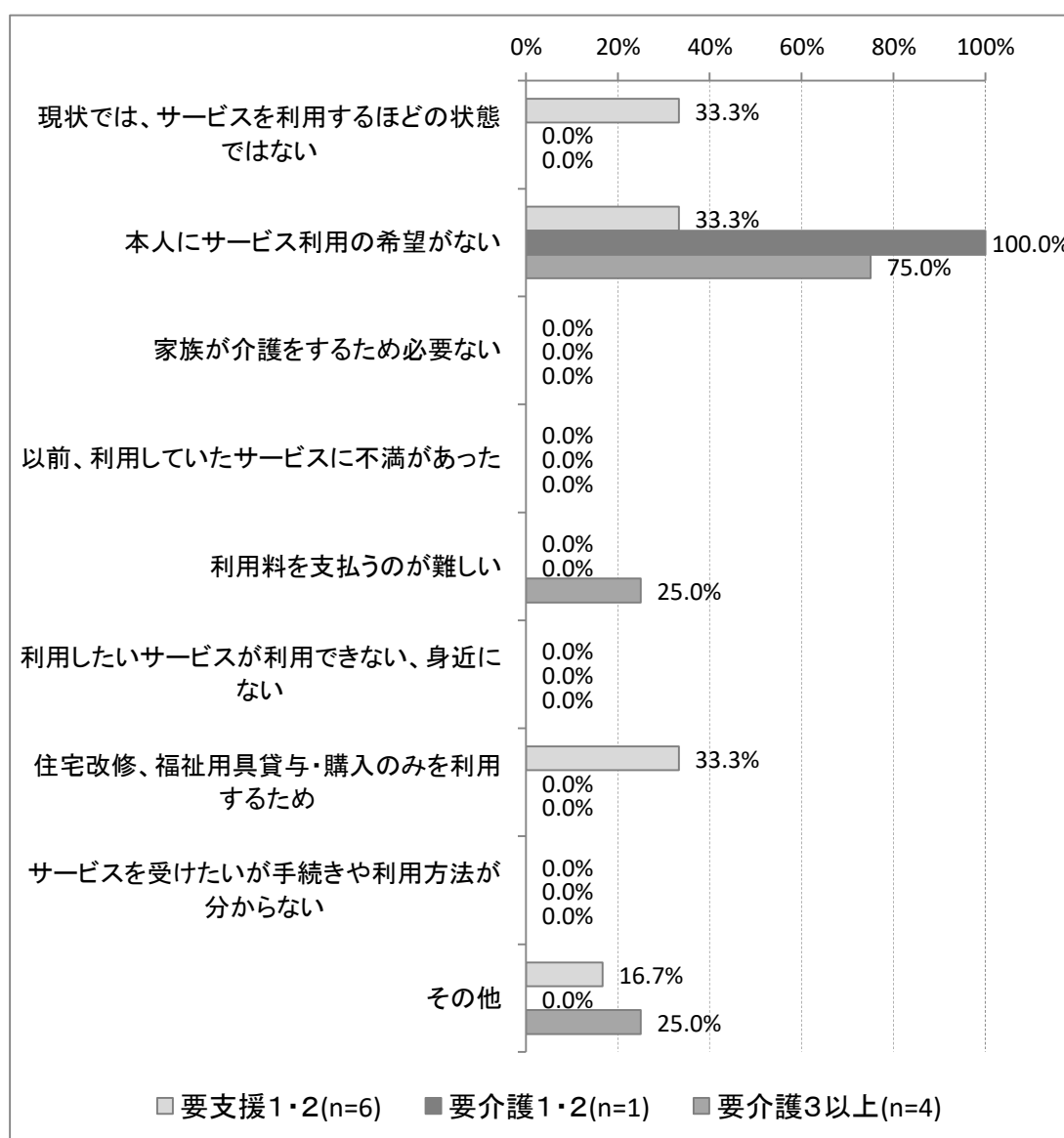
6 サービス未利用の理由など

○ ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。

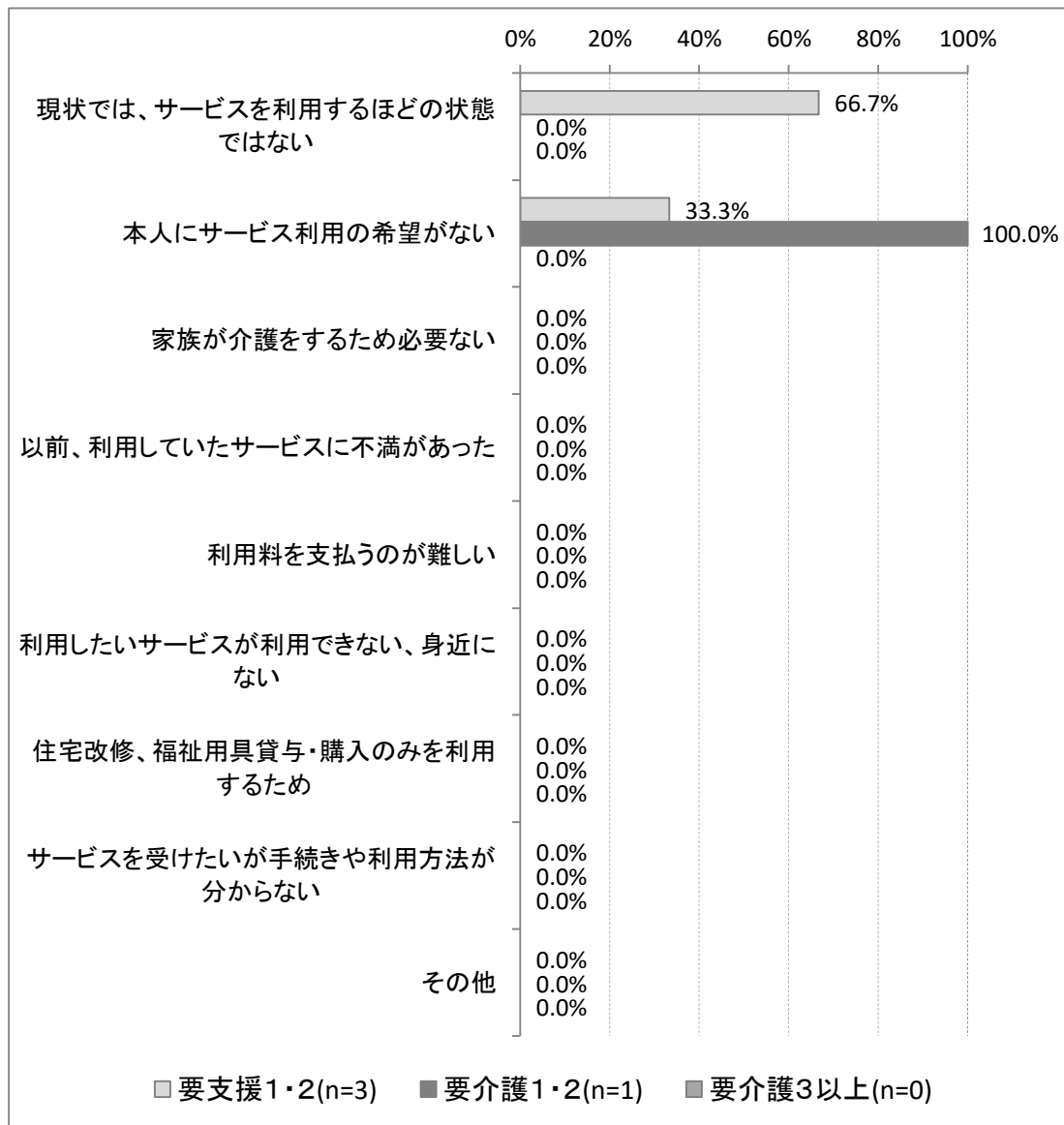
(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

図表 6-1～図表 6-4 は、要介護度別・世帯類型別に、介護保険サービス未利用の理由をみています。標本数が少なく、町の傾向をとらえることは難しいですが、全体として、「本人にサービス利用の希望がない」の割合が高くなっています。

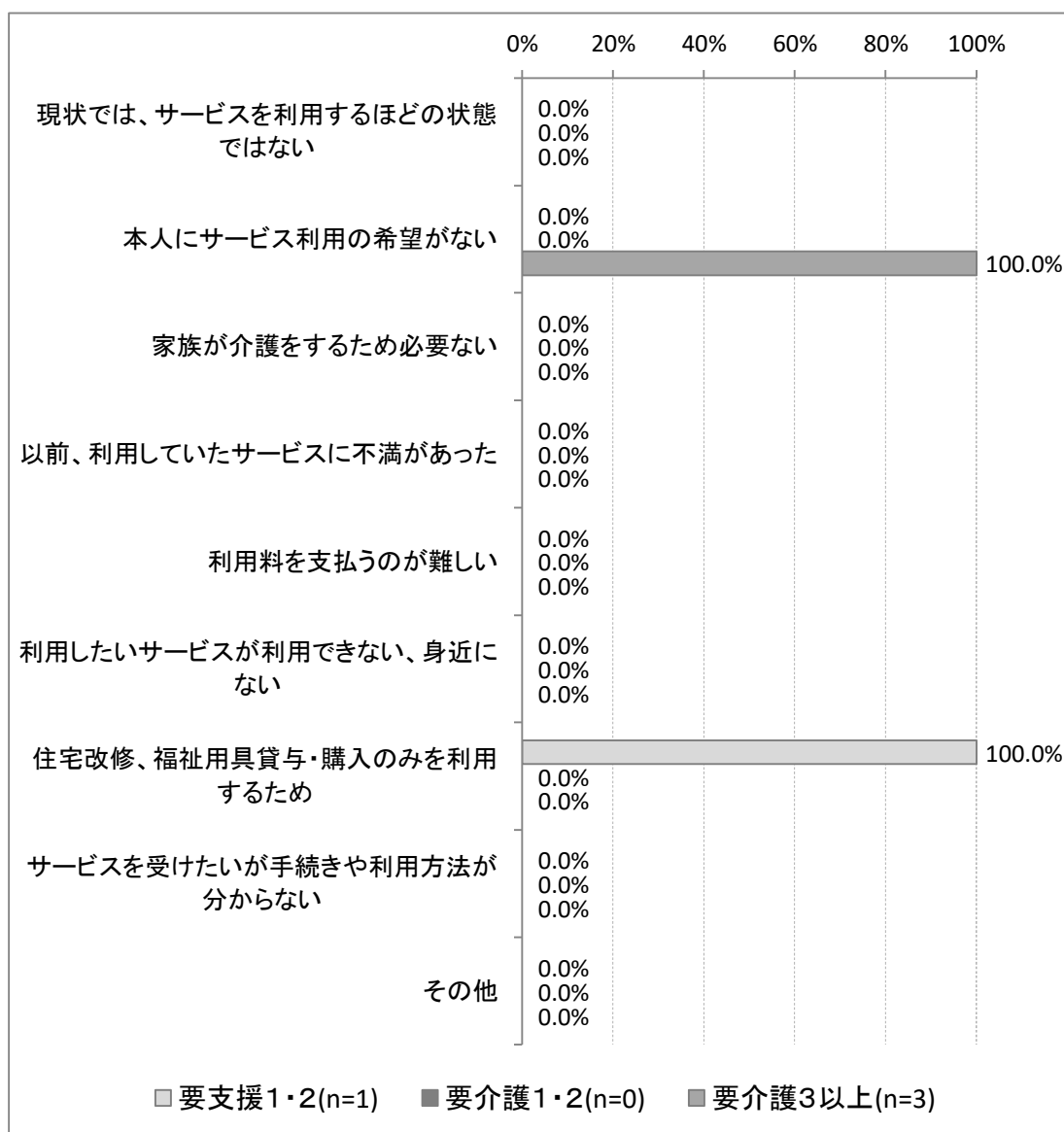
図表 6-1 要介護度別・★サービス未利用の理由（全世帯）



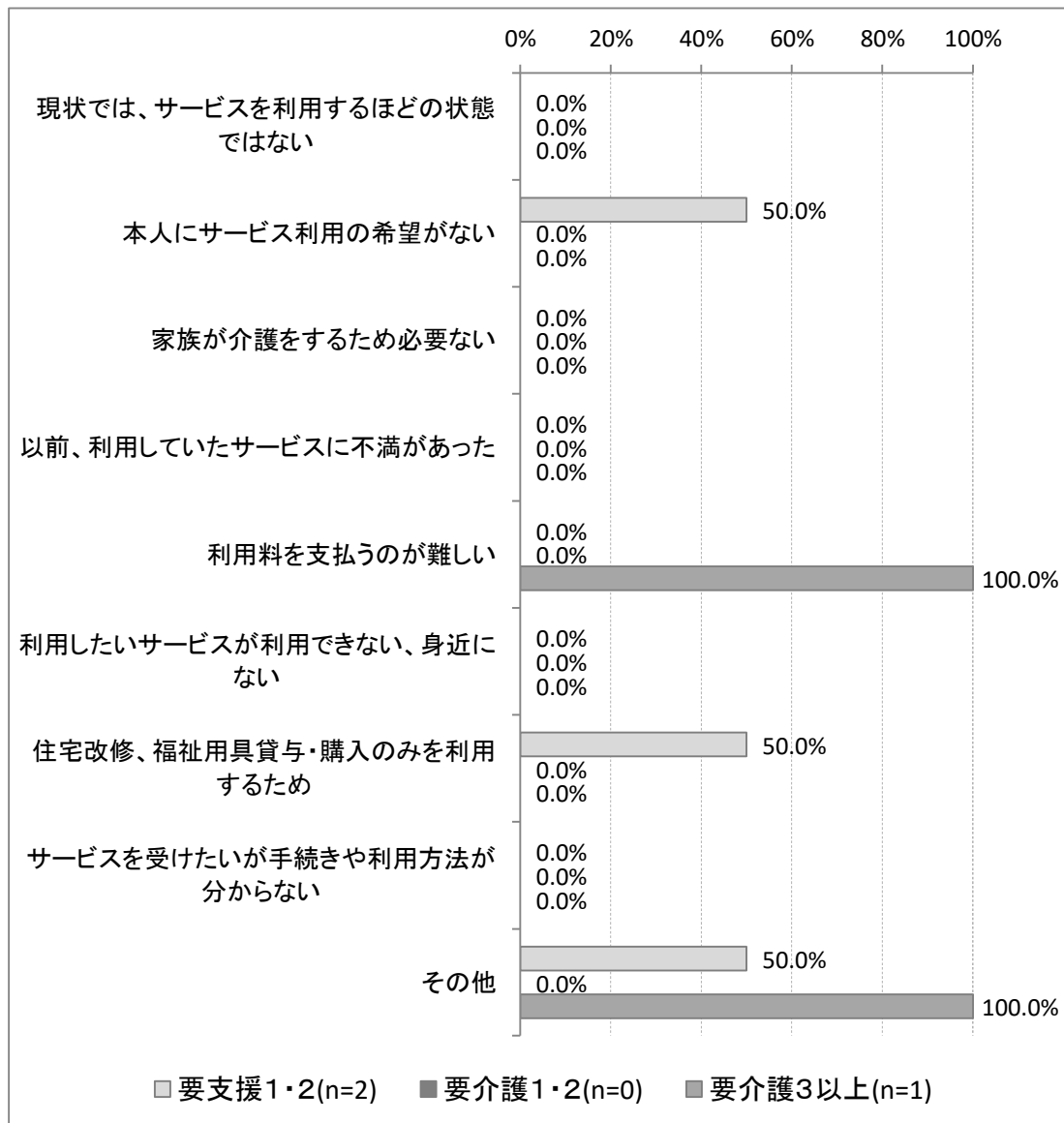
図表 6-2 要介護度別・★サービス未利用の理由（単身世帯）



図表 6-3 要介護度別・★サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



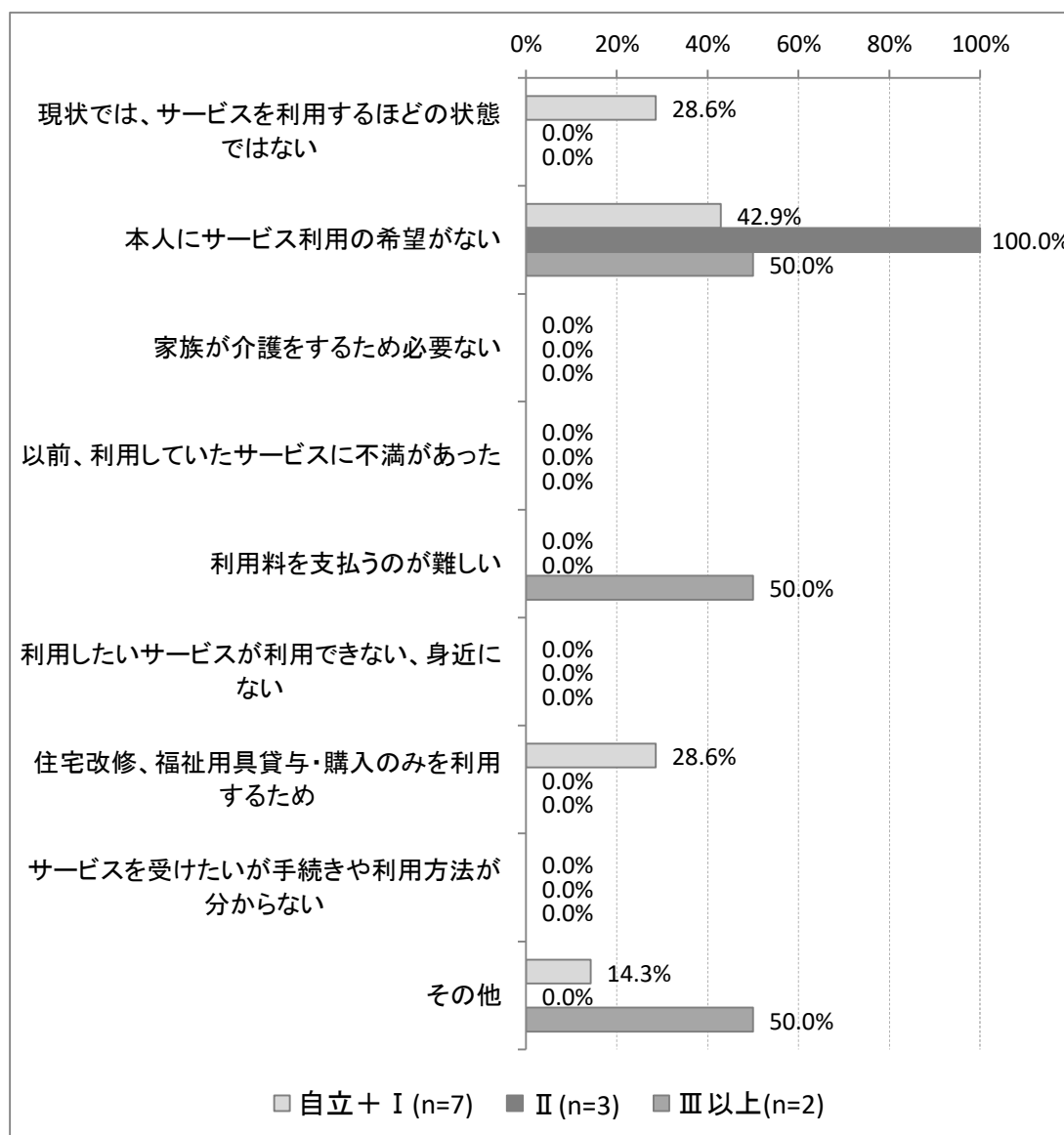
図表 6-4 要介護度別・★サービス未利用の理由（その他世帯）



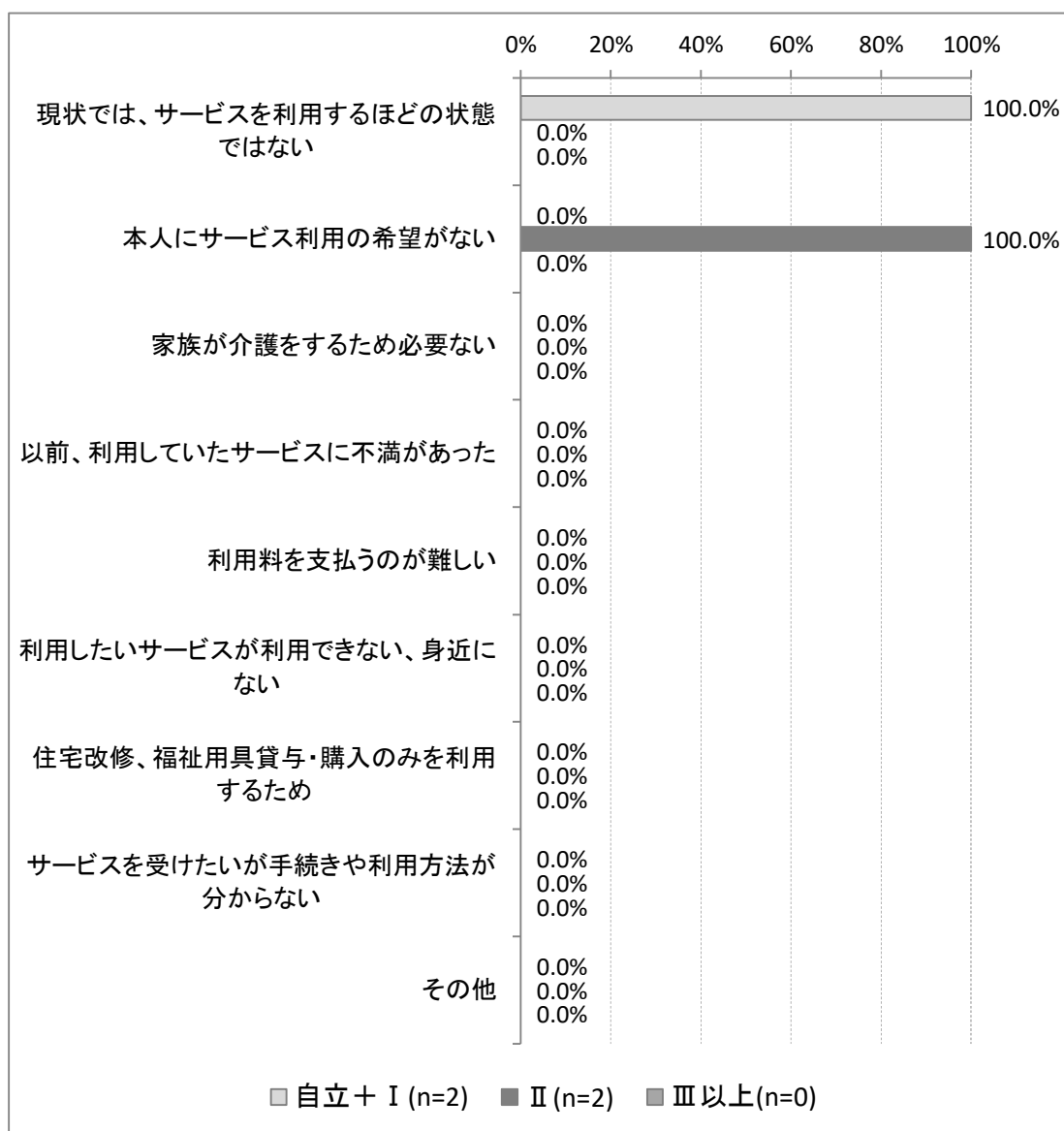
(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

図表 6-5～図表 6-8 は、認知症自立度別・世帯類型別に、介護保険サービス未利用の理由をみています。標本数が少なく、町の傾向をとらえることは難しいですが、全体として、「本人にサービス利用の希望がない」の割合が高くなっています。

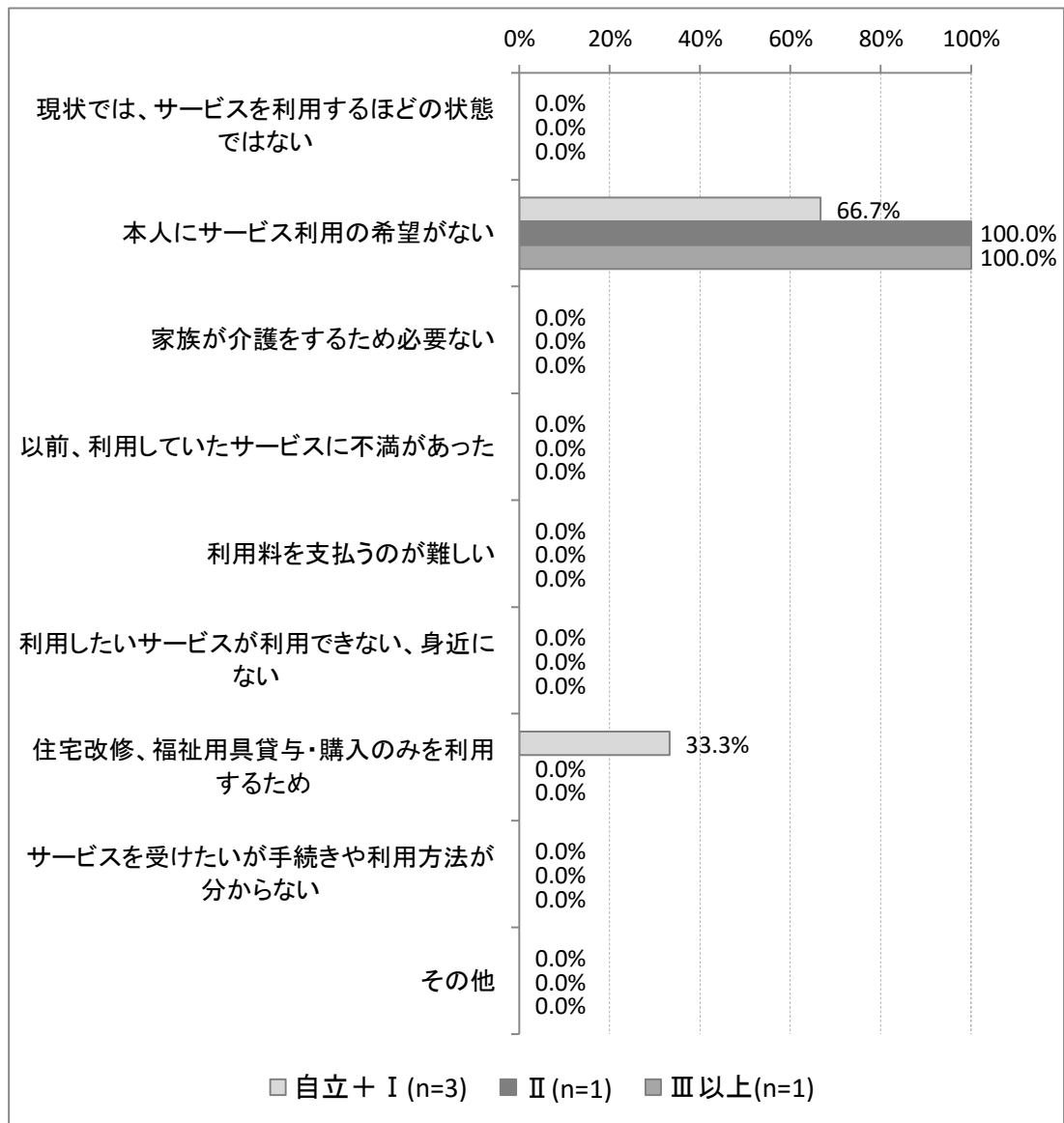
図表 6-5 認知症自立度別・★サービス未利用の理由（全世帯）



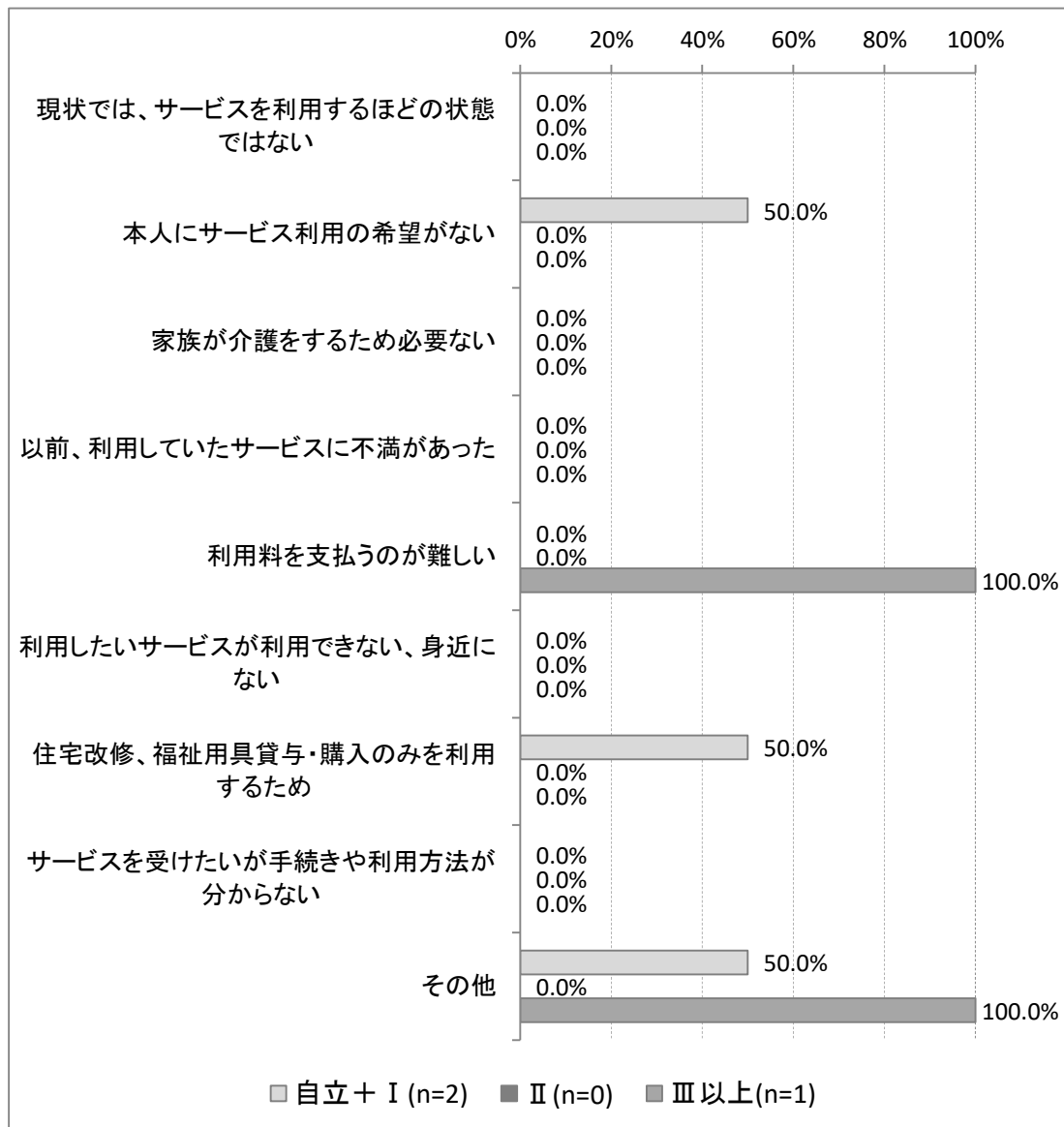
図表 6-6 認知症自立度別・★サービス未利用の理由（単身世帯）



図表 6-7 認知症自立度別・★サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



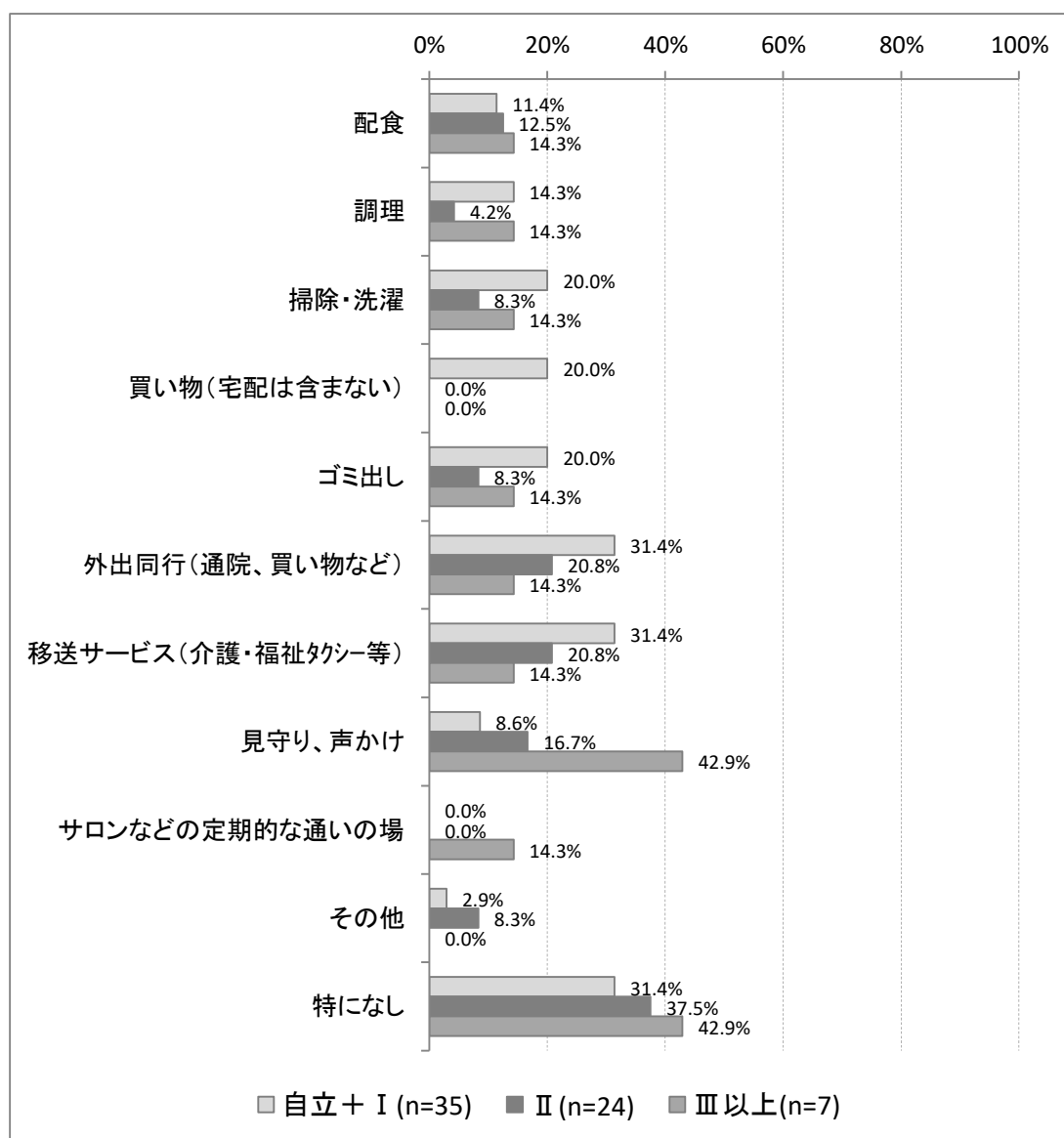
図表 6-8 認知症自立度別・★サービス未利用の理由（その他世帯）



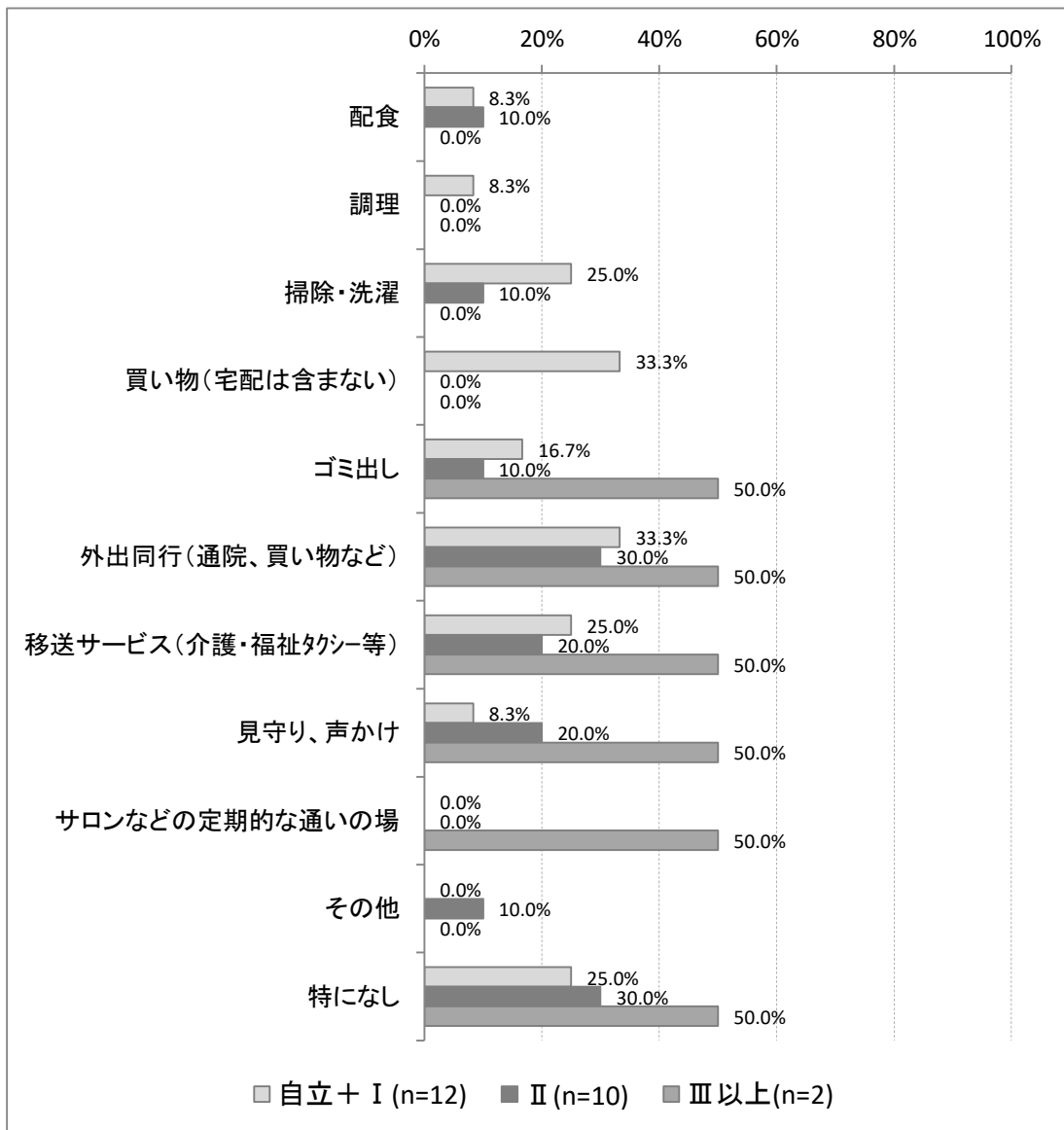
(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

図表 6-9～図表 6-12 は、認知症自立度別・世帯類型別に、今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービスをみています。認知症自立度が重度化するにつれて、「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が低くなっている一方で、「配食」「見守り、声かけ」の割合が高くなっています。また、標本数が少ないため、世帯類型別に町の傾向をとらえることが難しい結果となっていますが単身世帯では必要と感じているサービスが他の世帯に比べて多いことが見て取れます。

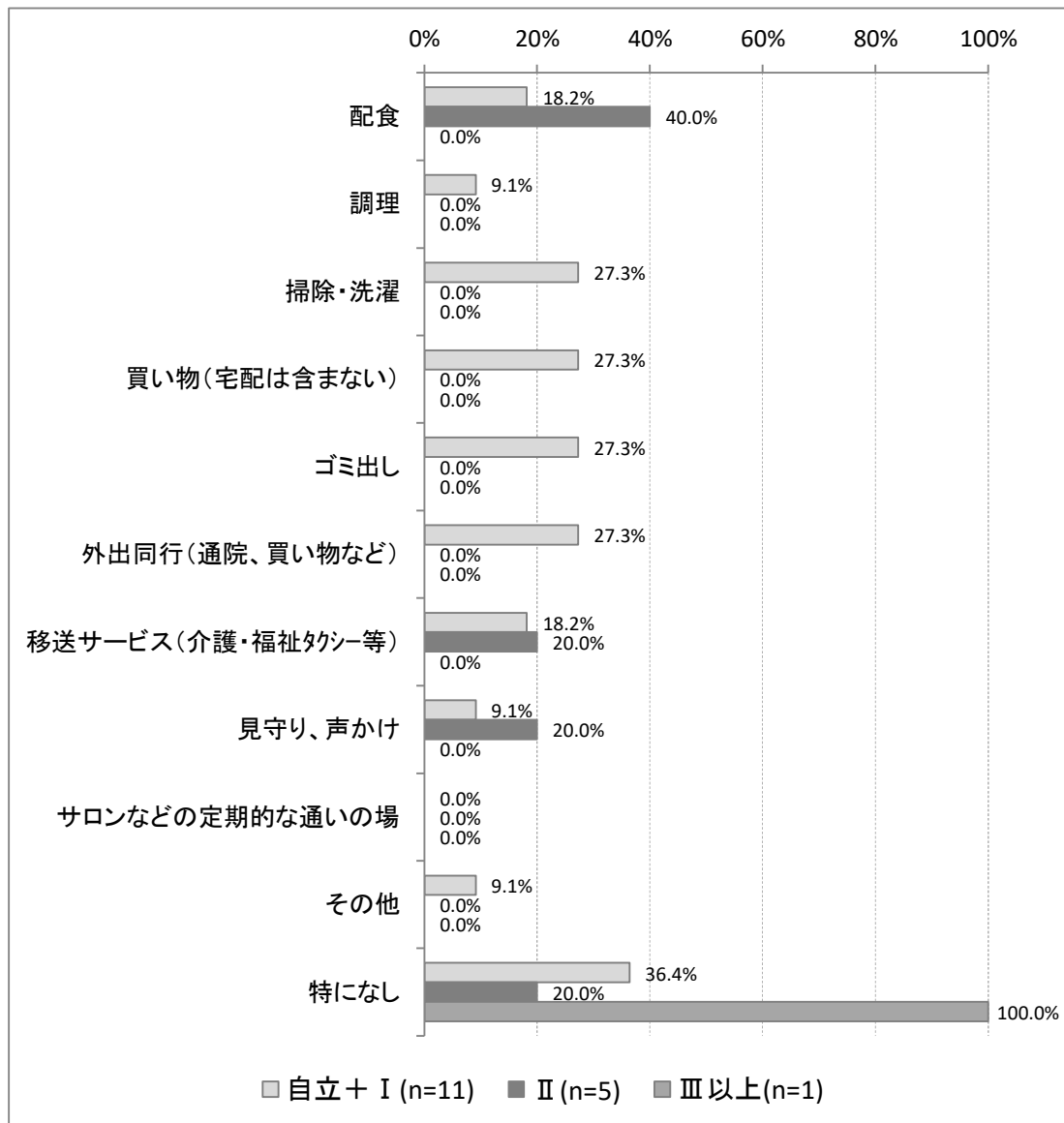
図表 6-9 認知症自立度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（全世帯）



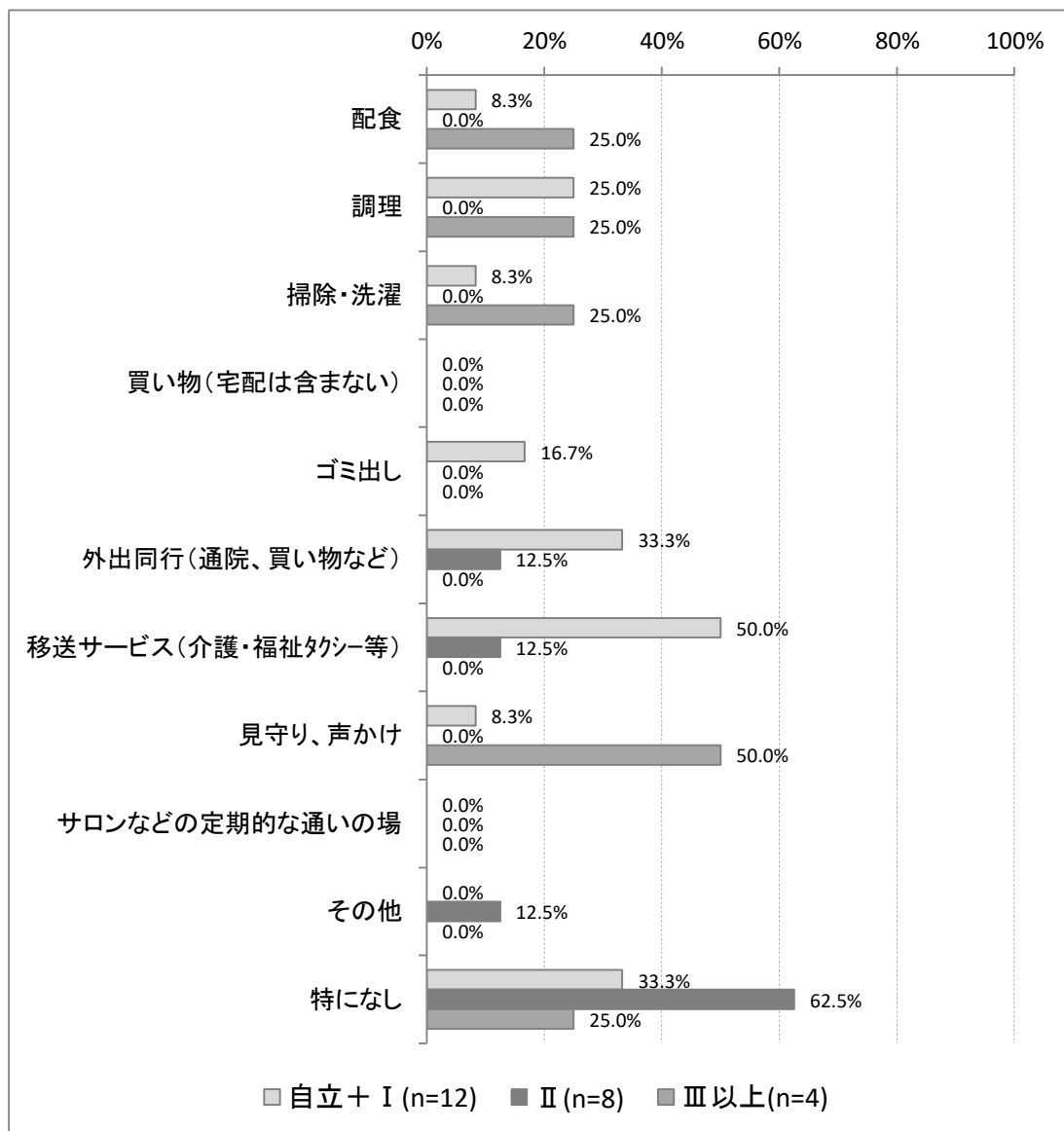
図表 6-10 認知症自立度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



図表 6-11 認知症自立度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



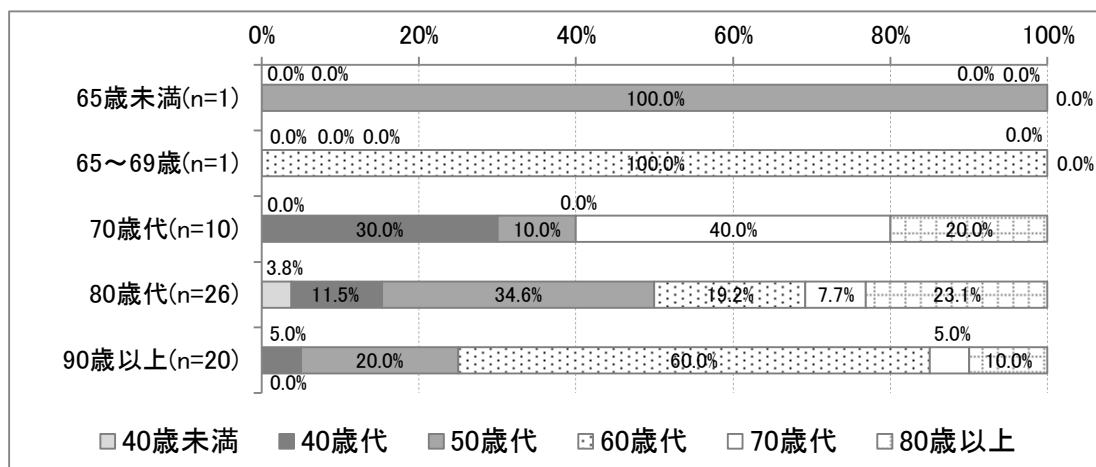
図表 6-12 認知症自立度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

本人の年齢別にみた、主な介護者の年齢は図表 6-13 のとおりです。70 歳代で、主な介護者の年齢が 70 歳以上である人が 6 人います。また、70 歳以上の高齢者を介護している年齢では 60 歳代以上の割合が高くなっていることから、老老介護の実態が見られます。

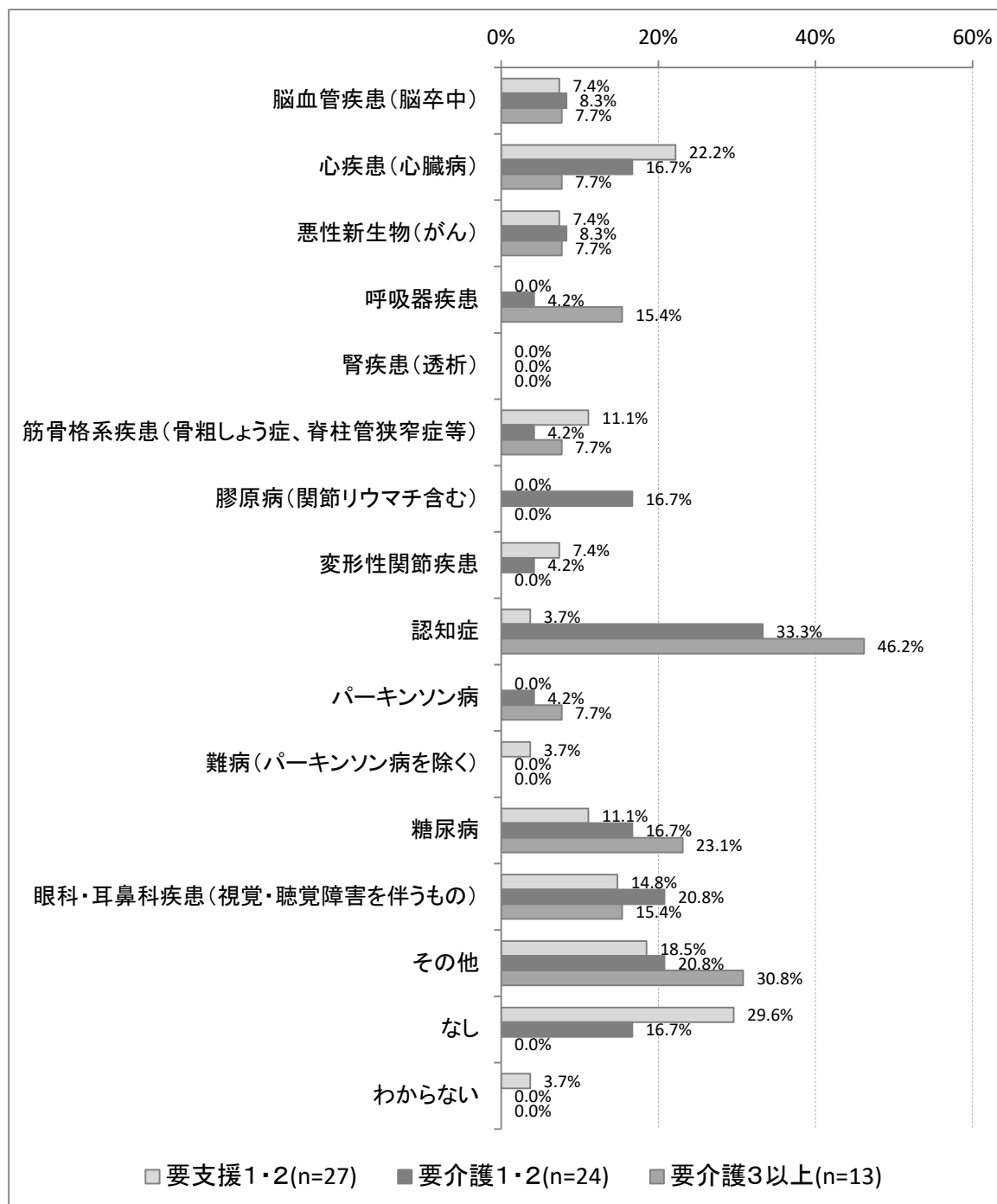
図表 6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢



(5) 要介護度別の抱えている傷病

要介護者が抱えている傷病について、「認知症」が要介護1・2では24人中8人、要介護3以上では13人中6人と高くなっています。

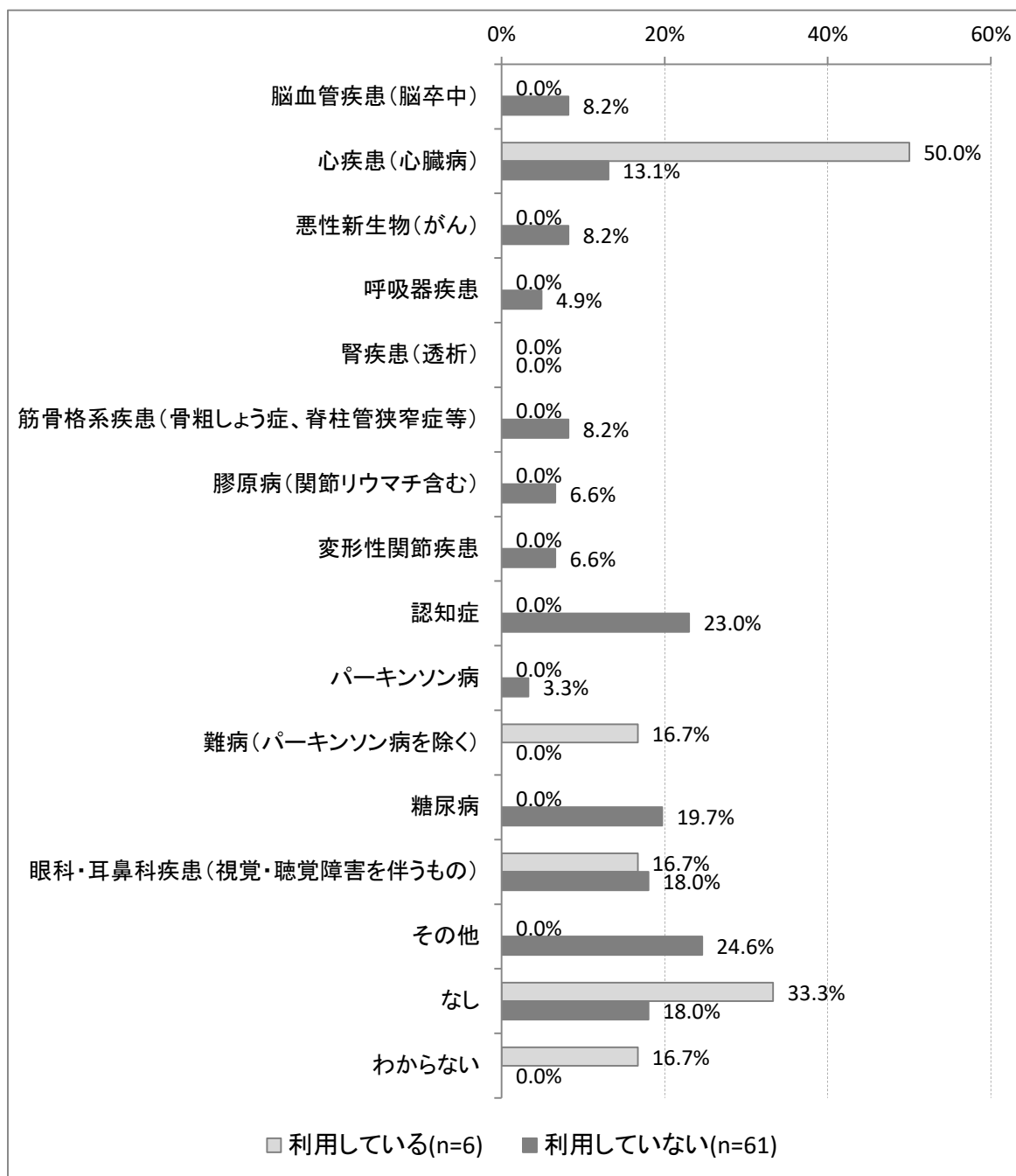
図表 6-14 要介護度別・★抱えている傷病



(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

訪問診療を利用している方では、「心疾患（心臓病）」が50.0%（3人）と最も高くなっています。

図表 6-15 ★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病



第4編 調査票

川西町在宅介護実態調査 ご協力をお願い

日頃から、川西町の福祉施策の推進にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび、介護保険の要介護認定を受けている方を対象に、「在宅介護実態調査」を実施することになりました。

令和4年9月～令和5年2月に要介護認定の更新申請の対象の方及び区分変更申請をされる方を対象に、訪問調査時に聞き取り方式で、実施いたします。

この調査は、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的とし、今後の高齢者保健福祉行政のより一層の計画的かつ効果的な推進と次期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定のために役立てるものです。

なお、ご回答いただきました内容は、すべて統計的に処理し、この調査の目的にのみ使用し、個人情報の保護には万全を期しております。

ご多忙の折、誠に恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解いただきまして、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

川西町長 小澤 晃広

「在宅介護実態調査」に係る要介護認定データ活用の同意について

「在宅介護実態調査」に係る要介護認定データ(認定調査、介護認定審査会のデータ)の活用目的は、以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票の回答をもちまして、下記に同意いただいたものとしますので、ご了承ください。

【要介護認定データの利用目的について】

本調査直近に実施した認定調査に係る、要介護認定データ(認定調査、介護認定審査会のデータ)は、要介護認定及び当町における高齢者等支援施策の検討の際の基礎資料とすることを目的に使用させていただきます。本人の許可なく、目的以外の使用は致しません。

【アンケート調査の回答内容の取扱いについて】

アンケート調査でご回答いただいた内容は、集計・分析をする業者に預託する予定ですが、情報は適切に管理させていただきます。

回答に当たってのお願い

- 1 この調査は、A票はご本人が、B票は主に介護をしている方が記入してください。もし、ご本人が記入できない場合は、ご家族等が記入していただいても構いません。
- 2 設問をお読みいただき、あてはまる番号に○をつけてください。設問によって、「1つを選択」、「複数選択可」など、○をつける数が異なりますので、ご注意ください。なお、「その他」を選択された場合は、()内に具体的な内容を記入してください。
- 3 ご回答は、調査日現在の状況を記入してください。

【調査についてのお問い合わせ先】

川西町長寿介護課 電話 0745-44-2635

※お問い合わせ時間:平日の午前8時30分から午後5時00分まで

被保険者番号[_____]

【A票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか】（複数選択可）

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| 1. 調査対象者本人 | 2. 主な介護者となっている家族・親族 |
| 3. 主な介護者以外の家族・親族 | 4. 調査対象者のケアマネジャー |
| 5. その他() | |

A票 認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

問1 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)

- | | | |
|---------|-----------|--------|
| 1. 単身世帯 | 2. 夫婦のみ世帯 | 3. その他 |
|---------|-----------|--------|

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

- | | |
|----------------------------|-----------|
| 1. ない | } 問8(裏面)へ |
| 2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない | |
| 3. 週に1～2日ある | |
| 4. 週に3～4日ある | |
| 5. ほぼ毎日ある | |

} 問3へ

問3 主な介護者の方は、どなたですか(1つを選択)

- | | | |
|--------|----------|----------|
| 1. 配偶者 | 2. 子 | 3. 子の配偶者 |
| 4. 孫 | 5. 兄弟・姉妹 | 6. その他 |

問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください(1つを選択)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 20歳未満 | 2. 20代 | 3. 30代 |
| 4. 40代 | 5. 50代 | 6. 60代 |
| 7. 70代 | 8. 80歳以上 | 9. わからない |

問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください(複数選択可)

〔身体介護〕

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ 等) | |

〔生活援助〕

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

〔その他〕

- | | |
|---------|-----------|
| 15. その他 | 16. わからない |
|---------|-----------|

問7 ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可)

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く) | 2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く) |
| 3. 主な介護者が転職した | 4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した |
| 5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない | 6. わからない |

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

● ここから再び、全員に調査してください。

問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください(複数選択可)

- | | | |
|-----------------------|-------------|-------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 | 3. 掃除・洗濯 |
| 4. 買い物(宅配は含まない) | 5. ゴミ出し | 6. 外出同行(通院、買い物など) |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等) | 8. 見守り、声かけ | 9. サロンなどの定期的な通いの場 |
| 10. その他 | 11. 利用していない | |

問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可)

- | | | |
|-----------------------|------------|-------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 | 3. 掃除・洗濯 |
| 4. 買い物(宅配は含まない) | 5. ゴミ出し | 6. 外出同行(通院、買い物など) |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等) | 8. 見守り、声かけ | 9. サロンなどの定期的な通いの場 |
| 10. その他 | 11. 特になし | |

※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

問10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 入所・入居は検討していない | 2. 入所・入居を検討している |
| 3. すでに入所・入居申し込みをしている | |

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

問 11 ご本人(認定調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください(複数選択可)

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 脳血管疾患(脳卒中) | 2. 心疾患(心臓病) |
| 3. 悪性新生物(がん) | 4. 呼吸器疾患 |
| 5. 腎疾患(透析) | 6. 筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等) |
| 7. 膠原病(関節リウマチ含む) | 8. 変形性関節疾患 |
| 9. 認知症 | 10. パーキンソン病 |
| 11. 難病(パーキンソン病を除く) | 12. 糖尿病 |
| 13. 眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの) | 14. その他 |
| 15. なし | 16. わからない |

問 12 ご本人(認定調査対象者)は、現在、訪問診療を利用していますか(1つを選択)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
|-----------|------------|

※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

問 13 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用していますか(1つを選択)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
|-----------|------------|

● 問 13 で「2.」を選択した場合は、問 14 も回答してください。

問 14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか(複数選択可)

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない | 2. 本人にサービス利用の希望がない |
| 3. 家族が介護をするため必要ない | 4. 以前、利用していたサービスに不満があった |
| 5. 利用料を支払うのが難しい | 6. 利用したいサービスが利用できない、身近にない |
| 7. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため | |
| 8. サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない | 9. その他 |

● 問2で「2.」～「5.」を選択し、さらに「主な介護者」が調査に同席している場合は、「主な介護者」の方に **B 票** へのご回答・ご記入をお願いしてください。

● 「主な介護者」の方が同席されていない場合は、ご本人(調査対象者の方)にご回答・ご記入をお願いしてください(ご本人にご回答・ご記入をお願いすることが困難な場合は、無回答で結構です)。

※主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入(調査票の該当する番号に○)をお願い致します。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

- | | | |
|-----------------------|---|---------|
| 1. フルタイムで働いている | } | 問2へ |
| 2. パートタイムで働いている | | |
| 3. 働いていない | } | 問5(裏面)へ |
| 4. 主な介護者に確認しないと、わからない | | |

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」、「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか(3つまで選択可)

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない | 2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実 |
| 3. 制度を利用しやすい職場づくり | 4. 労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など) |
| 5. 働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど) | 6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供 |
| 7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置 | 8. 介護をしている従業員への経済的な支援 |
| 9. その他 | 10. 特にない |
| 11. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

問4 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか(1つを選択)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 問題なく、続けていける | 2. 問題はあるが、何とか続けていける |
| 3. 続けていくのは、やや難しい | 4. 続けていくのは、かなり難しい |
| 5. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

⇒ 裏面へお進みください

● ここから再び、全員の方にお伺いします。

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください
(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

〔身体介護〕

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ 等) | |

〔生活援助〕

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

〔その他〕

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 15. その他 | 16. 不安に感じていることは、特にない |
| 17. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

川西町

第10次高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画
策定のための在宅介護実態調査報告書

令和5年3月

川西町 長寿介護課

〒636-0202 奈良県磯城郡川西町大字結崎28番地の1